

教 官 個 人 研 究 業 績

2001年

長崎大学薬学部・大学院薬学研究科

講座	専門分野	教授	助教授	助手
医療薬剤学	細胞制御学	河野通明	尾崎恵一	谷村 進
	薬剤学	中村純三	西田孝洋	川上 茂
	分子病態学	小林信之	村田 興	渡邊 健
	分子薬理学	植田弘師	吉田 明	水野恭伸
医薬品設計学	薬化学	藤田佳平衛	袁 徳其	福留 誠
	薬品製造化学	畑山 範	岩淵好治	江角朋之
	医薬品合成化学	松村功啓	尾野村 治	真木俊英
	機能性分子化学	甲斐雅亮	八木沢皓記	太田和子
保健衛生薬学	衛生化学	中山守雄	原武 衛	
	薬品分析化学	黒田直敬	大庭義史	岸川直哉
	放射線生命科学	渡邊正己	児玉靖司	鈴木啓司
医薬品資源学	生薬学	河野 功	田中 隆	姜 志宏
	薬品生物工学	芳本 忠	伊藤 潔	椛島 力
	附属薬用植物園		山本浩文	北村美江

協力講座(平成13年度から)

	助教授
機器分析センター	富永義則

薬学研究科(独立専攻)

臨床薬学専攻

	教授	助教授	助手
薬物治療学	村田育夫	塚本和弘	柳原克紀
医療情報解析学	中島憲一郎	高橋正克	中嶋弥穂子

協力講座

	教授	助教授	講師
臨床薬学講座	石井伸子		中尾一彦
治療薬学講座	佐々木 均	中嶋幹郎	
感染症予防治療学講座		大石和徳	

平成13年末名簿

(講座) 分子創薬科学
(氏名) 河野通明

(研究室) 細胞制御学
(職名) 教授

研究テーマ

1. MAP キナーゼ系の機能亢進と細胞がん化の相関
2. MAP キナーゼ系の機能性御を指標とした新規抗癌剤の開発
3. 骨形成因子の生理機能、及び作用発現シグナル系の解析
4. 微小管機能阻害によるアポトーシス誘導機構の解明

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. R. Hoshino, S. Tanimura, K. Watanabe, T. Kataoka and M. Kohno: Blockade of the extracellular signal-regulated kinase pathway induces marked G1 cell cycle arrest and apoptosis in tumor cells in which the pathway is constitutively activated: Up-regulation of p27^{Kip1}, J. Biol. Chem., 276, 2686-2692 (2001).
2. K. Ozaki, R. Kadomoto, K. Asato, S. Tanimura, N. Itoh and K. Kohno: ERK pathway positively regulates the expression of Sprouty genes, Biochem. Biophys. Res. Commun., 285, 1084-1088, (2001).

B 邦文

(B-b) 総説

1. 渡邊一石、河野通明：微小管作用薬—古くて新しい抗腫瘍剤—、最新医学、56 巻、390-397 頁、2001 年。

(B-c) 著書

1. 河野通明、野元 裕：細胞増殖因子(分担執筆)、タンパク質と核酸の分離精製(寺田 弘編集、廣川書店)、184-198 頁、2001 年。

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 細川禎久、星野理香、谷村進、渡邊一石、河野通明：PI3 キナーゼ/Akt 系の特異的遮断が癌化学療法剤の効果に及ぼす影響、第 5 回がん分子標的治療研究会総会、東京(2001)
2. 谷村進、角本亮一、安里圭太、田中隆、河野功、河野通明：植物ポリフェノールの抗 Matrix metalloproteinase 活性、第 5 回がん分子標的治療研究会総会、東京(2001)
3. 渡邊一石、谷村進、河野通明：微小管作用薬は p27Kip1 の量的制御を介して癌細胞にアポトーシスを誘導する、第 60 回日本癌学会総会、横浜(2001)

4. 河野通明、谷村進、星野理香、渡辺一石：増殖 / 生存シグナルの特異的遮断は微小管作用薬の抗腫瘍作用を相乗的に増強する、第 60 回日本癌学会総会、横浜（2001）
5. 野村佳代、谷村進、河野通明：NGF の PC12 細胞に対する分化誘導作用の発現における ERK-MAP キナーゼおよび p38 MAP キナーゼの役割、第 74 回日本生化学会大会、京都（2001）
6. 尾崎恵一、宮崎沙月、Gerhard Christofori、伊藤信行、河野通明：ERK-MAPK 系によって誘導される負のシグナル調節因子 - Sprouty、第 74 回日本生化学会大会、京都（2001）
7. 谷村進、河野通明：Heat Shock Protein 70 結合タンパク質 HspBP1 の機能解析、第 74 回日本生化学会大会、京都（2001）
8. 有田健雄、谷村進、河野通明：骨形成因子 - 2 は神経芽細胞腫の増殖を抑制する、第 74 回日本生化学
9. 尾崎恵一、宮崎沙月、伊藤信行、Gerhard Christofori、河野通明：FGF シグナル抑制因子 Sprouty の Characterization、第 24 回日本分子生物学会年会、横浜（2001）
10. 藤原雄介、川畑拓誠、細川禎久、谷村進、河野通明：生存シグナルの遮断が癌化学療法剤の効果におよぼす影響、第 18 回日本薬学会九州支部大会、熊本（2001）

学会役員等

1. 河野通明・教授、日本生化学会、評議員
2. 河野通明・教授、がん分子標的治療研究会、世話人
3. 河野通明・教授、日本薬学会、九州支部幹事

研究費取得状況

1. MAP キナーゼカスケードを構成するシグナル分子を標的とした細胞増殖阻害物質の検索、文部省科学研究費特定領域研究 (C) (2)・代表・860 万円
2. MAP キナーゼ系を構成するシグナル分子を標的とした細胞機能制御物質の開発、文部省科学研究費(B) (2)・代表・360 万円
3. チューブリン重合阻害剤の抗腫瘍効果発現機構に対する再検討、文部省科学研究費萌芽的研究・代表・180 万円
4. MAP キナーゼ系遮断剤とチューブリン重合阻害剤の組み合わせによる新しい癌化学療法の開発、がん研究振興財団研究助成金・代表・120 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	55	編	（和文）	0	編
総説（欧文）	0	編	（和文）	17	編
著書（欧文）	2	編	（和文）	5	編
紀要（欧文）	0	編	（和文）	5	編
特許	2	件			

(講座)分子創薬科学 (研究室)細胞制御学
(氏名)尾崎恵一 (職名)助教授

研究テーマ

1. 新規な細胞増殖制御因子とその制御メカニズムの解明に関する研究
2. epigeneticな遺伝子の不活性化機構と癌に関する研究
3. チロシンキナーゼ型orphan 受容体の生理機能解明に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K.Ozaki, R.Kadomoto, K.Asato, S.Tanimura, N.Itoh and M. Kohno: ERK pathway positively regulates the expression of Sprouty genes. *Biochem.Biophys.Res.Commun.* **285**, 1084-1088 (2001)

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 尾崎恵一、宮崎沙月、Gerhard Christofori、伊藤信行、河野通明：ERK-MAPK系によって誘導される負のシグナル調節因子:Sprouty、第74回 日本生化学会大会、京都(2001)
2. 尾崎恵一、宮崎沙月、伊藤信行、Gerhard Christofori、河野通明：FGFシグナル抑制因子SproutyのCharacterization、第24回 日本分子生物学会年会、横浜(2001)

研究費取得状況

1. MAPキナーゼ系を構成するシグナル分子を標的とした細胞機能制御物質の開発
文部科学省科学研究費 基盤研究(B)(2)・分担

[過去の研究業績総計]

原著論文	(欧文) 17	(邦文) 0
総説	(欧文) 0	(邦文) 1
著書	(欧文) 0	(邦文) 2
紀要	(欧文) 0	(邦文) 9
特許	0	

(講座) 分子創薬科学
(氏名) 谷村 進

(研究室) 細胞制御学
(職名) 助手

研究テーマ

1. 肝細胞増殖因子の細胞運動亢進作用発現におけるERK-MAPキナーゼの役割
2. Heat Shock Protein 70結合タンパク質 (HspBP1) の機能解析
3. 癌細胞の運動性を阻害する植物由来ポリフェノールの探索

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K. Ozaki, R. Kadomoto, K. Asato, S. Tanimura, N. Itoh and M. Kohno : Erk pathway positively regulates the expression of sprouty genes. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 285, 1084-1088 (2001)

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 谷村 進、角本 亮二、安里 圭太、田中 隆、河野 功、河野 透明：植物ポリフェノールの抗Matrix metalloproteinase活性、第5回がん分指標的研究会総会、東京 (2001)
2. 細川 禎久、星野 理香、谷村 進、渡邊 一石、河野 透明：PI3キナーゼ/Akt系の特異的遮断が癌化学療法剤の効果に及ぼす影響、第5回がん分指標的研究会総会、東京 (2001)
3. 渡邊 一石、谷村 進、河野 透明：微小管作用薬はp27^{kip1}の量的制御を介して癌細胞にアポトーシスを誘導する、第60回日本癌学会総会、横浜 (2001)
4. 河野 透明、谷村 進、星野 理香、渡邊 一石：増殖/生存シグナルの特異的遮断は微小管作用薬の抗腫瘍作用を相乗的に増強する、第60回日本癌学会総会、横浜 (2001)
5. 谷村 進、河野 透明：Heat Shock Protein 70結合タンパク質HspBP1の機能解析、第74回日本生化学会大会、京都 (2001)
6. 野村 佳代、谷村 進、河野 透明：NGFのPC12細胞に対する分化誘導作用の発現におけるMAPキナーゼおよびp38MAPキナーゼの役割、第74回日本生化学会大会、京都 (2001)
7. 有田 健雄、谷村 進、河野 透明：骨形成因子-2は神経芽細胞腫の増殖を抑制する、第74回日本生化学会大会、京都 (2001)

研究費取得状況

1. 肝細胞増殖因子の多様な生理機能発現のシグナル系におけるMAPキナーゼの役割
科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 90万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	4編	（邦文）	0編
総説（欧文）	0編	（邦文）	1編
著書（欧文）	0編	（邦文）	0編
紀要（欧文）	0編	（邦文）	0編
特許	0件		

(講座) 臨床薬学 (研究室) 薬剤学
(氏名) 中村純三 (職名) 教授

研究テーマ

1. 薬物の消化管からの吸収と代謝に関する研究
2. 薬物の臓器表面からの吸収に関する研究
3. 副作用の軽減を目的とした最適な薬物治療法の開発

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Shigeru Kawakami, Kenzo Yamamura, Takahiro Mukai, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Toshiyuki Sakaeda, Mikiro Nakashima, and Hitoshi Sasaki: Sustained ocular delivery of tilisolol to rabbits after topical administration or intravitreal injection of lipophilic prodrug incorporated in liposomes. *Journal of Pharmacy and Pharmacology*, 53 (8), 1157-1161 (2001)
2. Shigeru Kawakami, Koyo Nishida, Takahiro Mukai, Kenzo Yamamura, Junzo Nakamura, Toshiyuki Sakaeda, Mikiro Nakashima, and Hitoshi Sasaki: Controlled release and ocular absorption of tilisolol utilizing ophthalmic insert-incorporated lipophilic prodrugs. *Journal of Controlled Release*, 76 (3), 255-263 (2001)
3. Shigeru Kawakami, Koyo Nishida, Takahiro Mukai, Kenzo Yamamura, Kazuko Kobayashi, Toshiyuki Sakaeda, Junzo Nakamura, Mikiro Nakashima, and Hitoshi Sasaki: Ocular absorption behavior of palmitoyl tilisolol, an amphiphilic prodrug of tilisolol, for ocular drug delivery. *Journal of Pharmaceutical Sciences*, 90, (12), 2113-2120 (2001)
4. Koyo Nishida, Yayoi Yoshida, Takahiro Mukai, Shigeru Kawakami, Toshiyuki, Sakaeda, Mikiro Nakashima, Hitoshi Sasaki, and Junzo Nakamura: Effect of instillation method on the absorption of phenolsulphonphthalein as a model drug from the liver and small intestinal serosal surface in rats. *Journal of Pharmacy and Pharmacology*, 53 (10), 1341-1346 (2001)

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 川上 茂, 堀本知美, 西田孝洋, 向 高弘, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 体内及び腎臓内分布の制御を目的とした 5-fluorouracil の腎臓表面投与, 日本薬剤学会第 16 年会講演要旨集, 2C-07, p136, 東京 (2001)
2. 中嶋幹郎, 中野幸助, 小笠原正良, 早野元信, 矢野捷介, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 佐々木 均: アミオダロンの体内動態に及ぼす体脂肪率の影響, 日本薬学会第

- 121 年会講演要旨集、29 [PE] I-083, p94, 札幌 (2001)
3. 中嶋幹郎, 福地弘充, 小嶺嘉男, 小笠原正良, 早野元信, 矢野捷介, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 佐々木 均: アミオダロンの血中濃度に及ぼす体脂肪量の影響, 第 11 回日本医療薬学会年会, O-101, p101, 東京 (2001)
 4. 西田孝洋, 川上 茂, 向 高弘, 藤原里恵, 児玉幸修, 亀之園 学, 堀本知美, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 臓器表面からの吸収を利用した新規投与形態における臓器内局所への薬物ターゲティング能の評価, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17S2-07, 神戸 (2001)
 5. 小林加寿子, 川上 茂, 向 高弘, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 胃漿膜表面からの吸収による 5-fluorouracil の胃局所選択的送達法の開発, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17B10-4, 神戸 (2001)
 6. 久保田隆幸, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 肝臓表面からの薬物吸収を利用した肝局所選択的薬物送達における新規投与法の開発: 臨床応用に向けた製剤化に対する基礎的検討, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18C10-1, 神戸 (2001)
 7. 久満暁子, 川上 茂, 西田孝洋, 向 高弘, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 小腸漿膜からの高分子化合物 FITC-dextran の吸収性: 腹腔内投与後の薬物体内動態の再構築, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17PF-41, 神戸 (2001)
 8. 岡崎円香, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 低体温療法時において影響を受ける薬物の体内移行過程の解明, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18PF-43, 神戸 (2001)
 9. 友成正英, 北原隆志, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 阪中浩二, 河津剛一, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三: 白色家兎における 遮断薬ブナゾシン点眼時の pharmacokinetics-pharmacodynamics (PK-PD) model の確立, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18PF-52, 神戸 (2001)
 10. 原田文香, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 眼科領域における遺伝子治療の基盤となるカチオン性リポソームを用いた in vivo 遺伝子導入法の開発, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 1C-13, p71, 熊本 (2001)
 11. 手嶋無限, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 北原隆志, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 化学修飾を利用したリポソームからのプレドニゾロンの放出制御に関する研究, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 2B-10, p98, 熊本 (2001)
 12. 児玉幸修, 下村真代, 西田孝洋, 川上 茂, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 肝臓表面投与の癌化学療法への応用: 5-fluorouracil の肝臓内動態, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 2B-14, p135, 熊本 (2001)

学会役員等

1. 中村純三・教授、日本薬剤学会評議員、平成 13 年 2 月～
2. 中村純三・教授、日本 DDS 学会評議員、平成 12 年 5 月 1 日～平成 15 年 4 月 30 日
3. 中村純三・教授、平成 13 年度薬学教育協議会連絡委員、常任委員
4. 中村純三・教授、第 16 回日本薬物動態学会年会ベストポスター賞選考委員
5. 中村純三・教授、第 23 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム運営委員会委員
6. 中村純三・教授、文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター
科学技術専門家ネットワーク専門調査員、平成 13 年 3 月 16 日～
平成 14 年 3 月 31 日

研究費取得状況

1. 肝臓表面からの吸収を利用した癌病巣部位への制癌剤の選択的送達と滞留性の向上、
日本学術振興会科学研究費 基盤研究(C)(2)・代表・230 万円
2. 肝臓に対する遺伝子治療の基盤となる非ウイルスベクターを用いた新規遺伝子導入
法の開発、
上原記念生命科学財団 平成 13 年度研究奨励金・分担・200 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	99	編	（邦文）	1	編
総説（欧文）	2	編	（邦文）	1	編
著書（欧文）	3	編	（邦文）	2	編
紀要（欧文）	1	編	（邦文）	4	編
特許	1	件			

(講座) 臨床薬学
(氏名) 西田孝洋

(研究室) 薬剤学
(職名) 助教授

研究テーマ

1. 臓器表面からの薬物吸収を利用した新規投与形態に基づくドラッグデリバリーシステムの開発
2. 薬物の臓器内特定部位への移行の速度論的解析および標的指向化の製剤設計
3. 腹腔内臓器からの薬物吸収性を考慮したモデルに基づく全身体内動態の再構築
4. 薬物療法の個別化を目指した、病態時や相互作用による薬物体内動態の変動予測

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. S. Kawakami, K. Yamamura, T. Mukai, K. Nishida, J. Nakamura, T. Sakaeda, M. Nakashima and H. Sasaki: Sustained ocular delivery of tilisolol to rabbits after topical administration or intravitreal injection of lipophilic prodrug incorporated in liposomes. *J. Pharm. Pharmacol.*, **53**, 1157-1161 (2001).
2. S. Kawakami, K. Nishida, T. Mukai, K. Yamamura, J. Nakamura, T. Sakaeda, M. Nakashima and H. Sasaki: Controlled release and ocular absorption of tilisolol utilizing ophthalmic-insert incorporated lipophilic prodrugs. *J. Control. Rel.*, **76**, 255-263 (2001).
3. S. Kawakami, K. Nishida, T. Mukai, K. Yamamura, K. Kobayashi, T. Sakaeda, J. Nakamura, M. Nakashima and H. Sasaki: Ocular absorption behavior of palmitoyl tilisolol, an amphiphilic prodrug of tilisolol, for ocular drug delivery. *J. Pharm. Sci.*, **90**, 2113-2120 (2001).
4. K. Nishida, Y. Yoshida, T. Mukai, S. Kawakami, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki and J. Nakamura: Effect of instillation method on the absorption of phenolsulphonphthalein as a model drug from the liver and small intestinal serosal surface in rats. *J. Pharm. Pharmacol.*, **53**, 1341-1346 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 川上 茂, 堀本知美, 西田孝洋, 向 高弘, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 体内及び腎臓内分布の制御を目的とした 5-fluorouracil の腎臓表面投与, 日本薬剤学会第 16 年会講演要旨集, 2C-07, p136, 東京 (2001).
2. 中嶋幹郎, 中野幸助, 小笠原正良, 早野元信, 矢野捷介, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 佐々木 均: アミオダロンの体内動態に及ぼす体脂肪率の影響, 日本薬学会第 121 年会講演要旨集, 29 [PE] 1-083, p94, 札幌 (2001).
3. 中嶋幹郎, 福地弘充, 小嶺嘉男, 小笠原正良, 早野元信, 矢野捷介, 川上 茂, 西田

- 孝洋, 中村純三, 佐々木 均: アミオダロンの血中濃度に及ぼす体脂肪量の影響, 第 11 回日本医療薬学会年会, 0-101, p101, 東京 (2001).
4. 西田孝洋, 川上 茂, 向 高弘, 藤原里恵, 児玉幸修, 亀之園 学, 堀本知美, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 臓器表面からの吸収を利用した新規投与形態における臓器内局所への薬物ターゲティング能の評価, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17S2-07, 神戸 (2001).
 5. 小林加寿子, 川上 茂, 向 高弘, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 胃漿膜表面からの吸収による 5-fluorouracil の胃局所選択的送達法の開発, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17B10-4, 神戸 (2001).
 6. 久保田隆幸, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 肝臓表面からの薬物吸収を利用した肝局所選択的薬物送達における新規投与方法の開発: 臨床応用に向けた製剤化に対する基礎的検討, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18C10-1, 神戸 (2001).
 7. 久満暁子, 川上 茂, 西田孝洋, 向 高弘, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 小腸漿膜からの高分子化合物 FITC-dextran の吸収性: 腹腔内投与後の薬物体内動態の再構築, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17PF-41, 神戸 (2001).
 8. 岡崎円香, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 低体温療法時において影響を受ける薬物の体内移行過程の解明, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18PF-43, 神戸 (2001).
 9. 友成正英, 北原隆志, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 阪中浩二, 河津剛一, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三: 白色家兎における 遮断薬ブナゾシン点眼時の pharmacokinetics-pharmacodynamics (PK-PD) model の確立, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18PF-52, 神戸 (2001).
 10. 原田文香, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 眼科領域における遺伝子治療の基盤となるカチオン性リポソームを用いた in vivo 遺伝子導入法の開発, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 1C-13, p71, 熊本 (2001).
 11. 手嶋無限, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 北原隆志, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 化学修飾を利用したリポソームからのプレドニゾロンの放出制御に関する研究, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 2B-10, p98, 熊本 (2001).
 12. 児玉幸修, 下村真代, 西田孝洋, 川上 茂, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 肝臓表面投与の癌化学療法への応用: 5-fluorouracil の肝臓内動態, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 2B-14, p135, 熊本 (2001).

学会役員等

1. 日本薬剤学会評議員: 2001 年 3 月 ~ 2004 年 3 月 (3 年間)
2. 日本薬学会ファルマシアトピックス専門小委員: 2001 年 4 月 ~ 2003 年 3 月 (2 年間)

研究費取得状況

1. 肝臓表面からの特異的薬物集積に基づく新規肝疾患製剤の開発；日本学術振興会科学研究費 奨励研究(A)；代表；70 万円
2. 肝臓表面からの吸収を利用した癌病巣部位への制癌剤の選択的送達と滞留性の向上；日本学術振興会科学研究費 基盤研究(C)(2)；分担；230 万円
3. 肝臓に対する遺伝子治療の基盤となる非ウイルスベクターを用いた新規遺伝子導入法の開発；上原記念生命科学財団 平成 13 年度研究奨励金；分担；200 万円
4. 長崎大学における教育改革を推進するための教育支援システムの構築(1) - 授業の自己診断システムの確立 - ；平成 13 年度教育研究改革・改善プロジェクト経費；分担；569.3 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	55 編	（邦文）	1 編
総説（欧文）	2 編	（邦文）	1 編
著書（欧文）	1 編	（邦文）	2 編
紀要（欧文）	1 編	（邦文）	6 編
特許	0 件		

(講座) 臨床薬学 (研究室) 薬剤学

(氏名) 川上 茂 (職名) 助手

研究テーマ

1. 遺伝子医薬品および抗癌剤の臓器選択的送達法に関する研究
2. 遺伝子デリバリーを目的とした新規投与製剤の開発に関する研究
3. 眼科領域における新規ドラッグデリバリーシステムの開発に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Shigeru Kawakami, Chie Munakata, Shintaro Fumoto, Fumiyoshi Yamashita, and Mitsuru Hashida: Novel galactosylated liposomes for hepatocyte-selective targeting of lipophilic drugs. *Journal of Pharmaceutical Sciences*, 90 (2) 105-113 (2001)
2. Shigeru Kawakami, Kenzo Yamamura, Takahiro Mukai, Koyo Nishida, Junzo Nakamura, Toshiyuki Sakaeda, Mikiro Nakashima, and Hitoshi Sasaki: Sustained ocular delivery of tilisolol to rabbits after topical administration or intravitreal injection of lipophilic prodrug incorporated in liposomes. *Journal of Pharmacy and Pharmacology*, 53 (8), 1157-1161 (2001)
3. Shigeru Kawakami, Koyo Nishida, Takahiro Mukai, Kenzo Yamamura, Junzo Nakamura, Toshiyuki Sakaeda, Mikiro Nakashima, and Hitoshi Sasaki: Controlled release and ocular absorption of tilisolol utilizing ophthalmic insert-incorporated lipophilic prodrugs. *Journal of Controlled Release*, 76 (3), 255-263 (2001)
4. Shigeru Kawakami, Koyo Nishida, Takahiro Mukai, Kenzo Yamamura, Kazuko Kobayashi, Toshiyuki Sakaeda, Junzo Nakamura, Mikiro Nakashima, and Hitoshi Sasaki: Ocular absorption behavior of palmitoyl tilisolol, an amphiphilic prodrug of tilisolol, for ocular drug delivery. *Journal of Pharmaceutical Sciences*, 90, (12), 2113-2120 (2001)
5. Shigeru Kawakami, Ayumi Sato, Makiko Yamada, Fumiyoshi Yamashita, and Mitsuru Hashida: The effect of lipid composition on receptor-mediated in vivo gene transfection using mannosylated cationic liposomes in mice. *S.T.P. Pharma Sciences*, 11 (1), 117-120 (2001)
6. Ayumi Sato, Shigeru Kawakami, Makiko Yamada, Fumiyoshi Yamashita, and Mitsuru Hashida: Enhanced gene transfection in macrophages using mannosylated cationic liposome-polyethyleneimine-plasmid DNA complexes. *Journal of Drug Targeting*, 9 (3), 201-207 (2001)
7. Praneet Opanasopit, Yuriko Higuchi, Shigeru Kawakami, Fumiyoshi Yamashita, Makiya Nishikawa, and Mitsuru Hashida: Involvement of serum mannan binding proteins and mannose receptors in uptake of mannosylated liposomes by macrophages. *Biochimica et Biophysica Acta*, 1511 (1), 134-145 (2001)
8. Koyo Nishida, Yayoi Yoshida, Takahiro Mukai, Shigeru Kawakami, Toshiyuki, Sakaeda, Mikiro Nakashima, Hitoshi Sasaki, and Junzo Nakamura: Effect of instillation method on the absorption

of phenolsulphonphthalein as a model drug from the liver and small intestinal serosal surface in rats. *Journal of Pharmacy and Pharmacology*, 53 (10), 1341-1346 (2001)

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 川上 茂, 堀本知美, 西田孝洋, 向 高弘, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 体内及び腎臓内分布の制御を目的とした 5-fluorouracil の腎臓表面投与, 日本薬剤学会第 16 年会講演要旨集, 2C-07, p136, 東京 (2001)
2. 中嶋幹郎, 中野幸助, 小笠原正良, 早野元信, 矢野捷介, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 佐々木 均: アミオダロンの体内動態に及ぼす体脂肪率の影響, 日本薬学会第 121 年会講演要旨集, 29 [PE] I-083, p94, 札幌 (2001)
3. 中嶋幹郎, 福地弘充, 小嶺嘉男, 小笠原正良, 早野元信, 矢野捷介, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 佐々木 均: アミオダロンの血中濃度に及ぼす体脂肪量の影響, 第 11 回日本医療薬学会年会, O-101, p101, 東京 (2001)
4. 西田孝洋, 川上 茂, 向 高弘, 藤原里恵, 児玉幸修, 亀之園 学, 堀本知美, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 臓器表面からの吸収を利用した新規投与形態における臓器内局所への薬物ターゲティング能の評価, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17S2-07, 神戸 (2001)
5. 小林加寿子, 川上 茂, 向 高弘, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 胃漿膜表面からの吸収による 5-fluorouracil の胃局所選択的送達法の開発, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17B10-4, 神戸 (2001)
6. 久保田隆幸, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 肝臓表面からの薬物吸収を利用した肝局所選択的薬物送達における新規投与方法の開発: 臨床応用に向けた製剤化に対する基礎的検討, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18C10-1, 神戸 (2001)
7. 久満暁子, 川上 茂, 西田孝洋, 向 高弘, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 小腸漿膜からの高分子化合物 FITC-dextran の吸収性: 腹腔内投与後の薬物体内動態の再構築, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 17PF-41, 神戸 (2001)
8. 岡崎円香, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 栄田敏之: 低体温療法時において影響を受ける薬物の体内移行過程の解明, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18PF-43, 神戸 (2001)
9. 友成正英, 北原隆志, 中嶋幹郎, 佐々木 均, 阪中浩二, 河津剛一, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三: 白色家兎における 遮断薬ブナゾシン点眼時の pharmacokinetics-pharmacodynamics (PK-PD) model の確立, 第 16 回日本薬物動態学会年会, 薬物動態 16 Supplement, 18PF-52, 神戸 (2001)
10. 原田文香, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 眼科領域における遺伝子治療の基盤となるカチオン性リポソームを用いた in vivo 遺伝子導入法の開発, 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 1C-13, p71, 熊本 (2001)

11. 手嶋無限, 川上 茂, 西田孝洋, 中村純三, 北原隆志, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 化学修飾を利用したリポソームからのプレドニゾロンの放出制御に関する研究, 第18回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 2B-10, p98, 熊本 (2001)
12. 児玉幸修, 下村真代, 西田孝洋, 川上 茂, 中村純三, 中嶋幹郎, 佐々木 均: 肝臓表面投与の癌化学療法への応用: 5-fluorouracil の肝臓内動態, 第18回日本薬学会九州支部大会講演要旨集, 2B-14, p135, 熊本 (2001)

学会役員等

1. 川上 茂、遺伝子・デリバリー研究会、評議員
2. 川上 茂、遺伝子・デリバリー研究会、役員（広報）

研究費取得状況

1. 肝臓に対する遺伝子治療の基盤となる非ウイルスベクターを用いた新規遺伝子導入法の開発、
上原記念生命科学財団 平成13年度研究奨励金・代表・200万円
2. 肝臓表面からの吸収を利用した癌病巣部位への制癌剤の選択的送達と滞留性の向上、
日本学術振興会科学研究費 基盤研究(C)(2)・分担・230万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	17	編	（邦文）	0	編
総説（欧文）	1	編	（邦文）	1	編
著書（欧文）	1	編	（邦文）	0	編
紀要（欧文）	0	編	（邦文）	0	編
特許	0	件			

(講座) 新興感染症病態制御学系 (研究室) 感染分子薬学
(氏名) 小林信之 (職名) 教授

研究テーマ

1. アポトーシスからみたウイルス感染細胞死の機構解明
2. AIDS における CD4T 細胞特異的減少機構の解明
3. 疾患と Fas/Fas-L システムの解明
4. インフルエンザウイルスベクターを用いたワクチンの開発
5. 細菌性毒素の機能解析と新規毒素の検索

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Koji, T., Hishikawa, Y., Ando, H., Nakanishi, Y and **Kobayashi, N.** Expression of Fas and Fas Ligand in Normal and Ischemia-Reperfusion Testis: Involvement of Fas System in the Induction of Germ Cell Apoptosis in Damaged Mouse Testis.

Biology of Reproduction 64,946-954, **2001**

2. Watanabe K, Takizawa N, Katoh M, Hoshida K, **Kobayashi N**, Nagata K.
Inhibition of nuclear export of ribonucleoprotein complexes of influenza virus by leptomycin B.

Virus Res.; 77, 31 - 42 **2001**

3. Murata, S., Udono, H., Tanahashi, N., Hamada, N., Watanabe, K., Adachi, K., Yamano, T., Yui, K., **Kobayashi, N.**, Kasahara, M., Tanaka, K. and Chiba, T. Immunoproteasome assembly and antigen presentation in mice lacking both PA28a and PA28b.

EMBO.J. 20,5898-5907, **2001**

(A-b) 総説

該当無し

(A-c) 著書

該当無し

(A-d) 紀要

該当無し

B 邦文

(B-a) 原著論文

該当無し

(B-b) 総説

該当無し

(B-c) 著書

該当無し

(B-d) 紀要

該当無し

学会発表

A 国際学会

(A-a) 招待講演，特別講演，受賞講演

該当無し

(A-b) 一般講演

該当無し

B 国内学会

(B-a) 招待講演，特別講演，受賞講演

該当無し

(B-b) 一般講演

1. 牛 亜梅、一ノ瀬紀子、岡本紀子、中野真由美、斉藤誠、黒川健児、小林信之（長崎大・薬）

Molecular cloning and characterization of Interleukin 13 receptor binding protein.

平成13年度日本生化学会九州支部例会－長崎 2001

2. 上田文枝、渡辺健、Herizo Rafidinarivo濱田信行、足立圭、黒川健児、村田興、永田恭介、小林信之（長崎大・薬、筑波大・基礎医学）

インフルエンザウイルスベクターを用いた AIDSワクチン開発 I-HIV 抗原をもった組み換えインフルエンザウイルスの作製-

平成13年度日本生化学会九州支部例会－長崎 2001

3. 足立圭、濱田信行、渡辺健、Herizo Rafidinarivo上田文枝、黒川健児、村田興、永田恭介、小林信之（長崎大・薬、筑波大・基礎医学）

インフルエンザウイルスベクターを用いた AIDSワクチン開発 II-ウイルス感染モデルマウスを用いたワクチンの評価-

平成13年度日本生化学会九州支部例会－長崎 2001

C 特許

該当無し

学会役員等

1. 日本生化学会評議員
2. 日本ウイルス学会将来構想検討委員会委員
3. 分子病理研究会 世話人
4. 日本生化学会九州支部会評議員
5. 日本ウイルス学会九州支部会幹事

研究費取得状況

1. 地域連携推進研究：海洋生物の持つバイオパワーを使った食品・医薬品素材の開発
分担 100 万円

2. 地域結集型共同研究事業 (CREATE): ミクロ海洋生物の生理機能活用技術の開発 分担 3 4 7 万円

3. 萌芽的研究: TAC の研究代表 2 1 0 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	82 編	（邦文）	2 編
総説（欧文）	3 編	（邦文）	44 編
著書（欧文）	3 編	（邦文）	42 編
紀要	省略		
特許	7 件		

(講座) 医療薬剤学

(研究室) 分子病態学

(氏名) 村田 興

(職名) 助教授

研究テーマ

1. IL-13 レセプターのシグナル伝達に関する研究
2. がんの遺伝子治療に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Kawakami, K., Taguchi, J., Murata, T., and R. K. Puri: The interleukin-13 receptor $\alpha 2$ chain: an essential component for binding and internalization but not for interleukin-13-induced signal transduction through STAT6 pathway. **Blood**. 97:2673-2679, 2001.

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Murata, T., Kurokawa, K., Atsuo Sasaki, A., Yoshimura, A., Puri, RK., Kobayashi, N: Molecular cloning and characterization of Interleukin 13 receptor α' ($\alpha 1$) binding protein. in The American Association for Cancer Research. 2001. New Orleans, LA, U.S.A. (Proceeding of the AACR, Vol 42. 2001, p876)

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 牛 亜梅、一ノ瀬由紀子、岡本紀子、中野眞由美、斉藤 誠、黒川健児、村田 興、小林信之：Molecular cloning and characterization of Interleukin 13 receptor α' ($\alpha 1$) binding protein. 平成 13 年度日本生化学会九州支部例会、長崎、2001 年。
2. 上田文枝、渡辺 健、Herizo Rafidinarivo, 濱田信之、足立 圭、黒川健児、村田 興、永田恭介、小林信之：インフルエンザウイルスをベクターとした AIDS ワクチンの開発 I-HIV 抗原をもった組み換えウイルスの作成-。平成 13 年度日本生化学会九州支部例会、長崎、2001 年。
3. 足立 圭、濱田信之、渡辺 健、Herizo Rafidinarivo, 上田文枝、黒川健児、村田 興、永田恭介、小林信之：インフルエンザウイルスをベクターとした AIDS ワクチンの開発-ウイルス感染モデルマウスを用いたワクチンの評価-。平成 13 年度日本生化学会九州支部例会、長崎、2001 年。
4. 牛 亜梅、岡本紀子、村田 興、吉村昭彦、小林信之：Characterization of a New IL-13R binding protein, IL-13RBP1。第 24 回日本分子生物学会年会、横浜、2001 年。

5. 齊藤 誠、村田 興、小林信之 : Cancer gene therapy by IL-13 toxin and adenovirus vector which express IL-13R α 2. 第 24 回日本分子生物学会年会、横浜、2001 年。

学会役員等

1. 日本血液学会評議員

研究費取得状況

1. 平成 13 年度 血液科学振興財団研究助成 100 万円
2. 平成 13 年度 文部省科学研究費 基盤 (C)(継続) 60 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	16 編	(邦文)	17 編
総説 (欧文)	3 編	(邦文)	1 編
著書 (欧文)	1 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		

(講座) 新興感染症病態制御学講座 (研究室) 感染分子薬学 (旧: 分子病態学)

(氏名) 渡邊 健 (職名) 助手

研究テーマ

1. インフルエンザウイルスを用いた AIDS ワクチンに関する研究
2. インフルエンザウイルス蛋白質の核-細胞質間輸送に関する研究
3. インフルエンザウイルスマトリックス蛋白質に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Watanabe K, Takizawa N, Katoh M, Hoshida K, Kobayashi N, Nagata K. Inhibition of nuclear export of ribonucleoprotein of influenza virus by leptomycin B. *Virus Res.* 2001; 77: 31-42.
2. Murata S, Udono H, Tanahashi N, Nobuyuki H, Watanabe K, Adachi K, Yamano T, Yui K, Kobayashi N, Hasahara M, Keiji T, Chiba T. Immunoproteasome assembly and antigen presentation in mice lacking both PA28 and PA28. *EMBO J.* 2001; 20: 5898-5907.

(A-c) 著書

1. Nagata K, Takizawa N, Haruki H, Mibayashi M, Watanabe K. Nuclear import and export of influenza ribonucleoprotein complexes. In: *Recent Advances in Influenza Virus Research* (eds) Hayase Y *et al.* Research Signpost, India; *in press*

学会発表

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 渡辺健、永田恭介、小林信之. インフルエンザウイルスの遺伝子操作とワクチン開発. 第 74 回日本生化学会大会 2001 年 10 月 京都

(B-b) 一般講演

2. 上田文枝、渡辺健、Rafidinarivo H、濱田信行、足立圭、黒川健児、村田興、永田恭介、小林信之. インフルエンザウイルスベクターを用いた AIDS ワクチンの開発 I : HIV 抗原をもった組換えインフルエンザウイルスの作製. 日本生化学会九州支部例会 2001 年 4 月 長崎
3. 足立圭、濱田信行、渡辺健、Rafidinarivo H、上田文枝、黒川健児、村田興、永田恭介、小林信之. インフルエンザウイルスベクターを用いた AIDS ワクチンの開発 II : ウイルス感染モデルマウスを用いたワクチンの評価. 日本生化学会九州支部例会 2001 年 4 月 長崎
4. Rafidinarivo H、渡辺健、上田文枝、足立圭、村田興、永田恭介、小林信之. Influenza Virus as a Virus Vector for the Development of an AIDS Vaccine. 第 38 回日本ウ

イルス学会九州支部総会 2001年9月 北九州

5. 原好勇、塩田麻由美、木戸博、渡辺健、永田恭介、豊田哲也．インフルエンザウイルス RNA ポリメラーゼのもつプロテアーゼ活性について．日本生化学会九州支部例会 2001年4月 長崎
6. 原好勇、塩田麻由美、木戸博、渡辺健、永田恭介、豊田哲也．プロテアーゼ活性を有するインフルエンザウイルス RNA ポリメラーゼ・PA サブユニットと M1 との相互作用．第 74 回日本生化学会大会 2001年10月 京都
7. 滝沢直己、渡辺健、永田恭介．インフルエンザウイルス NS2 タンパク質のウイルス遺伝子発現における機能解析．第 49 回日本ウイルス学会学術集会 2001年11月 大阪
8. 原好勇、木戸博、渡辺健、永田恭介、豊田哲也．プロテアーゼ活性を有するインフルエンザウイルス RNA ポリメラーゼ・PA サブユニットは M1 と相互作用する．第 49 回日本ウイルス学会学術集会 2001年11月 大阪
9. 上田文枝、渡辺健、Rafidinarivo H、足立圭、村田興、永田恭介、小林信之．インフルエンザウイルスベクターを用いた AIDS ワクチンの開発．第 49 回日本ウイルス学会学術集会 2001年11月 大阪
10. 滝沢直己、渡辺健、内藤忠相、松山政史、永田恭介．インフルエンザウイルス RNP の核外輸送機構．第 24 回日本分子生物学会年会 2001年12月 横浜
11. 原好勇、塩田麻由美、木戸博、渡辺健、永田恭介、豊田哲也．インフルエンザウイルス・マトリックスタンパク質 M1 による RNA ポリメラーゼ・PA サブユニットのプロテアーゼ活性の阻害 第 24 回日本分子生物学会年会 2001年12月 横浜

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	5 編		
総説（邦文）	1 編		
著書（欧文）	1 編	（邦文）	1 編

(講座) 分子創薬科学

(研究室) 分子薬理学

(氏名) 植田弘師

(職名) 教授

研究テーマ

1. 神経系受容体と G 蛋白質の情報伝達に関する研究
2. ストレスと神経細胞死および神経新生と関連遺伝子群のクローニング解析に関する研究
3. 痛みの分子薬理、分子生理学に関する研究
4. 脳に存在する新しい受容体と新しい内在性物質の探索、クローニングに関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. H. UEDA, M. Inoue and T. Matsumoto: Protein Kinase C-Mediated Inhibition of μ -Opioid Receptor Internalization and Its Involvement in the Development of Acute Tolerance to Peripheral μ -Agonist Analgesia, *J. Neurosci*, **21**, 2967-2973 (2001).
2. H. UEDA, M. Inoue, A. Yoshida, K. Mizuno, H. Yamamoto, J. Maruo, K. Matsuno and S. Mita: Metabotropic neurosteroid/sigma receptor involved in stimulation of nociceptor endings of mice, *J. Pharmacol. Exp. Ther*, **298**, 703-710 (2001).
3. M. Inoue, S. Matsunaga, M.H. Rashid, A. Yoshida, K. Mizuno, T. Sakurada, H. Takeshima and H. UEDA: Pronociceptive Effects of Nociceptin/Orphanin FQ (13-17) at Peripheral and Spinal Level in Mice, *J. Pharmacol. Exp. Ther*, **299**, 213-219 (2001).
4. H. UEDA, A. Yoshida, S. Tokuyama, K. Mizuno, J. Maruo, K. Matsuno and S. Mita: Neurosteroids stimulate G protein-coupled sigma receptors in mouse brain synaptic membrane, *Neurosci. Res*, **41**, 33-40 (2001).
5. R. Fujita, A. Yoshida, K. Mizuno and H. UEDA : Cell density-dependent death mode switch of cultured cortical neurons under serum-free starvation stress, *Cell. Mol. Neurobiol*, **21**, 317-324 (2001).
6. M.H. Rashid, T. Matsumoto, K. Mizuno, M. Watanabe, N. Sato, F. Yoneda and H. UEDA: Nociceptive responses by deprenyl derivative, (-)BPAP through metabotropic sigma receptor, *Pharmacol. Rev. Comm.* **11**, 335-342 (2001).

(A-b) 総説

1. A. Yoshida and H. UEDA : Neurobiology of lysophosphatidic acid receptor, *Jpn. J. Pharmacol*, **87**, 104-109 (2001).

(A-c) 著書

1. 該当無し

(A-d) 紀要

1. 該当無し

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 該当無し

(B-b) 総説

1. 植田, 松本貴之: オピオイド受容体研究の新展開, *ペインクリニック*, **22**, 195-202 (2001)
2. 吉田明, 植田: ニューレキシン, *Clinical Neuroscience*, **19**, 118-119 (2001)
3. 植田, 水野恭伸: ノシセプチン受容体と痛み, *別冊・医学のあゆみ「7回膜貫通型受容体研究の新展開」*, 214-219 (2001)
4. 植田, 松本貴之: 痛みの分子機構, *生化学*, **73**, 272-276 (2001)
5. 植田, 植田睦美: 神経ステロイド, *臨床精神医学*, **30**, 723-728 (2001)
6. 植田, 井上誠: 神経因性疼痛評価のための末梢性疼痛試験法, *日本薬理学雑誌*, **118**, 89-95 (2001)
7. 植田, 吉田明: モルヒネ依存形成に関わる神経回路変化—アンチオピオイド神経系の可塑的变化—, *医学のあゆみ*, **199**, 427-430 (2001)

(B-c) 著書

1. 該当無し

(B-d) 紀要

1. 該当無し
- 2.

学会発表

A 国際学会

(A-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. H.UEDA: Roles of Nociceptin and NMDA Receptor Mechanisms in the Maintenance of Tolerance and Dependence to Morphine, *The 9th International Catecholamine Symposium*, Kyoto, 2001, 4
2. H.Ueda: Distinct roles of ppN/OFQ-derived peptides in pain control, *International Narcotic Research Conference*, Helsinki, 2001, 7. Abstracts pp. 26.

(A-b) 一般講演

1. M. Inoue, T. Kawashima, S. Matsunaga, T. Sakurada and H. UEDA: Potent nociceptive activity by nociceptin/orphanin FQ C-terminal fragments in nociceptors and

spinal cord in mice. *International Narcotic Research Conference*, Helsinki, 2001.7, Abstracts pp. 33.

2. T. Matsumoto, H. Rashid and H. UEDA: PKC-involvement in the acute tolerance to peripheral morphine analgesia in the mouse capsaicin test. *International Narcotic Research Conference*, Helsinki, 2001.7, Abstracts pp. 72.
3. H. UEDA, M. Inoue, T. Matsumoto and T. Kawashima: Involvement of Modality-specific loss of nociceptor signaling in the morphine-insensitive neuropathic pain. *International Narcotic Research Conference*, Helsinki, 2001.7, Abstracts pp. 72.

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 吉田明、植田弘師: 神経ステロイド受容体を介する神経活性に及ぼす内分泌かく乱化学物質の影響、第74回日本薬理学会年会、2001年3月(横浜)
2. 植田弘師、井上誠: ニューロパチックペインの分子機構、第74回日本薬理学会年会、2001年3月(横浜)
3. 井上誠、植田弘師: 痛みと可塑性—侵害受容器から行動までのシグナル伝達、第121回日本薬学会年会、2001年3月(札幌)
4. 植田弘師: 個体、細胞、分子レベルでのニューロステロイド急性作用機構の解析、第2回ニューロステロイド研究会、2001年8月(東京)
5. 植田弘師、川島敏子: ATP 受容体を介する末梢性疼痛発現機構、ATP 研究会、2001年8月(愛知)
6. 植田弘師、吉田明、井上誠: モルヒネ耐性・依存のアンチオピオイド神経を介する可塑的応答、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月(京都) abstract: Anti-opioidergic system in morphine tolerance and physical dependence. *Neuroscience Research Supplement* 25 2001

(B-b) 一般講演

1. 松永隼人、石上、植田: グルコース脳室内投与によるトリメチルスズ神経毒性保護、第99回日本薬理学会近畿部会、2001年6月(広島)
2. 川島敏子、松本、井上、植田: モルヒネ鎮痛の急性耐性におけるCキナーゼと受容体エンドサイトーシス、第22回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム、2001年8月(京都)
3. 井上誠、Raashid H、川島、植田: ノシセプチン部分ペプチド(13-17)の発痛メカニズム、第22回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム、2001年8月(京都)
4. 藤田亮介、濱邊、植田: 無血清培養におけるネクローシスからアポトーシスへの細胞死モードスイッチ、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月(京都) [abstract: *Neuroscience Research Supplement* 25 2001]
5. 濱邊和歌子、松野、米田、植田: 無血清初代培養におけるネクローシス様神経細胞死を抑制するシグマ受容体関連化合物、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学

合同大会、2001年9月（京都）[abstract: sigma receptor ligands suppress neuronal necrosis under the serum-free. Neuroscience Research Supplement 25 2001]

6. 植田、陸丸幹男、藤田、植田：マウス網膜障害モデルにおけるグルコースによる神経細胞死抑制作用の解析、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）[abstract: Glucose protects the retinal ischemic neuronal death. Neuroscience Research Supplement 25 2001]
7. 井上、吉田、植田弘師：二種類の神経ステロイド受容体を介した知覚神経刺激機構、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）[abstract: Neuronal NS1/ σ and non-neuronal NS2 neurosteroid receptor-mediated peripheral nociception. Neuroscience Research Supplement 25 2001]
8. 松永隼人、植田：神経ステロイドによる微小管タンパク質重合攪乱、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）[abstract: Neurosteroids-regulation of microtubule assembly and hippocampal neurite outgrowth. Neuroscience Research Supplement 25 2001]
9. 吉田、内田仁司、植田：神経ステロイドによる肥満細胞脱顆粒応答、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）
10. Rashid, Md. Harunor, 吉田、植田：ニコチン性アゴニストによる神経因性疼痛特異的な鎮痛効果、第54回日本薬理学会西南部会、2001年11月（福岡）
11. 近藤沙織、川島、水野、植田：マウス坐骨神経の部分結紮神経因性疼痛と遺伝子発現、第54回日本薬理学会西南部会、2001年11月（福岡）
12. 濱邊和歌子、藤田、植田：培養大脳皮質神経細胞のネクローシスにおける分子機構、第54回日本薬理学会西南部会、2001年11月（福岡）

C 特許

1. 植田弘師、神経因性疼痛治療及び予防薬、特願 2000-400679

学会役員等

1. 日本薬理学会評議員
2. 日本神経化学会評議員
3. 日本生化学会評議員
4. 国際麻薬研究協議会(INRC)理事
5. Neurochemistry International, Editorial Advisory Board
6. Life Sciences, Editorial Advisory Board
7. J. Pharmacological Experimental Therapeutics, Editorial Advisory Board

研究費取得状況

1. 神経細胞ネクローシスをアポトーシスに導くタンパク質の検索と網膜虚血モデルでの応用；基盤研究B（2）：代表；1,010万円
2. 内分泌かく乱物質の新規G蛋白質関連型神経ステロイド受容体への作用機構の解明；

基盤研究 c ; 分担 ; 260 万円

3. 海洋微生物の持つバイオパワーを使った食品・医薬品素材の開発研究 ; 地域連携等研究費 ; 分担 ; 100 万円
4. 依存性薬物により誘発される精神障害の機構の解明の研究 ; 科学技術振興調整費 ; 分担 ; 1, 152. 8 万円
5. 糖尿病性ニューロパシクペインに対するカプサイシンクリームの治療効果に関する基礎的研究 ; 民間等との共同研究経費 ; 代表 ; 448 万円
6. 脳を制御する神経ステロイドの作用を攪乱する環境ホルモン ; 科学技術振興財団 CREST ; 分担 ; 95 万
7. 新しいカテゴリーに属する鎮痛薬としてのニコチン関連薬物の作用機序解析 ; 奨学寄付金 ; 喫煙科学財団 ; 代表 ; 2 0 0 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	114 編	(邦文)	01 編
総説 (欧文)	23 編	(邦文)	38 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	16 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	3 件		

(講座) 医療薬理学
(氏名) 吉田 明

(研究室) 分子薬理学
(職名) 助教授

研究テーマ

1. 神経系受容体と G 蛋白質の情報伝達
2. ストレスと神経細胞死および神経新生と関連遺伝子群のクローニング解析
3. 痛みの分子薬理、分子生理学
4. 脳に存在する新しい受容体と新しい内在性物質の探索、クローニング

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Ueda, H., Inoue, M., Yoshida, A., Mizuno, K., Yamamoto, H., Maruo, J., Matsuno, K. and Mita, S.: Metabotropic neurosteroid/sigma receptor involved in stimulation of nociceptor endings of mice. (2001) *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, 298, 703-710.
2. Inoue, M., Matsunaga, S., Rashid, M.H., Yoshida, A., Mizuno, K., Sakurada, T., Takeshima, H., and Ueda, H.: Pronociceptive Effects of Nociceptin/Orphanin FQ (13-17) at Peripheral and Spinal Level in Mice. (2001) *J. Pharmacol. Exp. Ther.*, 299, 213-219.
3. Ueda, H., Yoshida, A., Tokuyama, S., Mizuno, K., Maruo, J., Matsuno, K., and Mita, S., (2001) Neurosteroids stimulate G protein-coupled sigma receptors in mouse brain synaptic membrane. *Neurosci. Res.*, 41, 33-40.
4. Fujita, R., Yoshida, A., Mizuno, K. and Ueda, H.: Cell density-dependent death mode switch of cultured cortical neurons under serum-free starvation stress. (2001) *Cell. Mol. Neurobiol.*, 21, 317-324,

(A-b) 総説 (欧文)

1. Yoshida, A. and Ueda, H.: Neurobiology of the Edg2 lysophosphatidic acid receptor. (2001) *Jpn. J. Pharmacol.*, 87, 104-109.

(A-c) 著書

該当なし

(A-d) 紀要

該当なし

B 邦文

(B-a) 原著論文 (和文)

該当なし

(B-b) 総説 (和文)

該当なし

(B-c) 著書

該当なし

(B-d) 紀要

該当なし

学会発表

A 国際学会

(A-a) 招待講演、特別講演、受賞講演

該当なし

(A-b) 一般講演

該当なし

B 国内学会

(B-a) 招待講演、特別講演、受賞講演

該当なし

(B-b) 一般講演

1. 植田弘師、吉田明、井上誠：モルヒネ耐性・依存のアンチオピオイド神経を介する可塑的応答、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）
2. 井上誠、吉田明、植田弘師：二種類の神経ステロイド受容体を介した知覚神経刺激機構、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）
3. 吉田明、内田仁司、植田弘師：神経ステロイドによる肥満細胞脱顆粒応答、第24回日本神経科学・第44回日本神経化学合同大会、2001年9月（京都）
4. Rashid, Md. Harunor, 吉田明、植田弘師：ニコチン性アゴニストによる神経因性疼痛特異的な鎮痛効果、第54回日本薬理学会西南部会、2001年11月（福岡）

学会役員等

該当なし

研究費取得状況

内分泌かく乱物質の新規G蛋白質連関型神経ステロイド受容体への作用機構の解明：文部科学省科学研究費補助金基盤研究C・代表・260万円

過去の研究業績総計

原著論文	(欧文)	32	編	(和文)	0	編
総説	(欧文)	1	編	(和文)	7	編
著書	(欧文)	0	編	(和文)	2	編
紀要	(欧文)	0	編	(和文)	0	編
特許		0	件			

(講座) 医療薬剤学

(研究室) 分子薬理学

(氏名) 水野恭伸

(職名) 助手

研究テーマ

1. 環境ホルモン作用メカニズムの解析
2. 神経細胞死と細胞死抑制に関わる遺伝子群の機能解析
3. 神経因性疼痛の分子メカニズムと可視化

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Ueda H, Inoue M, Yoshida A, Mizuno K, Yamamoto H, Maruo J, Matsuno K, Mita S: Metabotropic neurosteroid/sigma-receptor involved in stimulation of nociceptor endings of mice. *J Pharmacol Exp Ther*, 298, 703-710, 2001
2. Inoue M, Matsunaga S, Rashid MH, Yoshida A, Mizuno K, Sakurada T, Takeshima H, Ueda H: Pronociceptive effects of nociceptin/orphanin FQ (13-17) at peripheral and spinal level in mice. *J Pharmacol Exp Ther*, 299, 213-219, 2001
3. Ueda H, Yoshida A, Tokuyama S, Mizuno K, Maruo J, Matsuno K, Mita S: Neurosteroids stimulate G protein-coupled sigma receptors in mouse brain synaptic membrane. *Neurosci Res*, 41, 33-40, 2001
4. Fujita R, Yoshida A, Mizuno K, Ueda H: Cell density-dependent death mode switch of cultured cortical neurons under serum-free starvation stress. *Cell Mol Neurobiol*, 21, 317-24, 2001

B 邦文

(B-c) 著書

1. 植田弘師、水野恭伸：ノシセプチン受容体と痛み、別冊医学のあゆみ「7回膜貫通型受容体研究の新展開－ポストゲノム時代の受容体研究のゆくえ」、医歯薬出版、東京、2001年、214-219

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 近藤沙織、川島敏子、水野恭伸、植田弘師：マウス坐骨神経の部分結紮神経因性疼痛と遺伝子発現、薬理学会西南部会 2001年11月22日、福岡、アクロス福岡

過去の研究業績総計

原著論文	(欧文)	10	編	(和文)	0	編
総説	(欧文)	1	編	(和文)	5	編

著書	(欧文)	0 編	(和文)	2 編
紀要	(欧文)	0 編	(和文)	0 編
特許		0 件		

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 薬化学
(氏名) 藤田 佳平衛 (職名) 教授

研究テーマ

1. 人工酵素・レセプターの創製と応用
2. 分子認識の物理化学
3. 直鎖状・環状オリゴ糖の新合成法の開発

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. D-Q. Yuan, Yamada, and K. Fujita: Amplification activity Difference between Two Methylene Groups of Cyclodextrins via Chem. Commun. 2706-2707 (2001).
2. S. Immel, K. Fujita, M. Fukudome, and M. Bolte: Two Stereodis Anhydro- β -cyclodextrins: A Molecular Dynamics and Crystallographic Study, Carbohydr. Res. 336, 29-308 (2001).
3. D-Q. Yuan, K. Koga, Y. i, Kuroki, and K. Fujita: Synthesis of the Frene-Cyclodextrin Conjugates, Tetrahedron Lett. 42(38), 6727-6729 (2001).
4. M. Fukudome, Fujioka, D-QYuan, and K. Fujita: Selective Sulfonation of One of the 21er Diff Hydroxyl Groups of Mono- α - β -cyclodextrin, Tetrahedron Lett. 42(2), 293-295 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. D-Q. Yuan, K. Koga, and K. Fujita: Phenylbisbenzimidazole-capped Cyclodextrins' Synthesis and Interaction with Some Azo-dyes, VII International Seminar on Inclusion Compounds, T1-10, 2001, Warsaw
2. J-M. Yan, M. Atsumi, D-Q. Yuan, and K. Fujita: EDTA-Capped Cyclodextrin Bearing Two Hydrophobic Binding Sites as Efficient Catalysts for Phosphodiester Hydrolysis, VIIIth International Seminar on Inclusion Compounds, T2-02 2001, Warsaw

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 藤田 佳平衛: 非グルコース環状オリゴ糖の合成・構造・機能に関する研究, 第19回シクロデキストリンシンポジウム, p16, 2001, 京都
2. 袁徳其, 楊 成, 福留 誠, 藤田 佳平衛, 二級水酸基側を修飾したシクロデキストリンの合成と触媒能, 日本化学会中国四国支部・同九州支部合同大会講演要旨集, 1B17, p45, 島根 (2001)

(B-b) 一般講演

1. 陳文華, 福留 誠, 藤岡 稔大, 袁 德其, 藤田 佳平衛: 柔軟な疎水空洞を有するシクロオリゴ糖対強硬なシクロデキストリン, 日本薬学会第 121 年会, 30 [C] 0936, 2001, 札幌
2. 大岩 根齋, 陳 文華, 袁 德其, 藤岡 稔大, 藤田 佳平衛: 柔軟性を有するシクロオリゴ糖の分子認識挙動, 日本薬学会第 121 年会, 29 [PD] I-002, 2001, 札幌
3. 福留 誠, 袁 德其, 藤田 佳平衛: 3A-アジド-モノアルトロ- -シクロデキストリンの位置選択的スルホニル化を利用した -シクロデキストリン-アジリジンの合成, 日本薬学会第 121 年会, 29 [PD] I-003, 2001, 札幌
4. 敦見将人, 泉田 真由子, 袁 德其, 藤田 佳平衛: モノ置換 -シクロデキストリンの渡環ジスルホニル化反応, 日本薬学会第 121 年会, 29 [PD] I-005, 2001, 札幌
5. 袁德其, 古賀 和隆, 藤岡 稔大, 藤田 佳平衛: 二個のスペーサーで架橋したシクロデキストリン二量体の合成と構造決定, 第 19 回シクロデキストリンシンポジウム, p164, 2001, 京都
6. 福留 誠, 袁 德其, 藤田 佳平衛: 3A-モノアジド-モノアルトロ- -シクロデキストリンの 2A-OH の活性化とアジリジンの合成, 第 19 回シクロデキストリンシンポジウム, p166, 2001, 京都
7. 袁德其, 楊 成, 福留 誠, 藤田 佳平衛: 二級水酸基側を修飾したシクロデキストリンの合成と触媒能, 日本化学会中国四国支部・同九州支部合同大会講演要旨集, B17, p45, 2001, 松江
8. 袁 Jia-Ming, 敦見 将人, 袁 德其, 藤田 佳平衛: シクロデキストリン双核錯体錯体によるアミド及びエステル加水分解, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 1B-13, 2001, 熊本
9. 福留誠, 袁 德其, 藤田 佳平衛: 2A-O-スルホニル-3A-アジド-モノアルトロ- - CD の選択的合成とその変換, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 1B-14, 2001, 熊本

学会役員等

1. 藤田佳平衛・教授, シクロデキストリン学会, 評議員

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	121 編	(邦文)	7 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	8 編
著書 (欧文)	4 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 薬化学
(氏名) 袁 徳其 (職名) 助教授

研究テーマ

1. 環状オリゴ糖の新合成法の開発
2. 人工酵素・レセプターの創製と応用

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. D-Q. Yuan, Yamada, and K. Fujita: Amplification activity Difference between Two Methylene Groups of Cyclodextrins via Chem. Commun. 2706-2707 (2001).
2. D-Q. Yuan, K. Koga, Y. Kouroggi, and K. Fujita: Synthesis of Cyclodextrin Conjugates, *Tetrahedron Lett.* **42**(38), 6727-6729 (2001).
3. M. Fukudome, T. Fujioka, D-Q. Yuan, and K. Fujita: Selection of One of the 21er Diff Hydroxyl Groups of Mono- α -cyclodextrin, *Tetrahedron Lett.* **42**(2), 293-295 (2001).
4. M. Luo, R-G. Xie, P-F. Xia, L. Tao, D-Q. Yuan and C-H. M. Zha properties of novel cyclodextrin dimers in the hydrolytic cleavage nitrophenyl kanoates, *J. Phys. Org. Chem.* **14**(8), 515-520 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. D-Q. Yuan, K. Koga, and K. Fujita: Prebisbenzimidazole-capped Cyclodextrins' Synthesis and Interaction with Some Azo-dyes, VII International Seminar on Inclusion Compounds, T1-10, 2001, Warsa
2. J-M. Yan, M. Matsumi, D-Q. Yuan, and K. Fujita: EDTA-Cyclodextrin Co Beraring Two Hydrophobic Binding Sites as Efficient Catalysis rfo Phosphodiester Hydrolysis, VIIIth International Seminar on inclusion Compounds, T2-02 2001, Warsaw

B 国内学会

(B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 袁徳其, 楊 成, 福留 誠, 藤田 佳平衛, 二級水酸基側を修飾したシクロデキストリンの合成と触媒能, 日本化学会中国四国支部・同九州支部合同大会講演要旨集, 1B17, p45, 島根 (2001)

(B-b) 一般講演

1. 陳文華, 福留 誠, 藤岡 稔大, 袁 徳其, 藤田 佳平衛: 柔軟な疎水空洞を有するシ

クロオリゴ糖対強硬なシクロデキストリン，日本薬学会第 121 年会，30 [C] 0936，2001，札幌

2. 大岩 根壽, 陳 文華, 袁 徳其, 藤岡 稔大, 藤田 佳平衛：柔軟性を有するシクロオリゴ糖の分子認識挙動，日本薬学会第 121 年会，29 [PD] I-002，2001，札幌
3. 福留 誠, 袁 徳其, 藤田 佳平衛：3A-アジド-モノアルトロ- -シクロデキストリンの位置選択的スルホニル化を利用した -シクロデキストリン-アジリジンの合成，日本薬学会第 121 年会，29 [PD] I-003，2001，札幌
4. 敦見将人, 泉田 真由子, 袁 徳其, 藤田 佳平衛：モノ置換 -シクロデキストリンの渡環ジスルホニル化反応，日本薬学会第 121 年会，29 [PD] I-005，2001，札幌
5. 袁徳其, 古賀 和隆, 藤岡 稔大, 藤田 佳平衛：二個のスペーサーで架橋したシクロデキストリン二量体の合成と構造決定，第 19 回シクロデキストリンシンポジウム，p164，2001，京都
6. 福留 誠, 袁 徳其, 藤田 佳平衛：3A-モノアジド-モノアルトロ- -シクロデキストリンの 2A-OH の活性化とアジリジンの合成，第 19 回シクロデキストリンシンポジウム，p166，2001，京都
7. 袁徳其, 楊 成, 福留 誠, 藤田 佳平衛：二級水酸基側を修飾したシクロデキストリンの合成と触媒能，日本化学会中国四国支部・同九州支部合同大会講演要旨集，B17，p45，2001，松江
8. 袁 Jia-Ming, 敦見 将人, 袁 徳其, 藤田 佳平衛：シクロデキストリン双核錯体錯体によるアミド及びエステル加水分解，第 18 回日本薬学会九州支部大会，1B-13，2001，熊本
9. 福留誠, 袁 徳其, 藤田 佳平衛：2A-O-スルホニル-3A-アジド-モノアルトロ- - CD の選択的合成とその変換，第 18 回日本薬学会九州支部大会，1B-14，2001，熊本

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	28 編	(漢文)	13 編
総説 (欧文)	0 編	(漢文)	4 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 薬化学
(氏名) 福留 誠 (職名) 助手

研究テーマ

1. 環状オリゴ糖の新合成法の開発
2. 人工酵素・レセプターの創製と応用

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. SImmel, K. Fujita, M. Fukudome, and M. Bolte: *Trimeric Starch Anhydro- β -cyclodextrins: A Molecular Dynamics and Crystallographic Study, Carbohydr. Res.* **336**, 29-308 (2001).
2. MFukudome, T. Fujioka, D-Q. Yuan, and K. Fujita: *Selective Protection of One of the 21erDiff Hydroxyl Groups of Mono- α - β -cyclodextrin, Tetrahedron Lett.* **42**(2), 293-295 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-a) 招待講演，特別講演，受賞講演

1. 袁徳其，楊 成，福留 誠，藤田 佳平衛，二級水酸基側を修飾したシクロデキストリンの合成と触媒能，日本化学会中国四国支部・同九州支部合同大会講演要旨集，1B17，p45，島根（2001）

(B-b) 一般講演

1. 陳文華，福留 誠，藤岡 稔大，袁 徳其，藤田 佳平衛：柔軟な疎水空洞を有するシクロオリゴ糖対強硬なシクロデキストリン，日本薬学会第 121 年会，30[C]0936，2001，札幌
2. 福留 誠，袁 徳其，藤田 佳平衛：3A-アジド-モノアルトロ- -シクロデキストリンの位置選択的スルホニル化を利用した -シクロデキストリン-アジリジンの合成，日本薬学会第 121 年会，29[PD]I-003，2001，札幌
3. 福留 誠，袁 徳其，藤田 佳平衛：3A-モノアジド-モノアルトロ- -シクロデキストリンの 2A-OH の活性化とアジリジンの合成，第 19 回シクロデキストリンシンポジウム，p166，2001，京都
4. 袁徳其，楊 成，福留 誠，藤田 佳平衛：二級水酸基側を修飾したシクロデキストリンの合成と触媒能，日本化学会中国四国支部・同九州支部合同大会講演要旨集，B17，p45，2001，松江
5. 福留誠，袁 徳其，藤田 佳平衛：2A-O-スルホニル-3A-アジド-モノアルトロ- -CD の選択的合成とその変換，第 18 回日本薬学会九州支部大会，1B-14，2001，熊本

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	6 編	（邦文）	0 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
特許	0 件		

(講座) 分子創薬科学

(氏名) 畑山 範

(研究室) 薬品製造化学

(職名) 教授

研究テーマ

1. 新規合成反応剤の開発研究
2. 効率的有機分子構築法の開発研究
3. 生理活性天然物の合成研究
4. ビタミン D 化合物の合成研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. S. Hatakeyama, A. Kawase, Y. Uchiyama, J. Maeyama, Y. Iwabuchi, and N. Kubodera: Synthesis and Biological Characterization of 1,24,25-Trihydroxy-2-(3-hydroxypropoxy)-vitamin D₃ (24-hydroxylated ED-71), *Steroids*, **66**, 267-276 (2001).
2. M. Kamao, S. Tatematsu, G. S. Reddy, S. Hatakeyama, M. Sugiura, N. Ohashi, N. Kubodera, and T. Okano: Isolation, Identification and Biological Activity of 24R,25-Dihydroxy-3-epi-vitamin D₃: A Novel Metabolite of 24R,25-Dihydroxyvitamin D₃ Produced in Rat Osteosarcoma Cells (UMR 106), *J. Nutr. Sci. Vitaminol.*, **47**, 108-115 (2001).
3. Y. Iwabuchi, T. Sugihara, T. Esumi, and S. Hatakeyama: An Enantio- and Stereocontrolled Route to Epopromycin B *via cincona* Alkaloid-Catalyzed Asymmetric Baylis-Hillman Reaction, *Tetrahedron Lett.*, **42**, 7867-7871 (2001).
4. Y. Iwabuchi, M. Furukawa, T. Esumi, and S. Hatakeyama: An enantio- and stereocontrolled synthesis of (-)-mycestericin E *via cinchona* alkaloid-catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction, *J. Chem. Soc., Chem. Commun.*, 2030-2031 (2001).
5. S. Hatakeyama, T. Okano, J. Maeyama, T. Esumi, H. Hiyamizu, Y. Iwabuchi, K. Nakagawa, K. Ozono, A. Kawase, and N. Kubodera: Synthesis and Evaluation of A-Ring Diastereomers of 1 α ,25-Dihydroxy-22-oxavitamin D₃ (OCT), *Bioorg. Med. Chem.*, **9**, 403-415 (2001).
6. K. Ito, T. Inoue, T. Takahashi, H.-S. Huang, T. Esumi, S. Hatakeyama, N. Tanaka, K. Nakamura, and T. Yoshimoto: The mechanism of substrate recognition of pyroglutamyl-peptidase I from *Bacillus amyloliquefaciens* as determined by X-ray crystallography and site-directed mutagenesis, *J. Biol. Chem.*, **276**, 18557-18562 (2001).
7. H. Ooi, A. Urushibara, T. Esumi, Y. Iwabuchi, and S. Hatakeyama: A Concise Enantioselective Synthesis of Antimalarial Febrifugine Alkaloids, *Org. Lett.*, **3**, 953-955 (2001).
8. T. Nishiyama, T. Nishioka, T. Esumi, Y. Iwabuchi, and S. Hatakeyama: Concise synthesis of (3R,4S)-3-hydroxy-4-methyl- γ -butyrolactone, *Heterocycles*, **54**, 69-72 (2001).
9. H. Hiyamizu, H. Ooi, Y. Inomoto, T. Esumi, Y. Iwabuchi, and S. Hatakeyama: A Concise Enantioselective Synthesis of a Key A-Ring Synthone for 1 α -Hydroxyvitamin D₃ Compounds, *Org. Lett.* **3**, 473-475 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Yoshiharu Iwabuchi, Mariko Furukawa, Tatsuya Sugihara, Mina Ushiyama, Mari Nakatani, Tomoyuki Esumi, Susumi Hatakeyama: *Cinchona* alkaloid catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction and its application, 18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Abstract p 68, Yokohama, Japan, July (2001).

B 国内学会

(B-a) 招待講演

1. 畑山 範：2,3-ブタジエニルケイ素及びスズ反応剤：その合成と活用、有機合成化学講演会、講演要旨集、p23、佐賀 (2001)。

(Bb) 一般講演

1. 平井加奈子、大井秀訓、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：ヘパラナーゼ阻害活性天然物テラキスピン酸の合成研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集、p18、札幌 (2001)。
2. 大井秀訓、冷水浩子、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：ビタミン D₃ A 環部ホスフィンオキシドの効率的合成法の開発；日本薬学会第 121 年会講演要旨集、p20、札幌 (2001)。
3. 岡本奈々子、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：抗腫瘍活性天然物 Fostriecin (CI-920) の合成研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集、p 20、札幌 (2001)。
4. 古川真利子、杉原達哉、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：触媒的不斉 Baylis-Hillman 反応に基づく Epopromycin Bの合成研究、日本薬学会第121年会講演要旨集、p51、札幌 (2001)。
5. 平井加奈子、大井秀訓、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：ヘパラナーゼ阻害活性天然物テラキスプ酸の全合成、第43回天然有機化合物討論会講演要旨集、p223、大阪 (2001)。
6. 江角朋之、岡本奈々子、岩淵好治、畑山 範：抗腫瘍活性天然物Fostriecin (CI-920) の効率的短工程合成、第27回反応と合成の進歩シンポジウム講演要旨集、p202、仙台 (2001)。
7. 岡本奈々子、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：位置選択的閉環メタセシス反応に基づく Fostriecinへのアプローチ、第18回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p82、熊本 (2001)。
8. 古川真利子、杉原達哉、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：*N*-保護- α -アミノアルデヒドを基質とするBaylis-Hillman反応、第18回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p83、熊本 (2001)。
9. 中野綾子、牛山美奈、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：キニーネからの新規 Baylis-Hillman 反応触媒の合成、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p84、熊本 (2001)。

研究費取得状況

1. 特異な構造をもつグルタミン酸受容体アゴニストおよびアンタゴニスト活性天然物

- の合成、基盤研究(B)(2)(代表)・10,100千円
2. 触媒的不斉ベイリスーヒルマン反応の展開に基づく置換クエン酸天然物の合成研究、基盤研究(C)(2)(分担)・2,600千円
 3. 分子内不斉ベイリス・ヒルマン反応に基づく高機能複素環状化合物の新合成戦略、特定領域研究(A)(2)(代表)・2,300千円
 4. 創薬リード化合物トラキスピン酸の不斉合成研究、東京生化学研究会研究助成(代表)・2,000千円
 5. 抗腫瘍活性置換クエン酸天然物トラキスピン酸の不斉合成研究、長瀬科学技術振興財団研究助成(代表)・2,500千円

【過去の研究業績総計】

原著論文(欧文)	98編	(和文)	0編
総説(欧文)	0編	(和文)	2編
著書(欧文)	1編	(和文)	3編
紀要(欧文)	0編	(和文)	0編
特許	8件		

(講座) 医薬品設計学 (研究室) 薬品製造化学
(氏名) 岩淵好治 (職名) 助教授

研究テーマ

1. 効率的有機分子構築法の開発
2. 生理活性天然物の合成研究
3. 生物機構探索分子の設計と合成に関する研究

A 欧文

(Aa) 原著論文

1. Y. Iwabuchi, M. Furukawa, T. Esumi, S. Hatakeyama: An enantio- and stereocontrolled synthesis of (-)-mycestericin E via cinchona alkaloid-catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction. *Chem. Commun.*, 2030-2031 (2001).
2. Y. Iwabuchi, T. Sugihara, T. Esumi, S. Hatakeyama,: An enantio- and stereocontrolled route to epopromycin B via cinchona alkaloid-catalyzed Baylis-Hillman reaction. *Tetrahedron Lett.* **42**, 7867-7871(2001),
3. S. Hatakeyama, T. Okano, J. Maeyama, T. Esumi, H. Hiyamizu, Y. Iwabuchi, K. Nakagawa, K. Ozono, A. Kawase, N. Kubodera, Synthesis and evaluation of A-Ring diastereomers of 1 α ,25-dihydroxy-22-oxavitamin D₃ (OCT)1. *Bioorg. Med. Chem.* **9**, 403-415 (2001).
4. H. Ooi, A. Urushibara, T. Esumi, Y. Iwabuchi, S. Hatakeyama, A Concise Enantioselective Synthesis of Antimalarial Febrifugine Alkaloids. *Organic Lett.*, **3**, 953-955 (2001).
5. T. Nishiyama, T. Nishioka, T. Esumi, Y. Iwabuchi, S. Hatakeyama, Concise synthesis of (3R,4S)-3-hydroxy-4-methyl- γ -butyrolactone. *Heterocycles* **54**, 69-72 (2001).

学会発表

A 国際学会

(Ab) 一般講演

1. Y. Iwabuchi, M. Furukawa, T. Sugihara, M. Ushiyama, M. Nakatani, T. Esumi, and S. Hatakeyama: *Cinchona* alkaloid catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction and its application, 18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Abstract p147, Yokohama, July (2001)
2. Y. Iwabuchi, M. Furukawa, T. Sugihara, M. Ushiyama, M. Nakatani, T. Esumi, and S. Hatakeyama: Chiral amine catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction and its application to natural product synthesis, The 16th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry, Nara, May (2001)

B 国内学会

(Ba) 招待講演

1. 岩淵好治: Morita-Baylis-Hillman 反応の不斉反応への展開、日本薬学会第 121 年会、講演要旨集 1、p184、札幌 (2001)

2. 岩淵好治, 古川真利子, 杉原達哉, 中谷真理, 江角朋之, 畑山 範 *Cinchona* アルカロイド誘導体が触媒する不斉 Baylis- Hillman 反応とその合成化学的活用に関する研究、第 19 回有機合成化学夏季大学講演要旨集、p41、門司 (2001)

(Bb) 一般講演

1. 平井加奈子、大井秀訓、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：ヘパラーゼ阻害天然物トラキスピン酸の合成研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 2、p 18、札幌 (2001)
2. 岡本奈々子、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：抗腫瘍活性天然物 Fosttiecin (CI-920) の合成研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 p 20、札幌 (2001)
3. 大井秀訓、冷水浩子、岩淵好治、畑山 範：抗腫瘍活性天然物 Fosttiecin (CI-920) の合成研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 p 20、札幌 (2001)
4. 古川真利子、杉原達哉、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：触媒的不斉 Baylis-Hillman 反応の活用に基づく Mycestericin E および Epopromycin B の合成研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 p 51、札幌 (2001)
5. 江角朋之、岡本奈々子、岩淵好治、畑山 範：抗腫瘍活性天然物 Fosttiecin (CI-920) の効率的短工程合成、第 27 回反応と合成の進歩シンポジウム、講演要旨集、p 202、仙台 (2001)
6. 平井加奈子、大井秀訓、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：ヘパラーゼ阻害活性天然物トラキスピン酸の全合成、第 43 回天然有機化合物討論会講演要旨集、p 223、大阪 (2001)
7. 岡本奈々子、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：位置選択的閉環メタセシス反応に基づく Fosttiecin へのアプローチ、第 18 回日本薬学会九州支部大会、講演要旨集、p 82、熊本 (2001)
8. 古川真利子、杉原達哉、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：N-保護- α -アミノアルデヒドを基質とする Baylis-Hillman 反応、第 18 回日本薬学会九州支部大会、講演要旨集、p 83、熊本 (2001)
9. 中野綾子、牛山美奈、江角朋之、岩淵好治、畑山 範：キニーネからの新規 Baylis-Hillman 反応触媒の合成、第 18 回日本薬学会九州支部大会、講演要旨集、p 84、熊本 (2001)

学会役員等

1. 天然物化学談話会, 世話人
2. ファルマシア・トピックス専門小委員

研究費取得状況

1. 触媒的不斉ベイリス-ヒルマン反応の展開に基づく置換クエン酸天然物の合成研究; 日本学術振興会基盤研究(C)・代表・2,600 千円
2. 特異な構造をもつグルタミン酸受容体アゴニストおよびアンタゴニスト活性天然物の合成; 日本学術振興会基盤研究(B)・分担 10,100 千円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	51 編	（和文）	0 編
総説（欧文）	0 編	（和文）	2 編
著書（欧文）	0 編	（和文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（和文）	0 編
特許	4 件		

(講座) 分子創薬科学

(研究室) 薬品製造化学

(氏名) 江角朋之

(職名) 助手

研究テーマ

生理活性有機化合物の効率的合成法に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Iwabuchi, Yoshiharu; Sugihara, Tatsuya; Esumi, Tomoyuki; Hatakeyama, Susumi; An Enantio- and Stereocontrolled Route to Epopromycin B *via cincona* Alkaloid-Catalyzed Asymmetric Baylis-Hillman Reaction; *Tetrahedron Lett.* **2001**, *42*, 7867-7871.
2. Iwabuchi, Yoshiharu; Furukawa, Mariko; Esumi, Tomoyuki; Hatakeyama, Susumi.; An enantio- and stereocontrolled synthesis of (-)-mycestericin E *via cinchona* alkaloid-catalyzed asymmetric Baylis-Hillman reaction.; *J. Chem. Soc., Chem. Commun.* **2001**, *19*, 2030-2031.
3. Hatakeyama, Susumi; Okano, Toshio; Maeyama, Junji; Esumi, Tomoyuki; Hiyamizu, Hiroko; Iwabuchi, Yoshiharu; Nakagawa, Kimie; Ozono, Keiichi; Kawase, Akira; Kubodera, Noboru; Synthesis and Evaluation of A-Ring Diastereomers of 1 α ,25-Dihydroxy-22-oxavitamin D₃ (OCT); *Bioorg. Med. Chem.* **2001**, *9*, 403-415.
4. Ito, Kiyoshi; Inoue, Takahiko; Takahashi, Tomoyuki; Huang, Hua-Shan; Esumi, Tomoyuki; Hatakeyama, Susumi; Tanaka, Nobutada; Nakamura, Kazuo T.; Yoshimoto, Tadashi.; The mechanism of substrate recognition of pyroglutamyl-peptidase I from *Bacillus amyloliquefaciens* as determined by X-ray crystallography and site-directed mutagenesis.; *J. Biol. Chem.* **2001**, *276*, 18557-18562.
5. Ooi, Hidenori; Urushibara, Ayumi; Esumi, Tomoyuki; Iwabuchi, Yoshiharu; Hatakeyama, Susumi.; A Concise Enantioselective Synthesis of Antimalarial Febrifugine Alkaloids.; *Org. Lett.* **2001**, *3*, 953-955.
6. Nishiyama, Takashi; Nishioka, Toshiko; Esumi, Tomoyuki; Iwabuchi, Yoshiharu; Hatakeyama, Susumi.; Concise synthesis of (3R,4S)-3-hydroxy-4-methyl- γ -butyrolactone.; *Heterocycles* **2001**, *54*, 69-72.
7. Hiyamizu, Hiroko; Ooi, Hidenori; Inomoto, Yoko; Esumi, Tomoyuki; Iwabuchi, Yoshiharu; Hatakeyama, Susumi.; A Concise Enantioselective Synthesis of a Key A-Ring Synthone for 1 α -Hydroxyvitamin D₃ Compounds.; *Org. Lett.* **2001**, *3*, 473-475.

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 岡本奈々子, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; 位置選択的閉環メタセシス反応に基づく Fostriecin へのアプローチ; 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集 (2001), 82.
2. 古川真利子, 杉原達哉, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; *N*-保護- α -アミノアルデヒドを基質とする Baylis-Hillman 反応; 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集 (2001), 83.
3. 中野綾子, 牛山美奈, 江角朋之, 岩渕好治, キニーネからの新規 Baylis-Hillman 反応触媒の合成; 第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集 (2001), 84.
4. 江角朋之, 岡本奈々子, 岩渕好治, 畑山範; 抗腫瘍活性天然物 Fostriecin (CI-920) の効率的短工程合成; 第 27 回反応と合成の進歩シンポジウム講演要旨集 (2001), 202-203.
5. 平井加奈子, 大井秀訓, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; ヘパラナーゼ阻害活性天然物トラキスプ酸の全合成; 第 43 回天然有機化合物討論会講演要旨集 (2001), 223-228.
6. 平井加奈子, 大井秀訓, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; ; ヘパラナーゼ阻害活性天然物トラキスピン酸の合成研究; 日本薬学会第 121 年会講演要旨集, (2001), 18.
7. 大井秀訓, 冷水浩子, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; ビタミン D₃A 環部ホスフィンオキシドの効率的合成法の開発; 日本薬学会第 121 年会講演要旨集, (2001), 20.
8. 岡本奈々子, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; 抗腫瘍活性天然物 Fostriecin (CI-920) の合成研究; 日本薬学会第 121 年会講演要旨集, (2001), 20.
9. 古川真利子, 杉原達哉, 江角朋之, 岩渕好治, 畑山範; 触媒的不斉 Baylis-Hillman 反応に基づく Epopromycin B の合成研究; 日本薬学会第 121 年会講演要旨集, (2001), 51.

研究費取得状況

DNA 生合成阻害型抗腫瘍活性天然物 Fostriecin の全合成研究/科学研究費補助金奨励研究 (A)/

江角朋之/80 (単位, 万円)

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	16 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		

平成13年度長崎大学大学院薬学研究科自己評価
個人研究業績(2001.1-2001.12)

(講座) 医薬品設計学

(研究室) 医薬品合成化学

(氏名) 松村功啓

(職名) 教授

研究テーマ

1. ピペリジン骨格の位置及び立体選択的官能基化とピペリジンアルカロイド合成への応用
2. 含窒素化合物の不斉合成
3. 新規含窒素不斉配位子の効率的合成
4. 含フッ素化合物の合成
5. 水環境場における有機反応の制御
6. 環境に優しい有機合成反応の開拓

(A-a) 原著論文(欧文)

1. First chemo- and stereoselective reduction of imines using trichlorosilane activated with *N*-formylpyrrolidine derivatives,
F. Iwasaki, O. Onomura, K. Mishima, T. Kanematsu, T. Maki, and Y. Matsumura,
Tetrahedron Lett., **42**(13), 2525-2527 (2001).
2. Construction of Persistent Phenoxy Radical with Intramolecular Hydrogen Bonding,
T. Maki, Y. Araki, Y. Ishida, O. Onomura, and Y. Matsumura,
J. Am. Chem. Soc., **123** (14), 3371-3372 (2001).
3. Memory of chirality in the non-Kolbe reaction of *N*-arylcabonylated L-prolines,
Y. Matsumura, T. Tanaka, T. Maki, and O. Onomura,
J. Electroanal. Chem., **507**(1,2) 71-74 (2001).
4. Effects of trifluoroethanol as a co-solvent on electrochemical oxidation of hardly oxidizable organic compounds
K. Shirai, T. Hamamoto, T. Maki, O. Onomura, N. Kise, Y. Aoyama, and Y. Matsumura,
J. Electroanal. Chem., **507**(1,2) 191-197 (2001).

(B-a) 著書(欧文)

(B-b) 著書(邦文)

学会発表

(A-a) 国際学会(招待講演)

1. Y. Matsumura, O. Onomura, G. N. Wanyoike, T. Tanaka, K. Shirai, and Y. Ishida
Electrochemical Generation of Optically Active Iminium Ion,
2001 Joint International Meeting between the 200th Meeting of the Electrochemical Society
and the 52th Meeting of the International Society of Electrochemistry,
Abstr. Vol. 2001-2, 1209. Sep. 2-7, San Francisco, U.S.A. (2001).

(A-b) 国際学会(一般講演)

1. Y. Matsumura, Y. Ishida, K. Shirai, T. Maki, and O. Onomura:
A New Method for the Preparation of Enantiomerically Pure α -Substituted Pyrrolidines,

18th International Congress of Hetrocyclic Chemistry, Yokohama,
Abstr. 30-PO-112, p. 172. July 29-Aug. 3, 2001.

2. O. Onomura, T. Kanematsu, T. Maki, F. Iwasaki, Y. matsumura:
Selectvie Reduction Using Trichlorosilane
International Symposium on Integrated Synthesis 2001 (ISIS-2001), June 19-20, Kyoto,
Japan (2001)
3. Y. Matsumura, T. Maki, O. Onomura:
Tin-catalyzed Recognition of 1,2-Diols and Its Application to Organic Synthesis:
Electrochemical oxidation and Selective Monobenzoylation,
Xth International Conference on the Coordination and Organometallic Chemistry of
Germanium, Tin and Lead (ICCOC-GTL-10), Abstr., 2P49, July 8-12, Bordeaux, France
(2001).
4. O. Onomura, K. Shirai, T. Maki, Y. Matsumura,
Electrochemical Oxidation of 2,2,2-Trifluoroethanol and Its Application to Preparation of
Trifluoromethylated Compounds
XIVth Entretiens du Centre Jacques Cartier, Fluorine Symposium, Abstr. p.34, Dec. 2-5,
Lyon (France) (2001).

国内

(B-a) (招待講演)

1. 松村功啓：メディアによる有機電解酸化の制御
2001年電気化学秋季大会講演要旨集、特1G17、p.124、東京（東京理科大学）、
2001年9月20, 21日（発表20日）。

依頼講演

国内学会

(B-b) (一般講演)

1. 松村功啓・白井公博・浜本太二・真木俊英・尾野村治：N-(2,2,2-トリフルオロエチリデン)アミンの電解還元アリル化とその立体化学、
日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 07, p.739、神戸（甲南大学）、2001年
3月28-31日（発表30日）。
2. 松村功啓・安藤寿・真木俊英・尾野村治：カルバメートの電極酸化による脱アリル化
および脱ベンジル化反応、
日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 10, p.739、神戸（甲南大学）、2001年3月
28-31日（発表30日）。
3. 松村功啓・田中孝義・ワンヨイケ ジョージ ナガ・尾野村治・真木俊英：プロリン
誘導体の異常コルベ反応における不斉記憶型脱炭酸反応に及ぼす因子の解明、
日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11, p.740、神戸（甲南大学）、2001年3月
28-31日（発表30日）。
4. 松村功啓・真木俊英・石田幸広・白井公博・尾野村治：トリフルオロアセトアルデヒド
を保護化剤とするキラルイミニウムイオンの発生とその反応、日本化学会第79春季
年会講演要旨集II、3 B3 12, p.740、神戸（甲南大学）、2001年3月28-31日（発表30日）。
5. 松村功啓・中村靖治・真木俊英・尾野村治： - 不飽和イミニウムイオンへの炭
素求核剤の触媒的不斉導入反応、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11, p.
1250、神戸（甲南大学）、2001年3月
6. 松村功啓・村上紗千恵・真木俊英・尾野村治・岩崎史哲：水環境場における反応制

- 御；糖類の触媒的モノベンゾイル化反応、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11, p. 1249、神戸（甲南大学）、2001年3月
7. 松村功啓・兼松武史・真木俊英・尾野村治・岩崎史哲：トリクロロシランによるカルボニル化合物の選択的還元、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11, p. 1250、神戸（甲南大学）、2001年3月
 8. 松村功啓、真木俊英、林 直樹、尾野村 治、：亜硝酸酸化によるカルバメートの位置選択的炭素-炭素結合開裂反応機構に関する研究、日本薬学会第121回年会（2001年3月28-30日）、講演要旨集 2、28[PA]III-019, ロイトン札幌（発表28日）。
 9. 松村功啓、真木俊英、村上紗千恵、尾野村 治、岩崎史哲：有機スズ触媒による糖類の位置選択的モノベンゾイル化反応、日本薬学会第121回年会（2001年3月28-30日）、講演要旨集 2、29[PA]I-047, ロイトン札幌（発表29日）。
 10. 松村功啓・田中孝義・ジョージワンヨイケナガ・真木俊英・尾野村治：アシルイミニウムイオンの不斉記憶に及ぼす構造効果、電気化学会第68回大会講演要旨集、p.143、神戸（神戸大学）、2001年4月1-3日（発表3日）。
 11. George Ng'ang'a Wanyoike, Osamu Onomura, Toshihide Maki, Yoshihiro Matsumura: Memory of Chirality in the non-Kolbe Reaction of N-Acyl- α -amino Acids、第25回エレクトロオーガニックケミストリー討論会要旨集、pp. 9-10、京都（平安会館）、2001年6月18,19日（発表18日）。
 12. 白井公博・真木俊英・尾野村治・松村功啓：-トリハロアミンの電極酸化と有機合成への応用、2001年電気化学秋季大会講演要旨集、1G20、p.125、東京（東京理科大学）、2001年9月20,21日（発表20日）。
 13. 松村功啓、真木俊英、村上紗千恵、弦牧一也、尾野村治：水環境場における無保護糖の選択的モノベンゾイル化とその応用、日本化学会第80秋季年会講演要旨集、p.262、3G1-13、西千葉（千葉大学）、2001年9月20-23日（発表21日）。
 14. 真木俊英・村上紗千恵・尾村治・松村功啓：キラルルイス酸を用いる1,2-ジオール選択的不斉アシル化反応、第27回反応と合成の進歩シンポジウム 講演要旨集、p.72、仙台、2001年11月
 15. 岩崎史哲・兼松武史・尾野村 治・真木俊英・松村功啓:トリクロロシラン活性化の新手法と選択的還元への利用、第80回有機合成化学シンポジウム、講演要旨集、p.47-50、東京（科学技術館サイエンスホール）、2001年11月7-9日（発表7日）。
 16. 松村功啓・兼松武史・尾野村治・真木俊英・岩崎史哲:トリクロロシラン還元に及ぼすカルボニル化合物の構造の影響、日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p.38、熊本（熊本大学）、2001年13月15, 16日（発表15日）。
 17. 松村功啓、村上紗千恵、真木俊英、尾野村治 :1,2 - ジオール選択的アシル化におけるルイス酸の役割、日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p.37、熊本（熊本大学）、2001年13月15, 16日（発表15日）。

科研費取得状況

1. 多元素環状化合物の創製、特定領域研究（A）代表；2,300千円
2. 文部科学省科学研究費基盤研究(B)(2) 代表；7,400千円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	115編	（和文）	4編
総説（欧文）	0編	（和文）	20編
著書（欧文）	3編	（和文）	6編
紀要（欧文）	0編	（和文）	0編

平成13年度長崎大学大学院薬学研究科自己評価
個人研究業績 (2001.1-2001.12)

(講座) 医薬品設計学 (研究室) 医薬品合成化学

(氏名) 尾野村 治 (職名) 助教授

研究テーマ

1. ピペリジン骨格の位置及び立体選択的官能基化とピペリジンアルカロイド合成への応用
2. 珪素化合物を用いた有機合成
3. 含フッ素化合物の合成

(A-a) 原著論文 (欧文)

1. First chemo- and stereoselective reduction of imines using trichlorosilane activated with *N*-formylpyrrolidine derivatives,
F. Iwasaki, O. Onomura, K. Mishima, T. Kanematsu, T. Maki, and Y. Matsumura,
Tetrahedron Lett., **42**(13), 2525-2527 (2001).
2. Construction of Persistent Phenoxy Radical with Intramolecular Hydrogen Bonding,
T. Maki, Y. Araki, Y. Ishida, O. Onomura, and Y. Matsumura,
J. Am. Chem. Soc., **123** (14), 3371-3372 (2001).
3. Memory of chirality in the non-Kolbe reaction of *N*-arylcabonylated L-prolines,
Y. Matsumura, T. Tanaka, T. Maki, and O. Onomura,
J. Electroanal. Chem., **507**(1,2) 71-74 (2001).
4. Effects of trifluoroethanol as a co-solvent on electrochemical oxidation of hardly oxidizable organic compounds
K. Shirai, T. Hamamoto, T. Maki, O. Onomura, N. Kise, Y. Aoyama, and Y. Matsumura,
J. Electroanal. Chem., **507**(1,2) 191-197 (2001).

学会発表

(A-a) 国際学会 (招待講演)

1. Y. Matsumura, O. Onomura, G. N. Wanyoike, T. Tanaka, K. Shirai, and Y. Ishida
Electrochemical Generation of Optically Active Iminium Ion,
2001 Joint International Meeting between the 200th Meeting of the Electrochemical Society and the 52th Meeting of the International Society of Electrochemistry,
Abstr. Vol. 2001-2, 1209. Sep. 2-7, San Francisco, U.S.A. (2001).

(A-b) 国際学会 (一般講演)

1. Y. Matsumura, Y. Ishida, K. Shirai, T. Maki, and O. Onomura:
A New Method for the Preparation of Enantiomerically Pure α -Substituted Pyrrolidines,
18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Yokohama,
Abstr. 30-PO-112, p. 172. July 29-Aug. 3, 2001.
2. O. Onomura, T. Kanematsu, T. Maki, F. Iwasaki, Y. Matsumura:
Selective Reduction Using Trichlorosilane
International Symposium on Integrated Synthesis 2001 (ISIS-2001), June 19-20, Kyoto, Japan (2001)

3. Y. Matsumura, T. Maki, O. Onomura:
Tin-catalyzed Recognition of 1,2-Diols and Its Application to Organic Synthesis:
Electrochemical oxidation and Selective Monobenzoylation,
Xth International Conference on the Coordination and Organometallic Chemistry of
Germanium, Tin and Lead (ICCOC-GTL-10), Abstr., 2P49, July 8-12, Bordeaux, France
(2001).
4. O. Onomura, K. Shirai, T. Maki, Y. Matsumura,
Electrochemical Oxidation of 2,2,2-Trifluoroethanol and Its Application to Preparation of
Trifluoromethylated Compounds
XIVth Entretiens du Centre Jacques Cartier, Fluorine Symposium, Abstr. p.34, Dec. 2-5,
Lyon (France) (2001).

国内学会

(B-b) (一般講演)

1. 松村功啓、白井公博、浜本太二、真木俊英、尾野村治：N-(2,2,2-トリフルオロエチリデン)アミンの電解還元アリル化とその立体化学、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 07、p.739、神戸(甲南大学)、2001年3月28-31日.
2. 松村功啓、安藤寿、真木俊英・尾野村治：カルバメートの電極酸化による脱アリル化および脱ベンジル化反応、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 10、p.739、神戸(甲南大学)、2001年3月28-31日.
3. 松村功啓田中孝義、ワンヨイケ ジョージ ナガ、尾野村治、真木俊英：プロリン誘導体の異常コルベ反応における不斉記憶型脱炭酸反応に及ぼす因子の解明、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11、p.740、神戸(甲南大学)、2001年3月28-31日.
4. 松村功啓、真木俊英、石田幸広、白井公博、尾野村治：トリフルオロアセトアルデヒドを保護化剤とするキラルイミニウムイオンの発生とその反応、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 12、p.740、神戸(甲南大学)、2001年3月28-31日.
5. 松村功啓、中村靖治、真木俊英、尾野村治： , - 不飽和イミニウムイオンへの炭素求核剤の触媒的不斉導入反応、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11、p. 1250、神戸(甲南大学)、2001年3月.
6. 松村功啓、村上紗千恵、真木俊英、尾野村治、岩崎史哲：水環境場における反応制御；糖類の触媒的モノベンゾイル化反応、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11、p. 1249、神戸(甲南大学)、2001年3月.
7. 松村功啓、兼松武史、真木俊英、尾野村治、岩崎史哲：トリクロロシランによるカルボニル化合物の選択的還元、日本化学会第79春季年会講演要旨集II、3 B3 11、p. 1250、神戸(甲南大学)、2001年3月.
8. 松村功啓、真木俊英、林 直樹、尾野村 治：亜硝酸酸化によるカルバメートの位置選択的炭素-炭素結合開裂反応機構に関する研究、日本薬学会第121回年会講演要旨集 2、28[PA]III-019、札幌(ロイトン札幌)、2001年3月28-30日.
9. 松村功啓、真木俊英、村上紗千恵、尾野村 治、岩崎史哲：有機スズ触媒による糖類の位置選択的モノベンゾイル化反応、日本薬学会第121回年会講演要旨集 2、29[PA]I-

047、札幌（ロイトン札幌）、2001年3月28-30日.

10. 松村功啓、田中孝義、ジョージワンヨイケナガ、真木俊英、尾野村治：アシルイミニウムイオンの不斉記憶に及ぼす構造効果、電気化学会第68回大会講演要旨集、p.143、神戸（神戸大学）、2001年4月1-3日.
11. George Ng'ang'a Wanyoike, Osamu Onomura, Toshihide Maki, Yoshihiro Matsumura : Memory of Chirality in the non-Kolbe Reaction of N-Acyl- α -amino Acids、第25回エレクトロオーガニックケミストリー討論会要旨集、pp. 9-10、京都（平安会館）、2001年6月18,19日.
12. 白井公博、真木俊英、尾野村治、松村功啓：-トリハロアミンの電極酸化と有機合成への応用、2001年電気化学秋季大会講演要旨集、1G20、p.125、東京（東京理科大学）、2001年9月20,21日.
13. 松村功啓、真木俊英、村上紗千恵、弦牧一也、尾野村治：水環境場における無保護糖の選択的モノベンゾイル化とその応用、日本化学会第80秋季年会講演要旨集、p.262、3G1-13、西千葉（千葉大学）、2001年9月20-23日.
14. 真木俊英、村上紗千恵、尾野村治、松村功啓：キラルルイス酸を用いる1,2-ジオール選択的不斉アシル化反応、第27回反応と合成の進歩シンポジウム 講演要旨集、p.72、仙台、2001年11月
15. 岩崎史哲、兼松武史、尾野村治、真木俊英、松村功啓：トリクロロシラン活性化の新手法と選択的還元への利用、第80回有機合成化学シンポジウム、講演要旨集、p.47-50、東京（科学技術館サイエンスホール）、2001年11月7 - 9日（発表7日）.
16. 松村功啓、兼松武史、尾野村治、真木俊英、岩崎史哲：トリクロロシラン還元に及ぼすカルボニル化合物の構造の影響、日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p.38、熊本（熊本大学）、2001年12月15 - 16日（発表15日）.
17. 松村功啓、村上紗千恵、真木俊英、尾野村治：1,2 - ジオール選択的アシル化におけるルイス酸の役割、日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p.37、熊本（熊本大学）、2001年12月15 - 16日（発表15日）.

科研費取得状況

1. 有機運分子によるトリクロロシランの触媒的活性化法の開拓、文部科学省科学研究費基盤研究(C)(2) 代表；1,400千円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	24編	（和文）	1編
総説（欧文）	0編	（和文）	0編
著書（欧文）	1編	（和文）	0編
紀要（欧文）	0編	（和文）	0編

(講座) 分子創薬科学
(氏名) 真木俊英

(研究室) 医薬品合成化学
(職名) 助手

研究テーマ

1. 1,2-ジオール、ポリオール類の触媒的有機変換法の開発に関する研究
2. 生理活性化合物の簡便合成法に関する研究
3. 電気化学的手法を用いた酸化反応機構の解明
4. 水反応場を利用した有機合成手法に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Y. Matsumura, T. Tanaka, T. Maki, and O. Onomura, Memory of chirality in the non-Kolbe reaction of N-arylcarbonylated L-prolines, *J. Electroanal. Chem.*, 507 (1,2), 71-74 (2001).
2. K. Shirai, T. Hamamoto, Y. Matsumura, T. Maki, O. Onomura, N. Kise, Y. Aoyama, and Y. Matsumura, Effects of trifluoroethanol as a co-solvent on electrochemical oxidation of hardly oxidizable organic compounds, *J. Electroanal. Chem.*, 507 (1,2), 191-197 (2001).
3. F. Iwasaki, O. Onomura, K. Mishima, T. Kanematsu, T. Maki, and Y. Matsumura, First chemo- and stereoselective reduction of imines using trichlorosilane activated with N-formylpyrrolidine derivatives, *Tetrahedron Lett.*, 42, (13), 2525-2527 (2001).
4. T. Maki, Y. Araki, Y. Ishida, O. Onomura, and Y. Matsumura, Construction of Persistent Phenoxy Radical with Intramolecular Hydrogen Bonding, *J. Am. Chem. Soc.* 123 (14), 3371-3372 (2001).

学会発表

(A-b) 一般講演

1. Yoshiro Matsumura, Yukihiro Ishida, Kimihiro Shirai, Toshihide Maki, and Osamu Onomura: Electrochemical generation of trifluoromethylated chiral iminium ion: 18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, p. 172, Yokohama, July-August, 2001.
2. Y. Matsumura, Y. Ishida, K. Shirai, T. Maki, and O. Onomura: A New Method for the Preparation of Enantiomerically Pure α -Substituted Pyrrolidines, 18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, Yokohama, Abstr. 30-PO-112, p. 172. July 29-Aug. 3, 2001.
3. O. Onomura, T. Kanematsu, T. Maki, F. Iwasaki, Y. Matsumura: Selective Reduction Using Trichlorosilane International Symposium on Integrated Synthesis 2001 (ISIS-2001), June 19-20, Kyoto, Japan (2001)
4. Y. Matsumura, T. Maki, O. Onomura: Tin-catalyzed Recognition of 1,2-Diols and Its Application to Organic Synthesis: Electrochemical oxidation and Selective Monobenzylation, Xth International Conference on the Coordination and Organometallic Chemistry of Germanium, Tin and Lead (ICCOC-GTL-10), Abstr., 2P49, July 8-12, Bordeaux, France (2001).
5. O. Onomura, K. Shirai, T. Maki, Y. Matsumura, Electrochemical Oxidation of 2,2,2-Trifluoroethanol and Its Application to Preparation of Trifluoromethylated Compounds XIVth Entretiens du Centre Jacques Cartier, Fluorine Symposium, Abstr. p.34, Dec. 2-5, Lyon

(France) (2001).

(B-b) 一般講演

1. 松村功啓・田中孝義・ワンヨイケ ジョージ ナガ・尾野村 治・真木俊英：プロリン誘導体の異常コルベ反応における不斉記憶型脱炭酸反応に及ぼす因子の解明、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 740、兵庫、2001 年 3 月
2. 松村功啓・中村靖治・真木俊英・尾野村治： , - 不飽和イミニウムイオンへの炭素求核剤の触媒的不斉導入反応、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 1250、兵庫、2001 年 3 月
3. 松村功啓・村上紗千恵・真木俊英・尾野村治・岩崎史哲：水環境場における反応制御；糖類の触媒的モノベンゾイル化反応、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 1249、兵庫、2001 年 3 月
4. 松村功啓・真木俊英・石田幸弘・白井公博・尾野村治：トリフルオロアセトアルデヒドを保護化剤とするキラルイミニウムイオンの発生とその反応、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 740、兵庫、2001 年 3 月
5. 松村功啓・兼松武史・真木俊英・尾野村治・岩崎史哲：トリクロロシランによるカルボニル化合物の選択的還元、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 1250、兵庫、2001 年 3 月
6. 松村功啓・安藤寿・真木俊英・尾野村治：カルバメートの電極酸化による脱アリル化および脱ベンジル化反応、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 739、兵庫、2001 年 3 月
7. 松村功啓・白井公博・浜本太二・真木俊英・尾野村治：N-(2,2,2-トリフルオロエチリデン)アミンの電解還元アリル化とその立体化学、日本化学会第 79 春季年会講演要旨集、p. 739、兵庫、2001 年 3 月
8. 松村功啓・真木俊英・林直樹・尾野村治：亜硝酸酸化によるカルバメートの位置選択的炭素—炭素結合開裂反応機構に関する研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 2、p. 38、札幌、2001 年 3 月
9. 松村功啓・真木俊英・村上紗千恵・尾野村治・岩崎史哲：有機スズによる糖類の位置選択的モノベンゾイル化反応、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 2、p. 59、札幌、3 月
10. 松村功啓・田中孝義・ジョージワンヨイケナガ・真木俊英・尾野村治：アシルイミニウムイオンの不斉記憶に及ぼす構造効果、電気化学会第 68 回大会講演要旨集、p.143、神戸（神戸大学）、2001 年 4 月 1-3 日.
11. George Ng'ang'a Wanyoike, Osamu Onomura, Toshihide Maki, Yoshihiro Matsumura: Memory of Chirality in the non-Kolbe Reaction of N-Acyl- α -amino Acids、第 25 回エレクトロオーガニックケミストリー討論会要旨集、pp. 9-10、京都（平安会館）、2001 年 6 月 18,19 日.
12. 白井公博・真木俊英・尾野村治・松村功啓： -トリハロアミンの電極酸化と有機合成への応用、2001 年電気化学秋季大会講演要旨集、1G20、p.125、東京（東京理科大学）、2001 年 9 月 20,21 日.
13. 松村功啓・真木俊英・村上紗千恵・弦牧一也・尾野村治：水環境場における無保護糖の選択的モノベンゾイル化とその応用、日本化学会第 80 秋期年会講演要旨集、p. 262、千葉、2001 年 9 月
14. 真木俊英・村上紗千恵・尾村治・松村功啓：キラルルイス酸を用いる 1,2-ジオール選択的不斉アシル化反応、第 27 回反応と合成の進歩シンポジウム、講演要旨集、P.72、仙台、2001 年 11 月

15. 岩崎史哲・兼松武史・尾野村 治・真木俊英・松村功啓:トリクロロシラン活性化の
新手法と選択的還元への利用、第 80 回有機合成化学シンポジウム、講演要旨集、p.47-50、
東京（科学技術館サイエンスホール） 2001 年 11 月 7-9 日
16. 松村功啓・村上紗千恵・真木俊英・尾野村治：1,2-ジオール選択的アシル化反応にお
けるルイス酸の役割、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p.37、熊本、2001
年 12 月
17. 松村功啓・兼松武史・尾野村治・真木俊英・岩崎史：トリクロロシラン還元にあ
ぼすカルボニル化合物の構造の影響、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p.38、
熊本、2001 年 12 月

研究費取得状況

1. 上原記念生命科学財団研究奨励金；ポリオール選択的活性化触媒の開発；代表；2 0
0 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	35 編	（邦文）	0 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
著書（欧文）	4 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	1 編
特許	4 件		

(講座) 医薬品設計学

(研究室) 機能性分子化学

(氏名) 甲斐雅亮

(職 名) 教授

研究テーマ

- 1 . 生体内の機能性物質の光学的な高認識用有機試薬の創製研究
- 2 . 核酸、ペプチド、アミノ酸などに対する物理分析化学的研究
- 3 . 遺伝子解析に必要な超高感度画像検出法の開発研究
- 4 . 未知生体物質の病態検査学的解析研究

学術論文

(A-a) 原著論文

1. S. S. Lee, M. Kai, M. K. Lee: Inhibitory effects of sanguinarine on monoamine oxidase activity in mouse brain, *Phytother. Res.*, **15(2)**, 167-169 (2001) .
2. M. Tsuchie, S. Hara, M. Kimura, M. Fujii, N. Ono, M. Kai: Determination of anti-virus drug, ganciclovir, in human serum by HPLC with precolumn fluorescence derivatization using phenylglyoxal, *Anal. Sci.*, **17**, 811-814 (2001) .
3. S. H. Kim, J. S. Shin, J. J. Lee, S. Y. Yin, M. Kai, M. K. Lee: Effects of hydrastine derivatives on dopamine biosynthesis in PC 12 cells, *Planta Med.*, **67**, 609-613 (2001) .
4. J. Lu, C. Lau, M. Morizono, K. Ohta, and M. Kai: A Chemiluminescence Reaction between Hydrogen peroxide and Acetonitrile and Its Applications, *Anal. Chem.*, 2001, **73**, 5979-5983.

(B-c) 著書

1. 和田光弘, 黒田直敬, 八木沢皓記, 甲斐雅亮, 中島憲一郎: 初版 薬学の分析化学 (第6章有機定性分析); 編者 財津一郎, 山口政俊; 廣川書店, 東京, pp. 181-244 (2001) .
2. N. Kuroda, M. Kai, K. Nakashima: Chemiluminescence in Analytical Chemistry (Chapter 14, Chemiluminescence detection in liquid chromatography); Ed. by A. M. Garcia-Campana, W. R. G. Baeyens; Marcel dekker, Inc., New York・Basel, pp. 393-425 (2001).
3. M. Kai, K. Ohta, N. Kuroda, K. Nakashima: Chemiluminescence in Analytical Chemistry (Chapter 19, Chemiluminescence and bioluminescence in DNA analysis); Ed. by A. M. Garcia-Campana, W. R. G. Baeyens; Marcel dekker, Inc., New York・Basel, pp. 551-566 (2001).
4. 甲斐雅亮: 改訂5版 分析化学便覧 (第2章2.2.3 有機定性分析); 編者 日本分析化学会; 丸善, 東京, pp. 15- 18 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-a)招待講演

1. 甲斐雅亮：HPLCを用いるペプチドの高感度微量検索技術の開発；日本分析化学会第50年会，講演要旨集 p427，熊本(2001)。

(B-b)一般講演

1. 太田和子，上山暁子，八木沢皓記，甲斐雅亮：化学発光性高分子—分光学的特性—；日本薬学会121年会，講演要旨集（4） p146，札幌(2001)。
2. 森園幹峰，太田和子，八木沢皓記，城之下雅夫，千田正昭，甲斐雅亮：新規化学発光性エドマン試薬によるアミノ酸誘導体のHPLC：ポストカラム化学発光検出条件；日本化学会第79春季年会，講演要旨集 I p15，神戸(2001)。
3. 森園幹峰，太田和子，八木沢皓記，甲斐雅亮：新規化学発光性エドマン試薬を用いるアミノ酸誘導体のHPLC分離と検出；第8回クロマトグラフィ—シンポジウム，Chromatography, **22**, 15-16 (2001)，東京(2001)。
4. 藤本長士，太田和子，八木沢皓記，林田真二郎，甲斐雅亮：醤油成分中の未知N末端トリプトファン含有ペプチドの検索；日本分析化学会第50年会，講演要旨集p64，熊本(2001)。
5. 山口 隆，太田和子，八木沢皓記，甲斐雅亮：ルミノールを用いる化学発光性ポリマーの合成と評価；日本分析化学会第50年会，講演要旨集 p 78，熊本(2001)。
6. 平山富美子，太田和子，八木沢皓記，甲斐雅亮：テロメアDNAの新しい化学発光画像検出法：TMPG試薬を用いた基礎検討；第18回日本薬学会九州支部大会，講演要旨集集 p 48，熊本(2001)。
7. 上山暁子，太田和子，八木沢皓記，甲斐雅亮：イソインドール化合物を用いた発光性高分子プローブの開発と分光学的評価；第18回日本薬学会九州支部大会，講演要旨集 p 49，熊本(2001)。
8. 榊田耕生，太田和子，八木沢皓記，甲斐雅亮：エドマン用発光試薬CEICの開発：分光学的基礎検討；第18回日本薬学会九州支部大会，講演要旨集 p 50，熊本(2001)。
9. 尾上知子，石橋綾子，小関浩未，太田和子，甲斐雅亮，八木沢皓記：ペプチドC末端 O-アシルーオキサゾロンの化学的性質と利用；第18回日本薬学会九州支部大会，講演要旨集 p 67，熊本(2001)。
10. 益子暁生，太田和子，甲斐雅亮，八木沢皓記：ペプチドC末端ヒドロキサム酸のLossen転位の研究；第18回日本薬学会九州支部大会，講演要旨集 p 68，熊本(2001)。

学会役員等

1. 日本分析化学会九州支部 幹事
2. 日本薬学会 薬学雑誌編集委員
3. 日本分析化学会 代議員

研究費取得状況

1. アミノ酸配列決定に用いる新規化学発光ラベル化試薬の開発，科学研究費補助金（萌芽的研究，代表）500千円
2. cDNAプローブの高感度検出に関する新規化学発光性高分子の機能評価，科学研究費補助金（特別研究員奨励費，代表）1200千円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	84 編	（和文）	4 編
総説（欧文）	3 編	（和文）	10 編
著書（欧文）	5 編	（和文）	13 編
紀要（欧文）	0 編	（和文）	18 編

(講座) 医薬品設計学

(研究室) 機能性分子化学

(氏名) 八木沢皓記

(職名) 助教授

研究テーマ

1. 酵素の作用機構の研究
2. 蛋白質の半合成の研究
3. 蛋白質のアミノ酸配列決定法の研究

原著論文

(A-a) 原著論文(欧文)

学会発表

(B-b) 国内学会(一般講演)

1. 太田和子, 上山暁子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: 化学発光性高分子—分光学的特性—, 日本薬学会 121 年会講演要旨集(4), 29 PD III 009, p146, 札幌(2001).
2. 森園幹峰, 太田和子, 八木沢皓記, 城之下雅夫, 千田正昭, 甲斐雅亮: 新規化学発光性エドマン試薬によるアミノ酸誘導体の HPLC: アミノ酸誘導体のポストカラム検出条件, 日本化学会第 79 春季年会 2A225 講演要旨集 I p15, 神戸(2001).
3. 森園幹峰, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: 新規化学発光性エドマン試薬を用いるアミノ酸誘導体の HPLC 分離と検出, 第 8 回クロマトグラフィ—シンポジウム Chromatography, 22, 15 (2001), 東京(2001).
4. 藤本長士, 太田和子, 八木沢皓記, 林田真二郎, 甲斐雅亮: 醤油成分中の未知 N 末端トリプトファン含有ペプチドの検索, 日本分析化学会第 50 年会 1C-27, 講演要旨 p-64, 熊本(2001).
5. 山口 隆, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: ルミノールを用いる化学発光性ポリマーの合成と評価, 日本分析化学会第 50 年会 3C-20, 講演要旨 p-78, 熊本(2001).
6. 平山富美子, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: テロメア DNA の新しい化学発光画像検出法, 第 18 回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p48, 熊本(2001).
7. 上山暁子, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: イソインドール化合物を用いた発光性高分子プローブの開発と分光学的評価, 第 18 回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p49, 熊本(2001).
8. 榎田耕生, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: エドマン用発光試薬 CEIC の開発, 第 18 回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p50, 熊本(2001).
9. 尾上知子, 石橋綾子, 小関浩未, 太田和子, 甲斐雅亮, 八木沢皓記: ペプチド C 末端 O-

アシルーオキサゾロンの化学的性質と利用，第 18 回日本薬学会九州支部大会 講演 要旨集 p 67，熊本(2001) .

10. 益子暁生，太田和子，甲斐雅亮，八木沢皓記：ペプチド C 末端ヒドロキサム酸の Lossen 転位の研究，第 18 回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p 68，熊本(2001) .

11. 八木沢皓記，北崎英宣：酸性プロテアーゼのペプチド転移反応の共有結合モデル 第 74 会日本生化学会大会（京都） [生化学] 73, 769 (2001)

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	19 編	（和文）	0 編
総説	0 編	（和文）	2 編
著書	0 編	（和文）	7 編
紀要	0 編	（和文）	0 編
特許	0 件		

(講座) 医薬品設計学
(氏名) 太田和子

(研究室) 機能性分子化学
(職名) 助手

研究テーマ

1. 生体内機能性物質の探索と機能解析

学術論文

(A-a) 原著論文 (欧文)

1. J. Lu, C. Lau, M. Morizono, K. Ohta, and M. Kai: A Chemiluminescence Reaction between Hydrogen peroxide and Acetonitrile and Its Applications, *Anal. Chem.*, 2001, **73**, 5979-5983.

(B-c) 著書

1. M. Kai, K. Ohta, M. Kuroda, and K. Nakashima: Chemiluminescence in Analytical Chemistry, Chapter 19, Chemiluminescence and Bioluminescence in DNA Analysis; Ed. by A. M. Garcia-Campana, W. R. G. Baeyens; pp 551-566, **2001**, Marcel Dekker, Inc., New York. Basel.

学会発表

(B-b) 国内学会(一般講演)

1. 太田和子, 上山暁子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: 化学発光性高分子—分光学的特性—, 日本薬学会121年会講演要旨集(4), 29 PD III 009, p146, 札幌(2001).
2. 森園幹峰, 太田和子, 八木沢皓記, 城之下雅夫, 千田正昭, 甲斐雅亮: 新規化学発光性エドマン試薬によるアミノ酸誘導体のHPLC: :ポストカラム化学発光検出条件; 日本化学会第79春季年会 2A225 講演要旨集 I p15, 神戸(2001).
3. 森園幹峰, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: 新規化学発光性エドマン試薬を用いるアミノ酸誘導体のHPLC分離と検出, 第8回クロマトグラフィ—シンポジウム Chromatography, **22**, 15 (2001), 東京(2001).
4. 藤本長士, 太田和子, 八木沢皓記, 林田真二郎, 甲斐雅亮: 醤油成分中の未知N末端トリプトファン含有ペプチドの検索, 日本分析化学会第50年会 1C-27, 講演要旨 p-64, 熊本(2001).
5. 山口 隆, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: ルミノールを用いる化学発光性ポリマーの合成と評価, 日本分析化学会第50年会 3C-20, 講演要旨 p-78, 熊本(2001).
6. 平山富美子, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: テロメアDNAの新しい化学発光画像検出法: TMPG試薬を用いた基礎検討; 第18回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p48, 熊本(2001).
7. 上山暁子, 太田和子, 八木沢皓記, 甲斐雅亮: イソインドール化合物を用いた発光性高分子プローブの開発と分光学的评价, 第18回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p49, 熊本(2001).

8. 榊田耕生，太田和子，八木沢皓記，甲斐雅亮：エドマン用発光試薬CEICの開発：分光学的基礎検討；第18回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p50，熊本(2001)。
9. 尾上知子，石橋綾子，小関浩末，太田和子，甲斐雅亮，八木沢皓記：ペプチドC末端O-アシルーオキサゾロンの化学的性質と利用，第18回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p67，熊本(2001)。
10. 益子暁生，太田和子，甲斐雅亮，八木沢皓記：ペプチドC末端ヒドロキサム酸のLossen転位の研究，第18回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 p68，熊本(2001)。

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	15 編	（和文）	5 編
総説（欧文）	0 編	（和文）	1 編
著書（欧文）	5 編	（和文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（和文）	0 編
特許	0 件		

(講座) 環境薬科学
(氏名) 中山守雄

(研究室) 衛生化学
(職名) 教授

研究テーマ

1. ヒトの健康に関わる金属元素に関する研究
2. 金属錯体の医療応用に関する研究
3. 環境及び生体微量物質のための機能性分離剤の開発

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Ono, Y. Arano, T. Mukai, T. Uehara, Y. Fujioka, K. Ogawa, S. Namba, M. Nakayama, T. Saga, J. Konishi, K. Horiuchi, A. Yokoyama, H. Saji: Plasma protein binding of ^{99m}Tc -labeled hydrazino nicotinamide derivatized polypeptides and peptides, Nucl. Med. Biol., 28, 155-164 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 中山守雄、原武：新規 ^{99m}Tc -ヒドロキサム酸錯体の開発、日本薬学会第 121 年会（札幌）2001 年 3 月 28～30 日
2. 原武 衛、永間、中山：陰イオン交換樹脂表面でのアニオン性合成二分子膜の形成と共焦点レーザー顕微鏡によるキャラクタリゼーション、日本薬学会第 121 年会（札幌）2001 年 3 月 28～30 日
3. 原田久美子、松永、甲斐、中山、宇治、中山：HPLC 法によるトランスフェリン-金属ヘテロ体生成に関する検討、日本薬学会第 121 年会（札幌）2001 年 3 月 28～30 日
4. 中山守雄、原武：2 本の長鎖アルキル基を有する ^{99m}Tc 錯体の調製とその体内分布挙動、第 11 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム（岡山）2001 年 5 月 24、25 日
5. 原武 衛、芹野、中山：セレン欠乏マウスへの L-ペニシラミンセレノトリスルフィドの取り込み、第 12 回日本微量元素学会（東京）2001 年 7 月 13、14 日
6. 原武 衛、日高、中山：陰イオン交換樹脂表面での合成二分子膜の形成とキャラクタリゼーション、日本分析化学会第 50 年会（熊本）2001 年 11 月 23～25 日
7. 原田久美子、松永、角田、中山、中山：トランスフェリン-AI 結合体に及ぼす synergistic anions の影響、日本分析化学会第 50 年会（熊本）2001 年 11 月 23～25 日
8. 中山守雄、原武、地頭菌、福田：ビスムチオール-II 誘導体出修飾した前濃縮剤を用いる海水中溶存 Se(IV)の分析、フォーラム 2001：衛生薬学・環境トキシコロジー（金沢）2001 年 10 月 30、31 日
9. 安本和善、原武、中山：前濃縮剤を併用する天然海水中の溶存必須微量金属の分析法

の検討、第 18 回日本薬学会九州支部大会（熊本） 2001 年 12 月 15、16 日

10. 原武 衛、中山：マウスにおける L-ペニシラミンセレノトリスルフィドの吸収挙動、
第 18 回日本薬学会九州支部大会（熊本） 2001 年 12 月 15、16 日

学会役員等

1. 日本薬学会九州支部幹事
2. 日本分析化学会九州支部常任幹事

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	55 編	（邦文）	5 編
総説（欧文）	1 編	（邦文）	5 編
著書（欧文）	10 編	（邦文）	3 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	3 編
特許	2 件		

(講座) 環境薬科学 (研究室) 衛生化学
(氏名) 原武 衛 (職名) 助教授

研究テーマ

1. 環境中および生体内における微量金属元素の動態と機能の解析

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. R. Zhao, M. Haratake, R. M. Ottenbrite: Interaction of Oligopeptides with Heparin, *Macromol. Symp.*, 175, 117-126 (2001)

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 中山 守雄、原武 衛：新規 99mTc-ヒドロキサム酸錯体の開発、日本薬学会第 121 年会、2001 年 3 月 (札幌)
2. 原武 衛、永間 康義、中山 守雄：陰イオン交換樹脂表面でのアニオン性合成二分子膜の形成と共焦点レーザー顕微鏡によるキャラクタリゼーション、日本薬学会第 121 年会、2001 年 3 月、(札幌)
3. 中山 守雄、原武 衛：2 本の長鎖アルキル基を有する 99mTc 錯体の調製とその体内分布挙動、第 11 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム、2001 年 5 月、(岡山)
4. 原武 衛、芹野 明子、中山 守雄：セレン欠乏マウスへの L-ペニシラミンセレノトリスルフィドの取り込み、第 12 回日本微量元素学会、2001 年 7 月、(東京)
5. 原武 衛、日高 秀子、中山 守雄：陰イオン交換樹脂表面での合成二分子膜の形成とキャラクタリゼーション、日本分析化学会第 50 年会、2001 年 11 月、(熊本)
6. 中山 守雄、原武 衛、地頭蘭 由美、福田 安佐子、ビスマチオール-II 誘導体出修飾した前濃縮剤を用いる海水中溶存 Se(IV)の分析、フォーラム 2001：衛生薬学・環境トキシコロジー、2001 年 10 月、(金沢)
7. 安本 和善、原武 衛、中山 守雄：前濃縮剤を併用する天然海水中の溶存必須微量金属の分析法の検討、第 18 回日本薬学会九州支部大会、2001 年 12 月、(熊本)
8. 原武 衛、中山 守雄：マウスにおける L-ペニシラミンセレノトリスルフィドの吸収挙動、第 18 回日本薬学会九州支部大会、2001 年 12 月、(熊本)

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	17 編	(邦文)	1 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	0 件		

(講座) 環境薬科学

(研究室) 薬品分析化学

(氏名) 黒田直敬

(職名) 教授

研究テーマ

1. ルミネセンスを利用する有機分析試薬の開発と生体成分分析への応用
2. 高速液体及びキャピラリー電気クロマトグラフィーにおける新規分離用担体の開発
3. 環境汚染物質の計測と汚染評価に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. A. Kaddoumi, M. N. Nakashima, M. Wada, N. Kuroda, Y. Nakahara, and K. Nakashima: HPLC of (\pm)-fenfluramine and phentermine in plasma after derivatization with dansyl chloride, *J. Liq. Chromatogr.*, **24**(1), 57-67 (2001).
2. N. Kuroda, N. Murasaki, M. Wada, and K. Nakashima: Application of enhanced luminol chemiluminescence reaction using 4-[4,5-di(2-pyridyl)-1H-imidazol-2-yl]phenylboronic acid to photographic detection of horseradish peroxidase on a membrane, *Luminescence*, **16**(2), 167-172 (2001).
3. Y. Sun, M. Wada, N. Kuroda, K. Hirayama, H. Nakazawa, and K. Nakashima: Simultaneous determination of phenolic xenoestrogens by solid-phase extraction and high-performance liquid chromatography with fluorescence detection, *Anal. Sci.*, **17**, 1-6 (2001).
4. N. Kuroda, D. Sato, K. Ohyama, M. Wada, Y. Nakahara, and K. Nakashima: Separation of sympathomimetic amines of abuse and related compounds by micellar electrokinetic chromatography, *Chem. Pharm. Bull.*, **49** (7), 905-908 (2001).
5. M. Wada, H. Kido, N. Kishikawa, T. Tou, M. Tanaka, J. Tsubokura, M. Shironita, M. Matsui, N. Kuroda, and K. Nakashima: Assessment of air pollution in Nagasaki city: determination of polycyclic aromatic hydrocarbons and their nitrated derivatives, and some metal, *Environmental Pollution*, **115** 139-147 (2001).
6. A. Nakashima, M. Ohtawa, K. Iwasaki, M. Wada, N. Kuroda, and K. Nakashima: Inhibitory effects of flavastatin and its metabolites on the formation of several reactive oxygen species, *Life Sci.*, **69**, 1381-1389 (2001).
7. O. Al-Dirbashi, K. Ikeda, M. Takahashi, N. Kuroda, S. Ikeda, and K. Nakashima: Drugs of abuse in a non-conventional sample; detection of methamphetamine and its main metabolite, amphetamine in abusers' clothes by HPLC with UV and fluorescence detection, *Biomed. Chromatogr.*, **15**, 457-463 (2001).
8. T. Watanabe, H. Yamamoto, K. Inoue, A. Yamaguchi, Y. Yoshimura, K. Kato, H. Nakazawa, N. Kuroda, and K. Nakashima: Development of sensitive high-performance liquid chromatography with fluorescence detection using 4-(4,5-diphenyl-1H-imidazol-2-yl)benzoyl chloride as a labeling reagent for determination of bisphenol A in plasma sample, *J. Chromatogr. B*, **762**, 1-7 (2001).

(A-c) 著書

1. N. Kuroda, M. Kai, and K. Nakashima: "14. Chemiluminescence Detection in Liquid Chromatography" and M. Kai, K. Ohta, N. Kuroda, and K. Nakashima: "19. Chemiluminescence and Bioluminescence in DNA Analysis" *Chemiluminescence in Analytical Chemistry*, Edited by A.M. Garcia-Campana and W.R.G. Baeyens, pp393-426 and pp551-566, 2001, Marcel Dekker, Inc.

(A-d) 紀要

1. Y. Sun, M.N. Nakashima, N. Kuroda, M. Takahashi, and K. Nakashima: Quantitation of bisphenol A in rat brain by microdialysis and column switching HPLC-fluorescence detection, *Anal. Sci.*, **17** Supplement, i911-i1912 (2001).
2. S. Sugihara, N. Kuroda, M. Wada and K. Nakashima: Derivatization of aryl halides with a newly developed fluorescent arylboronic acid, *Anal. Sci.*, **17** Supplement, i1261-i1262 (2001).

(B-c) 著書

1. 黒田直敬 (分担執筆): 「第 6 章 有機定性分析 (6.8 カルボン酸 - 6.11 ニトロソ化合物)」薬学の分析化学 (初版), 財津 潔, 山口政俊 編集: pp212-230, 2001 (廣川書店).

(B-d) 紀要

1. 小山田佳奈, 黒田直敬, 和田光弘, 中島憲一郎, 秋山修三: 医薬品および生体成分の光学異性体分離を指向した新規 HPLC 用キラル充てん剤の試作 *日本臨床化学会九州支部会誌*, **11**, 17-19 (2001).
2. オサマ・アルデハシ, 木下貴之, 黒田直敬, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法の開発とマイクロダイアリシスを併用するカテコールアミンの脳内濃度測定への適用, *日本臨床化学会九州支部会誌*, **11**, 20-22 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Y. Sun, M.N. Nakashima, N. Kuroda, M. Takahashi, K. Nakashima: Quantitation of bisphenol A in rat brain by microdialysis and column switching HPLC-fluorescence detection, IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.
2. S. Sugihara, N. Kuroda, M. Wada, K. Nakashima: Derivatization of aryl halides with a newly developed fluorescent arylboronic acid, IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 小山田佳奈, 黒田直敬, 和田光弘, 中島憲一郎, 秋山修三: 医薬品および生体成分の

光学異性体分離を指向した新規 HPLC 用キラル充てん剤の試作, 第 11 回日本臨床化学会九州支部総会, 福岡 (2001).

2. オサマ・アルデハシ, 木下貴之, 黒田直敬, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法の開発とマイクロダイアリシスを併用するカテコールアミンの脳内濃度測定への適用, 第 11 回日本臨床化学会九州支部総会, 福岡 (2001).
3. 和田光弘, 桜島 力, 黒田直敬, 芳本 忠, 加藤秀男, 林田真二郎, 中島憲一郎: 過シュウ酸エステル化学発光検出によるカタラーゼ活性測定を利用した簡便な食品の細菌汚染評価に関する基礎的検討, 第 38 回長崎県総合公衆衛生研究会, 長崎 (2001).
4. 岸川直哉, 和田光弘, 黒田直敬, 秋山修三, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法による乳試料中の多環芳香族炭化水素の定量, 第 38 回長崎県総合公衆衛生研究会, 長崎 (2001).
5. 中島憲一郎, アマル・カドウミ, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬: 食欲抑制薬フェンフルラミンのキラル分離 HPLC-蛍光定量, 日本薬学会第 121 年会, 札幌 (2001)
6. 和田光弘, 井上圭祐, 黒田直敬, 中島憲一郎: 紫外線照射を利用した有機過酸化物の HPLC-過シュウ酸エステル化学発光定量, 日本薬学会第 121 年会, 札幌 (2001).
7. 黒田直敬, 杉原住香, 杉原陽子, 和田光弘, 中島憲一郎: 新規蛍光性アリールボロン酸を標識試薬に用いるアリールハライドの分析に関する基礎的検討, 日本薬学会第 121 年会, 札幌 (2001).
8. 伊原亜由子, 岸川直哉, 和田光弘, 黒田直敬, 世良暢之, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出による大気粉じん中の多環芳香族炭化水素の九州内特定観測地点におけるレトロスペクティブ分析, 第 62 回分析化学討論会, 松本 (2001).
9. 和田光弘, 木下由美, 孫 艶, 黒田直敬, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎: 生体試料中ビスフェノール A の高感度 HPLC - 蛍光定量, 第 14 回バイオメディカル分析科学シンポジウム, 松島 (2001).
10. 黒田直敬, 杉原住香, 中島憲一郎: アリールハライド型医薬品の高感度分析用蛍光標識試薬の開発, 第 5 回分析化学東京シンポジウム・2001 機器分析東京討論会, 千葉 (2001).
11. 伊藤恵子, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出による血漿中ドネペジルの定量, 日本分析化学会第 50 年会, 熊本 (2001).
12. 小山田佳奈, 和田光弘, 大庭義史, 黒田直敬, 中島憲一郎: ペプチド修飾 HPLC 固定相の調製とその光学分割能の基礎的検討, 日本分析化学会第 50 年会, 熊本 (2001).
13. 黒田直敬, 入江美樹, 和田光弘, 大庭義史, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎: カラムスイッチング HPLC-蛍光検出による生体試料中ビスフェノール A の定量, 日本分析化学会第 50 年会, 熊本 (2001).
14. 伊原亜由子, 佐藤綾子, 和田光弘, 大庭義史, 黒田直敬, 中島憲一郎: オンライン紫外線照射を利用する芳香族化合物の HPLC - 過シュウ酸エステル化学発光定量の基礎的検討, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 熊本 (2001).
15. 石田幸弘, Amal Kaddoumi, 黒田直敬, 中島憲一郎: 覚せい剤摂取被疑者血中のメタンフェタミン及びアンフェタミンの HPLC 定量, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 熊本 (2001).

学会役員等

1. 日本分析化学会 九州支部幹事

研究費取得状況

1. 蛍光性アリールボロン酸を標識試薬に用いるアリールハライドの新規高感度定量法の開発；平成 13 年度科学研究補助金・基盤研究(C)(2)；代表；200 万円．
2. 食品の活性酸素除去能の簡易・迅速な試験法の開発；平成 13 年度長崎県先端技術開発協議会研究助成費；代表；70 万円．

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	74 編	（邦文）	5 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	1 編
著書（欧文）	4 編	（邦文）	7 編
紀要（欧文）	5 編	（邦文）	7 編
特許	5 件		

(講座) 環境薬科学 (研究室) 薬品分析化学
(氏名) 大庭義史 (職名) 助教授

研究テーマ

1. 蛍光、化学発光を用いる生理活性成分の新規高感度・高選択的分析試薬の開発
2. 酵素活性測定用基質の開発及び臨床分析への応用

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K. Soda, Y. Ohba, K. Zaitu: Assay of human platelet guanylate cyclase activity by high performance liquid chromatography with fluorescence derivatization, *Journal of Chromatography B*, **752**, 55-60 (2001).
2. Y. Ohba, K. Soda, K. Zaitu: A Sensitive Assay of Human Blood Platelet Cyclic Nucleotide Phosphodiesterase Activity by HPLC Using Fluorescence Derivatization and Its Application to Assessment of Cyclic Nucleotide Phosphodiesterase Inhibitor, *Biological & Pharmaceutical Bulletin*, **245**, 567-569 (2001).

(B-c) 著書

1. 大庭義史 (分担執筆): 薬学の分析化学 (初版), 財津 潔, 山口政俊 編集 : p51-53, 2001 (廣川書店).

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 吉崎慎一, 大庭義史, 浜瀬健司, 財津 潔: タンパク質アミノ基の可逆的蛍光標識試薬, 日本薬学会 121 年会, 講演要旨集 4 p121, 札幌 (2001).
2. 村中朋子, 大庭義史, 馬 麗, 財津 潔: 化学発光誘導体化法を用いるメチルグリオキサールの高感度測定, 日本薬学会 121 年会, 講演要旨集 4 p136, 札幌 (2001).
3. 森 正太, 大庭義史, 浜瀬健司, 財津 潔: 蛍光誘導体化ペプチドの MALDI-TOF MS におけるマトリックスの影響 (II), 日本薬学会 121 年会, 講演要旨集 4 p136, 札幌 (2001).
4. 馬麗, 大庭義史, 中園 学, 財津 潔: EDC を用いる HPLC-化学発光によるポリフェノールの高感度分析法, 第 62 回日本分析化学会討論会, 講演要旨集 p61, 松本 (2001).
5. 森 正太, 中園 学, 大庭義史, 浜瀬健司, 財津 潔: 蛍光誘導体化ペプチドの MALDI-TOF MS におけるマトリックスの影響 (III), 講演要旨集 p111, 松島 (2001).
6. 岸川直哉, 入江美樹, 大庭義史, 黒田直敬, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎: 蛍光誘導体化-カラムスイッチング HPLC による乳製品中ビスフェノール A の高感度定量, フォーラム 2001 衛生薬学・環境トキシコロジー, 金沢 (2001).
7. 小山田佳奈, 和田光弘, 大庭義史, 黒田直敬, 中島憲一郎: ペプチド修飾 HPLC 固

定相の調製とその光学分割能の基礎的検討, 日本分析化学会第 50 年会, 講演要旨集 p295, 熊本 (2001).

8. 黒田直敬, 入江美樹, 和田光弘, 大庭義史, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎: カラムスイッチング HPLC-蛍光検出による生体試料中ビスフェノール A の定量, 日本分析化学会第 50 年会, 講演要旨集 p353, 熊本 (2001).
9. 伊原亜由子, 佐藤綾子, 和田光弘, 大庭義史, 黒田直敬, 中島憲一郎: オンライン紫外線照射を利用する芳香族化合物の HPLC-過シュウ酸エステル化学発光定量の基礎的検討, 第 18 回日本薬学会九州支部 熊本 (2001).

研究費取得状況

1. 食品の活性酸素除去能の簡易・迅速な試験法の開発; 平成 13 年度長崎県先端技術開発協議会研究助成費; 分担; 70 万円.

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	16 編	(邦文)	0 編
総説 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	1 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	2 編
特許	0 件		

(講座) 環境薬科学

(研究室) 薬品分析化学

(氏名) 岸川直哉

(職名) 助手

研究テーマ

1. 環境及び生体試料中の環境汚染物質の測定法の開発と汚染評価に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Wada, H. Kido, N. Kishikawa, T. Tou, M. Tanaka, J. Tsubokura, M. Shironita, M. Matsui, N. Kuroda, and K. Nakashima: Assesment of air pollution in Nagasaki city: determination of polycyclic aromatic hydrocarbons and their nitrated derivatives, and some metal, *Environmental Pollution*, **115** 139-147 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-a) 招待講演，特別講演，受賞講演

1. 岸川直哉：環境及び生体試料中の多環芳香族炭化水素類の高感度定量法の開発とその汚染評価への応用，平成 13 年度九州分析化学奨励賞受賞講演，鹿児島（2001）。

(B-b) 一般講演

1. 岸川直哉，和田光弘，黒田直敬，秋山修三，中島憲一郎：HPLC-蛍光検出法による乳試料中の多環芳香族炭化水素の定量，第 38 回長崎県総合公衆衛生研究会，長崎（2001）。
2. 伊原亜由子，岸川直哉，和田光弘，黒田直敬，世良暢之，中島憲一郎：HPLC-蛍光検出による大気粉じん中の多環芳香族炭化水素の九州内特定観測地点におけるレトロスペクティブ分析，第 62 回分析化学討論会，松本（2001）。
3. 岸川直哉，入江美樹，大庭義史，黒田直敬，牧野恒久，中澤裕之，中島憲一郎：蛍光誘導体化-カラムスイッチング HPLC による乳製品中ビスフェノール A の高感度定量，フォーラム 2001 衛生薬学・環境トキシコロジー，金沢（2001）。

研究費取得状況

1. 食品の活性酸素除去能の簡易・迅速な試験法の開発；平成 13 年長崎県先端技術開発協議会研究助成費；分担；70 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	1 編	（邦文）	0 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
特許	0 件		

平成 13 年度長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
自己評価個人研究業績 (2001.1 - 2001.12)

(専攻)放射線医療科学
(講座)放射線生命科学 (研究室)放射線生物学
(氏名)渡邊正己 (職名)教授

研究テーマ

- 1.細胞癌化と細胞老化の機構に関する研究
- 2.細胞のストレス応答機能に関する研究
- 3.放射線の生物影響に関する研究

A.原著論文等

(Aa) 原著論文(欧文)

1. K. Suzuki, I. Mori, Y. Nakayama, M. Miyakoda, S. Kodama, and M. Watanabe: Radiation-induced senescence-like growth arrest requires TP53 function but not telomere shortening, Radiat. Res. Jan; 155 (1 Pt 2) : 248-253 (2001).
2. S. Kodama, I. Mori, K. Roy, Z. Yang, K. Suzuki, and M. Watanabe : Culture condition-dependent senescence-like growth arrest and immortalization in rodent embryo cells, Radiat. Res. Jan; 155 (1 Pt 2) : 254-262 (2001).
3. H.Yanase, H.Ando, M.Horikawa, M.Watanabe, T. Mori, and N. Matsuda : Possible involvement of ERK 1/2 in UVA-induced melanogenesis in cultured normal human epidermal melanocytes. Pigment Cell Res. Apr; 14 (2) :103-109 (2001).
4. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Extremely low-dose ionizing radiation causes activation of mitogen-activated protein kinase pathway and enhances proliferation of normal human diploid cells, Cancer Res. Jul 15; 61 (14): 5396-5401 (2001).
5. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Preferential expression of an intact WRN gene in Werner syndrome cell lines in which a normal chromosome 8 has been introduced, Biochem. Biophys.Res.Comm. Nov 23; 289 (1): 111-115 (2001).

(Ab) 総説(レビュー)(欧文)

なし。

(Ac) 著書(欧文)

1. M. Watanabe, and T. Sugahara : Stress response: Overview, Thermotherapy for

Neoplasia, Inflammation, and Pain, M. Kosaka, T. Sugahara, K.L.Schmidt, and E. Simon (eds), Springer-Verlag Tokyo 2001, pp. 322-327 (2001).

2. M. Watanabe, K. Suzuki, and S. Kodama; Molecular and cellular factors determining cell susceptibility to heat shock. *Thermotherapy for Neoplasia, Inflammation, and Pain*, M. Kosaka, T. Sugahara, K.L.Schmidt, and E. Simon (eds), Springer-Verlag Tokyo 2001, pp. 445-450 (2001).

(Ad) 学内紀要、その他 (欧文)

省略。

(Ba) 原著論文 (和文)

(Bb) 総説 (和文)

1. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線による p53 活性化と老化用増殖停止の誘導、*放射線生物研究*、36 : 392-400 (2001)

(Bc) 著書 (和文)

なし。

(Bd) 学内紀要、その他 (和文)

省略。

(C) 特許

なし。

(D) 学会発表

Da 国際学会

(Da-1) 招待講演、特別講演、受賞講演

1. M. Watanabe, S. Kodama, and K. Suzuki: Molecular mechanisms of X-induced chromosomal instability. *International Workshop on Radiation Damage 2001: Repair, Mutagenesis and Visualization*. March 14-16, Tokyo (2001).
2. M. Watanabe, K. Suzuki, and S. Kodama: Specific gene expression by extremely low-dose ionizing radiation which is related to enhanced proliferation of normal human diploid cells. *International Symposium on Radiation and Homeostasis. Radioprotection for human health*. July 13-16, Kyoto (2001).
3. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Genomic instability as a parameter to monitor damage and protection from chronic radiation *International Symposium on*

Radiation and Homeostasis. Radioprotection for human health. July 16, Kyoto (2001).

(Da-2) 一般講演

1. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Radiation-induced genomic instability and delayed activation of p53, International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
2. M. Miyakoda, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Suppressive effects of p53 protein on heat-induced centrosomal abnormality. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
3. M. Yamauchi, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Defective accumulation of p53 in X-irradiated human tumor cells with low proteasome activity. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
4. M. Suzuki, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Possible role of ATM-dependent pathway in phosphorylation of p53 in senescent normal human diploid cells. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
5. S. Kodama, K. Yamauchi, A. Urushibara, S. Nakatomi, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Unstable nature of X-irradiated human chromosomes in unirradiated mouse m5S cells International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
6. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: X-ray-induced mutation at HPRT locus in Werner syndrome cells International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
7. T. Ise, S. Kodama, K. Suzuki, T. Tanaka, T. Miyazaki, and M. Watanabe: A role of long-lived radicals in radiation mutagenesis and its suppression by epigallocatechin gallate. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
8. A. Urushibara, S. Kodama, K. Suzuki, F. Suzuki, and M. Watanabe: Suppressive effects of p53 protein on heat-induced centrosomal abnormality. International Symposium on Radiation and Homeostasis. July 13-16, Kyoto (2001).
10. S. Goto, S. Morimoto, T. Kurobe, M. Izumi, N. Fukunishi, M. Watanabe, and F. Yatagai : Delayed cell-cycle arrest following heavy-ion exposure. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
11. J. Kumagai, T. Miyazaki, T. Kumada, S. Kodama, and M. Watanabe : An ESR and ESEEM study of long-lived radicals which cause mutation in irradiated mammalian cells. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).

12. K. Okaichi, K. Suzuki, N. Morita, M. Ikeda, N. Matsuda, H. Takahashi, M. Watanabe, and Y. Okumura : Low dose of wartmannin reduces radio-sensitivity of cells. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
13. M. Suzuki, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe : Possible role of ATM-dependent pathway in phosphorylation of p53 in senescent normal human diploid cells. International Symposium on Radiation and Homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
14. S. Kodama, T. Tamaki, K. Yamauchi, A. Urushibara, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Radiation-induced delayed chromosome aberrations mediated by telomere instability. The 5th International Symposium on Chromosomal Aberrations, October 26-28, Awaji (2001).
15. A. Urushibara, S. Kodama, K. Suzuki, N. Kotobuki, M. Oshimura, E. Sonoda, and M. Watanabe: High susceptibility to the induction of genetic instability by radiation in DNA repair deficient cells. The 5th International Symposium on Chromosomal Aberrations, October 26-28, Awaji (2001).

Db 国内学会

(Db-1) 招待講演、特別講演、受賞講演

1. 宮崎哲郎、熊谷 純、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射細胞中の長寿命蛋白質ラジカルによる遺伝子突然変異・ガンの誘発とビタミン C の量子力学的トンネル反応による抑制効果。シンポジウム「放射線と物質の相互作用、BESTEN (Beam Science and Technology for an Emergent Network)、平成 13 年 11 月 29 日、東京。
2. 渡邊正己：細胞は放射線被曝経験を記憶している、放射線障害修復・マルチトレーサ合同研究会、平成 13 年 5 月 24 日～25 日、金沢。

(Db-2) 一般講演

1. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理後の p53 による中心体異常の抑制、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p60、3 月 28 ~ 30 日、札幌 (2001)。
2. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 の蓄積に対するプロテアソーム活性の関与、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p60、3 月 28 ~ 30 日、札幌 (2001)。
3. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における突然変異の解析、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p90、3 月 28 ~ 30 日、札幌 (2001)。
4. 児玉靖司、漆原あゆみ、山内貴代、鈴木啓司、渡邊正己：放射線による遅延性染色体異常形成におけるテロメア不安定性の関与、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p158、3 月 28 ~ 30 日、札幌(2001)。
5. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発遺伝子突然変異に対する(-)-epigallocatechin-3-O-gallate の効果、日本薬学会第 121 年会、要旨集

- 4-p157、3月28～30日、札幌(2001).
6. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射癌細胞における非アポトーシス性老化様増殖停止、第31回日本医学放射線学会生物部会放射線による制癌シンポジウム、要旨集p18、7月17日、奈良(2001).
 7. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発長寿命ラジカルの生物効果、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 8. 山内喜代、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線誘発遅延性染色体異常のFISHによる解析、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 9. 濱野弘樹、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：正常ヒト細胞を用いた放射線発がん系の樹立、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 10. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線およびテロメア一時短縮時のp53タンパク質活性化におけるATM関与の可能性、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 11. 香崎正宙、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、渡邊正己：クルクミンの生理活性効果に関する研究、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 12. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：放射線誘発テロメア不安定性の解析、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 13. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：Werner症候群細胞の放射線誘発突然変異生成機構の解析、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 14. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理によるp53タンパク質活性化とゲノム不安定性の抑制、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 15. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X線照射細胞の培養上澄による細胞増殖促進効果、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 16. 有吉健太郎、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：Werner症候群細胞におけるヘテロ接合性消失検出系の確立に関する研究、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 17. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53遺伝子導入細胞におけるp53蓄積に対するプロテアソーム活性の影響、第38回放射線影響懇話会、7月19日、熊本(2001).
 18. 北村美江、石田優希子、石川彩、渡邊正己、古関良宏、山田晃世、伊藤佳央：ハマボウフウ培養細胞のストレス応答に及ぼすアントシアニンの効果、第19回日本植物細胞分子生物学会、7月30-31日、東京(2001).
 19. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理後のp53による中心体異常と染色体異常の抑制の可能性、日本ハイパーサーミア学会第18回大会、要旨集p4、9月7～8日、東京(2001).
 20. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：ヒト癌細胞におけるX線誘発老化様増殖停止のp53機能依存性、第60回日本癌学会総会、総会記事p325、9月26～28日、横浜(2001).

21. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蓄積に対するプロテアソーム活性の影響、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p325、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
22. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 蛋白質による温熱誘導ゲノム不安定性の抑制の可能性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p326、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
23. 岡市協生、鈴木啓司、渡邊正己、奥村寛：PI3-キナーゼの放射線感受性への p53 依存的な関与、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p310、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
24. 児玉靖司、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線非被曝マウス細胞に移入された放射線被曝ヒト染色体の不安定性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p151、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
25. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における DNA 二重鎖切断修復機構の解析、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p402、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
26. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、鈴木文男、渡邊正己：放射線誘発テロメア不安定性における scid 突然変異の影響、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p408、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
27. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：テロメア-短縮シグナルによる p53 タンパク質活性化への ATM 関与の可能性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p402、9 月 26 ~ 28 日、横浜 (2001).
28. 熊谷純、中間満雄、宮崎哲郎、伊勢環、児玉靖司、渡邊正己：照射ほ乳類動物細胞における長寿命蛋白質ラジカルの消去と突然変異抑制効果 —エピガロカテキンガレート の照射後添加効果、第 44 回放射線化学討論会、講演要旨集 p117-8、9 月 4 ~ 6 日、東大阪市 (2001).
29. 増井潔直、宮崎哲郎、板垣吉晃、塩谷優、児玉靖司、渡邊正己、熊谷純：照射ほ乳類動物細胞における長寿命蛋白質ラジカルによる突然変異・がん誘発 —Extra DNA バイスタンダー効果、第 44 回放射線化学討論会、講演要旨集 p119-120、9 月 4 ~ 6 日、東大阪市 (2001).
30. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線による分裂死、mitotic catastrophe における p53 の役割、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p61、10 月 29 ~ 31 日、大阪 (2001).
31. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理による中心体異常に対する p53 蛋白質の抑制効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p128、10 月 29 ~ 31 日、大阪 (2001).
32. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蛋白質蓄積に対するプロテアソーム活性の関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要

旨集 p99、10月29～31日、大阪(2001)。

33. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射およびテロメア短縮による p53 タンパク質活性化機構の比較、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p98、10月29～31日、大阪(2001)。
34. 濱野弘樹、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：誘導型 hTERT 遺伝子導入による不死化ヒト細胞の樹立、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p118、10月29～31日、大阪(2001)。
35. 山路寛子、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線誘発遺伝的不安定性による遅延性突然変異生成のメカニズム、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p114、10月29～31日、大阪(2001)。
36. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X線照射細胞の培養上清による細胞増殖促進効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p108、10月29～31日、大阪(2001)。
37. 香崎正宙、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：クルクミンによる癌細胞の増殖抑制機構解析、日本放射線影響学会第44回大会、講演要旨集p109、10月29～31日、大阪(2001)。
38. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、熊谷純、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発長寿命ラジカルの突然変異生成への関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p110、10月29～31日、大阪(2001)。
39. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、寿典子、押村光雄、園田英一郎、渡邊正己：放射線誘発遅延性染色体異常生成過程における DNA 修復欠損の効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p114、10月29～31日、大阪(2001)。
40. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、渡邊正己：Werner 症候群細胞における X線誘発突然変異の生成機構、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p93、10月29～31日、大阪(2001)。
41. 山内貴代、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：マウス m5S 細胞由来放射線誘発トランスフォーマントのヒト 11 番染色体移入による正常化、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p116、10月29～31日、大阪(2001)。
42. 後藤佐智子、泉雅子、本間正充、鈴木啓司、渡邊正己：自然突然変異誘発に関わる組換え頻度上昇への変異 p53 の寄与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p85、10月29～31日、大阪(2001)。
43. 熊谷純、中間満雄、宮崎哲郎、伊勢環、児玉靖司、渡邊正己：照射哺乳動物細胞の突然変異と長寿命ラジカルとの関係：エピガロカテキンの照射後添加効果、第 44 回日本放射線影響学会大会、10月29～31日、大阪(2001)。
44. 増井潔直、宮崎哲郎、板垣吉晃、塩谷優、児玉靖司、渡邊正己、熊谷純：照射哺乳動物細胞における長寿命タンパク質ラジカルによる突然変異・ガンの誘発：Extra-DNA バイスタンダー効果、第 44 回日本放射線影響学会大会、10月29～31日、大阪(2001)。

45. 堀川美和、松田尚樹、吉田正博、奥村寛、渡邊正己、森俊雄:UVB/UVC 応答細胞内シグナル伝達機構の系時的比較解析、第 44 回日本放射線影響学会大会、10 月 29～31 日、大阪 (2001).
46. 児玉靖司、山内貴代、玉城妙子、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己:放射線による遅延性染色体不安定性の誘導機構、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p538、12 月 8～11 日、横浜 (2001).
47. 後藤佐智子、泉雅子、本間正充、鈴木啓司、渡邊正己、谷田貝文夫:自然突然変異誘発に関わる組換え頻度上昇への変異 p53 の寄与、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p551、12 月 8～11 日、横浜 (2001).
48. 菓子野元郎、竹辺亜紀、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、押村光雄、渡邊正己: Werner 症候群細胞における X 線誘発突然変異の解析、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p724、12 月 8～11 日、横浜 (2001).
49. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己: X 線照射細胞の培養上清による細胞増殖促進効果、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p801、12 月 8～11 日、横浜 (2001).

E. 教育講演

1. 渡邊正己、たまには温泉へ行こう、NICE キャンパス長崎「暮らしと学問」、平成 13 年 4 月 27 日。
2. 渡邊正己、長崎大学における大学改革の方針、平成 13 年度長崎大学坂本技術区技術職員技術研修会、平成 13 年 8 月 21 日。
3. 渡邊正己、大学の社会貢献に求められるものは、平成 13 年度長崎県下国立学校職員研究協力研修会、平成 13 年 8 月 29 日。

F. 新聞等に掲載された研究

なし。

G. 学会役員及び行政機関の委員等

(G-1) 中央省庁関係

1. 文部科学省・独立行政法人化に関する調査検討会議・人事制度検討委員会委員
2. 文部科学省・原子力基盤技術総合的研究放射線リスク評価・低減化研究交流委員会委員
3. 文部科学省・科学技術振興調整費審査部会・健康医療 WG 委員
4. 文部科学省原子力基盤技術総合的研究(原子力基盤クロスオーバー研究)・放射線障害修復交流委員会・委員
5. 京都大学放射線生物研究センター運営委員会・委員
6. 内閣総理府・原子力安全委員会専門委員会・環境放射能安全研究分科会委員

7. 内閣総理府・原子力安全委員会・低線量放射線影響分科会委員
8. 科学技術振興事業団・長崎県地域結集型共同研究事業—研究総括委員

(G-2) 地方自治体関係

9. 長崎県薬事審議会・委員長
10. 長崎県薬種商資格試験委員会・委員
11. 長崎県科学技術振興会議企画委員会・委員長
12. 長崎県 GIS 研究協議会・副会長
13. 長崎県高度情報推進協議会・副会長
14. 長崎市環境審議会・委員
15. 福岡県産業・科学技術振興財団・文部科学省科学技術振興調整費 MCRC 探索応用プロジェクト推進委員会・委員長

(G-3) 学会等

16. 日本放射線影響学会・幹事
17. 日本放射線影響学会・学会誌(J. Radiat. Res.)編集委員
18. 放射線生物研究・編集委員
19. 日本動物実験代替法学会・学会誌(Altern. Animal Test. Exp.)編集委員
20. 国際癌治療増感研究協会・理事
21. 国際癌治療増感研究協会・編集委員会・委員
22. 日本医学放射線学会生物部会・幹事

(G-4) 非営利財団等

23. 財団法人原子力安全研究協会・低線量放射線安全評価専門委員会・委員
24. 財団法人原子力安全研究協会・放射線影響に関する懇談会・第一ワーキンググループ委員長
25. 財団法人電力中央研究所・低線量放射線影響研究委員会・委員
26. 財団法人電力中央研究所・低線量生物影響研究委員会・委員（平成 13 年～）
27. プロフェッショナル・イングリッシュ・コミュニケーション協会(IPEC)評議委員（平成 13 年～）

H. 受賞等

なし。

I.共同研究（受託）

1. ビワ含有成分の機能性評価とその機能を生かした健康食品の開発，長崎県果樹試験場、平成 13 年度研究経費 4,920 千円（平成 12 年～13 年）

2. 放射線による染色体異常誘導のメカニズム、財団法人体質研究会、平成 13 年度研究経費 6,420 千円、(平成 10 年～継続中)
3. 低酸素細胞培養装置の開発と生命科学研究への応用、池本理工工業株式会社、平成 13 年度研究経費 3,420 千円、(平成 10 年～継続中)

J. 研究費取得状況

1. 放射線による遺伝的不安定性の誘導と細胞がん化過程への関与；文部省科学研究補助金・基盤研究(B)(2)；代表；平成 13 年度研究経費 7,700 千円 (平成 13 年～15 年)
2. ヒト細胞において放射線照射によって生ずる遅延型突然変異の誘導機構に関する研究；財団法人原子力安全研究協会研究補助金；代表；平成 13 年度研究経費 1,370 千円 (平成 12 年～14 年)
3. 海洋微生物の持つバイオパワーを使った食品・医薬品素材の開発研究；文部省科学研究補助金・地域連携研究費；分担；平成 13 年度研究経費 3,000 千円 (平成 11 年度～13 年度)
4. 科学技術振興事業団・長崎県地域結集型共同研究費・研究総括委員長；平成 13 年度研究経費総額 180,000 千円 (平成 13 年～平成 17 年)

【過去の研究業績総計】2001 年 12 月末日現在

原著論文 (欧文)	94 編	(和文)	14 編
総説 (欧文)	1 編	(和文)	28 編
著書 (欧文)	25 編	(和文)	11 編
紀要 (欧文)	(略) 編	(和文)	(略) 編
特許	4 件		

平成 13 年度長崎大学大学院薬学研究科自己評価
個人研究業績 (2001.1-2001.12)

(講座) 放射線生命科学 (研究室) 放射線生物学

(氏名) 児玉靖司 (職名) 助教授

研究テーマ

1. 放射線誘発遺伝的不安定性に関する研究
2. 遺伝的早老症細胞 (Werner Syndrome) に関する研究
3. 放射線による突然変異誘発機構に関する研究
4. 天然物由来抗酸化物質の生理活性に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. S. Kodama, I. Mori, K. Roy, Z. Yang, K. Suzuki, and M. Watanabe: Culture condition-dependent senescence-like growth arrest and immortalization in rodent embryo cells, *Radiat. Res.*, **155**, 254-262 (2001).
2. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Preferential expression of an intact *WRN* gene in werner syndrome cell lines in which a normal chromosome 8 has been introduced, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **289**, 111-115 (2001).
3. M. S. Sasaki, I. Hayata, N. Kamada, Y. Kodama and S. Kodama: Chromosome aberration analysis in persons exposed to low-level radiation from the JCO criticality accident in Tokai-mura. *J. Radiat. Res.*, 42, Suppl., S107-S116 (2001).
4. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Extremely low-dose ionizing radiation causes activation of mitogen-activated protein kinase pathway and enhances proliferation of normal human diploid cells, *Cancer Res.*, **61**, 5396-5401 (2001).
5. K. Suzuki, I. Mori, Y. Nakayama, M. Miyakoda, S. Kodama, and M. Watanabe: Radiation-induced senescence-like growth arrest requires TP53 function but not telomere shortening, *Radiat. Res.*, **155**, 248-253 (2001).

B 邦文

(B-b) 総説

1. 児玉靖司 : 放射線による遺伝的不安定性の誘導、アニテックス, 13, 3-8 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-a) 招待講演、特別講演、受賞講演

1. M. Watanabe, K. Suzuki, and S. Kodama: Specific gene expression by extremely low-dose ionizing radiation which is related to enhanced proliferation of normal human diploid cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
2. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Genomic instability as a parameter to monitor damage and protection from chronic radiation. ISRH 2001 Symposium, Radioprotection for human health, July 16, Kyoto (2001).

(A-b) 一般講演

1. S. Kodama, K. Yamauchi, A. Urushibara, S. Nakatomi, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Unstable nature of X-irradiated human chromosomes in unirradiated mouse m5S cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
2. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: X-ray-induced mutation at *HPRT* locus in Werner syndrome cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
3. A. Urushibara, S. Kodama, K. Suzuki, F. Suzuki, and M. Watanabe: High susceptibility and possible involvement of telomeric instability in the induction of delayed chromosome aberrations by X-irradiation in *scid* mouse cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
4. T. Ise, S. Kodama, K. Suzuki, T. Tanaka, T. Miyazaki, and M. Watanabe: A role of long-lived radicals in radiation mutagenesis and its suppression by epigallocatechin gallate. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
5. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Radiation induced genomic instability and delayed activation of p53. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
6. M. Miyakoda, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Suppressive effects of p53 protein on heat-induced centrosomal abnormality. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
7. M. Yamauchi, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Defective accumulation of p53 in X-irradiated human tumor cells with low proteasome activity. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).

8. M. Suzuki, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Possible role of ATM-dependent pathway in phosphorylation of p53 in senescent normal human diploid cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
9. S. Kodama, T. Tamaki, K. Yamauchi, A. Urushibara, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Radiation-induced delayed chromosome aberrations mediated by telomere instability, The 5th international symposium on chromosomal aberrations, October 26-28, Hyogo (2001).
10. A. Urushibara, S. Kodama, K. Suzuki, N. Kotobuki, M. Oshimura, E. Sonoda, and M. Watanabe: High susceptibility to the induction of genetic instability by radiation in DNA repair deficient cells, The 5th international symposium on chromosomal aberrations, October 26-28, Hyogo (2001).

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 児玉靖司、漆原あゆみ、山内貴代、鈴木啓司、渡邊正己：放射線による遅延性染色体異常形成におけるテロメア不安定性の関与、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p158、札幌（2001）
2. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における突然変異の解析、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p90、札幌（2001）
3. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発遺伝子突然変異に対する(-)-epigallocatechin-3-O-gallateの効果、日本薬学会第121 年会、要旨集 4-p157、札幌（2001）
4. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理後の p53 による中心体異常の抑制、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p60、札幌（2001）
5. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 の蓄積に対するプロテアソーム活性の関与、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p60、札幌（2001）
6. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発長寿命ラジカルの生物効果、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
7. 山内貴代、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線誘発遅延性染色体異常の FISH による解析、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
8. 濱野弘樹、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：正常ヒト細胞を用いた放射性発がん系の樹立、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
9. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線およびテロメア短縮時の p53 蛋白質活性化における ATM 関与の可能性、第 38 回放射線影響懇話

- 会、熊本（2001）
10. 香崎正宙、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、渡邊正己：クルクミンの生理活性効果に関する研究、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 11. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：放射線誘発テロメア不安定性の解析、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 12. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：Werner 症候群細胞の放射線誘発突然変異生成機構の解析、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 13. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理による p53 蛋白質活性化とゲノム不安定性の抑制、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 14. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X 線照射細胞の培養上清による細胞増殖効果、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 15. 有吉健太郎、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群におけるヘテロ接合性消失検出系の確立に関する研究、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 16. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蓄積に対するプロテアソーム活性の影響、第 38 回放射線影響懇話会、熊本（2001）
 17. 児玉靖司、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線非被曝マウス細胞に移入された放射線被曝ヒト染色体の不安定性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p151、横浜（2001）
 18. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における DNA 二重鎖切断修復機構の解析、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p402、横浜（2001）
 19. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、鈴木文男、渡邊正己：放射線誘発テロメア不安定性における *scid* 突然変異の影響、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p408、横浜（2001）
 20. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：ヒト癌細胞における X 線誘発老化様増殖停止の p53 機能依存性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p325、横浜（2001）
 21. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蓄積に対するプロテアソーム活性の影響、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p325、横浜（2001）
 22. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 蛋白質による温熱誘導ゲノム不安定性の抑制の可能性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p326、横浜（2001）
 23. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：テロメア短縮シグナルによる p53 タンパク質活性化への ATM 関与の可能性、第 60 回日本癌学会総会、総

- 会記事 p402、横浜（2001）
24. 児玉靖司、玉城妙子、山内貴代、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線誘発遅延性染色体異常形成へのテロメア不安定性の関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p71、大阪（2001）
 25. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、寿典子、押村光雄、園田英一郎、渡邊正己：放射線誘発遅延性染色体異常生成過程における DNA 修復欠損の効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p114、大阪（2001）
 26. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、渡邊正己：Werner 症候群細胞における X 線誘発突然変異の生成機構、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p93、大阪（2001）
 27. 山内貴代、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：マウス m5S 細胞由来放射線誘発トランスフォーマントのヒト 11 番染色体移入による正常化、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p116、大阪（2001）
 28. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X 線照射細胞の培養上清による細胞増殖促進効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p108、大阪（2001）
 29. 香崎正宙、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：クルクミンによる癌細胞の増殖抑制機構解析、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p109、大阪（2001）
 30. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、熊谷純、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発長寿命ラジカルの突然変異生成への関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p110、大阪（2001）
 31. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線による分裂死、mitotic catastrophe における p53 の役割、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p61、大阪（2001）
 32. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理による中心体異常に対する p53 蛋白質の抑制効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p128、大阪（2001）
 33. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蛋白質蓄積に対するプロテアソーム活性の関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p99、大阪（2001）
 34. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射およびテロメア短縮による p53 タンパク質活性化機構の比較、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p98、大阪（2001）
 35. 濱野弘樹、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：誘導型 hTERT 遺伝子導入による不死化ヒト細胞の樹立、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p118、

大阪（2001）

36. 山路寛子、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線誘発遺伝的不安定性による遅延性突然変異生成のメカニズム、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p114、大阪（2001）
37. 児玉靖司、山内貴代、玉城妙子、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線による遅延性染色体不安定性の誘導機構、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p538、横浜（2001）
38. 菓子野元郎、竹辺亜紀、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における X 線誘発突然変異の解析、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p724、横浜（2001）
39. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X 線照射細胞の培養上清による細胞増殖促進効果、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p801、横浜（2001）
40. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射癌細胞における非アポトーシス性老化様増殖停止、第 31 回日本医学放射線学会生物部会放射線による制癌シンポジウム、要旨集、p18、奈良（2001）
41. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理後の p53 による中心体異常と染色体異常の抑制の可能性、日本ハイパーサーミア学会第 18 回大会、要旨集、p4、東京（2001）

学会役員等

1. 財団法人原子力安全研究協会・放射線防護基準検討専門委員会委員、平成 13 年～平成 15 年

研究費取得状況

1. 平成 13 年度文部省科学研究費補助金地域連携推進研究費（2）「海洋微生物の持つバイオパワー - を使った食品・医薬品素材の開発研究」；研究代表者；13,000 千円
2. 平成 13 年度宇宙環境利用に関する地上研究「放射線で誘導される長寿命ラジカルによる突然変異の生成機構とその防御法」；研究代表者；4,294 千円
3. 平成 13 年度長崎県技術開発研究委託事業「ピワ含有成分の機能性評価とその機能を生かした健康食品の開発」；研究代表者；5,000 千円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	47 編	（和文）	20 編
総説（欧文）	2 編	（和文）	5 編

著書	(欧文)	1	編	(和文)	1	編
紀要	(欧文)	0	編	(和文)	1	編
特許		0	件			

平成 13 年度長崎大学大学院薬学研究科自己評価
個人研究業績 (2001.1-2001.12)

(講座) 放射線生命科学 (研究室) 放射線生物学

(氏名) 鈴木啓司 (職名) 助手

研究テーマ

1. 放射線発がんの分子メカニズムについての研究
2. 放射線細胞応答と情報伝達に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Extremely low-dose ionizing radiation causes activation of mitogen-activated protein kinase pathway and enhances proliferation of normal human diploid cells, *Cancer Res.*, **61**, 5396-5401 (2001).
2. K. Suzuki, I. Mori, Y. Nakayama, M. Miyakoda, S. Kodama, and M. Watanabe: Radiation-induced senescence-like growth arrest requires TP53 function but not telomere shortening, *Radiat. Res.*, **155**, 248-253 (2001).
3. M. Kamada, K. Suzuki K, Y. Kato, H. Okuda, and T. Shuin: von Hippel-Lindau protein promotes the assembly of actin and vinculin and inhibits cell motility, *Cancer Res.*, **61**, 4184-4189 (2001).
4. S. Kodama, I. Mori, K. Roy, Z. Yang, K. Suzuki, and M. Watanabe: Culture condition-dependent senescence-like growth arrest and immortalization in rodent embryo cells, *Radiat. Res.*, **155**, 254-262 (2001).
5. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Preferential expression of an intact *WRN* gene in werner syndrome cell lines in which a normal chromosome 8 has been introduced, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **289**, 111-115 (2001).

(B-b) 総説

1. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線による p53 活性化と老化用増殖停止の誘導、放射線生物研究、36、392-400 (2001)

学会発表

A 国際学会

(A-a) 招待講演、特別講演、受賞講演

1. M. Watanabe, K. Suzuki, and S. Kodama: Specific gene expression by extremely low-dose ionizing radiation which is related to enhanced proliferation of normal human diploid cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).

2. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Genomic instability as a parameter to monitor damage and protection from chronic radiation. ISRH 2001 Symposium, Radioprotection for human health, July 16, Kyoto (2001).

(A-b) 一般講演

1. K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Suppressive effects of p53 protein on heat-induced centrosomal abnormality. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
2. M. Miyakoda, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Suppressive effects of p53 protein on heat-induced centrosomal abnormality. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
3. M. Yamauchi, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Defective accumulation of p53 in X-irradiated human tumor cells with low proteasome activity. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
4. M. Suzuki, K. Suzuki, S. Kodama, and M. Watanabe: Possible role of ATM-dependent pathway in phosphorylation of p53 in senescent normal human diploid cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
5. S. Kodama, K. Yamauchi, A. Urushibara, S. Nakatomi, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Unstable nature of X-irradiated human chromosomes in unirradiated mouse m5S cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
6. G. Kashino, S. Kodama, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: X-ray-induced mutation at *HPRT* locus in Werner syndrome cells. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
7. T. Ise, S. Kodama, K. Suzuki, T. Tanaka, T. Miyazaki, and M. Watanabe: A role of long-lived radicals in radiation mutagenesis and its suppression by epigallocatechin gallate. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
8. A. Urushibara, S. Kodama, K. Suzuki, F. Suzuki, and M. Watanabe: Suppressive effects of p53 protein on heat-induced centrosomal abnormality. International symposium on radiation and homeostasis, July 13-16, Kyoto (2001).
9. A. Urushibara, S. Kodama, K. Suzuki, N. Kotobuki, M. Oshimura, E. Sonoda, and M. Watanabe: High susceptibility to the induction of genetic instability by radiation in DNA repair deficient cells, The 5th international symposium on chromosomal aberrations, October 26-28, Hyogo (2001).
10. S. Kodama, T. Tamaki, K. Yamauchi, A. Urushibara, K. Suzuki, M. Oshimura, and M. Watanabe: Radiation-induced delayed chromosome aberrations mediated by telomere instability, The 5th international symposium on chromosomal aberrations, October 26-28, Hyogo (2001).

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線による分裂死、mitotic catastrophe における p53 の役割、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p61、大阪（2001）
2. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理による中心体異常に対する p53 蛋白質の抑制効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p128、大阪（2001）
3. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蛋白質蓄積に対するプロテアソーム活性の関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p99、大阪（2001）
4. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射およびテロメア短縮による p53 タンパク質活性化機構の比較、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p98、大阪（2001）
5. 濱野弘樹、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：誘導型 hTERT 遺伝子導入による不死化ヒト細胞の樹立、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p118、大阪（2001）
6. 山路寛子、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線誘発遺伝的不安定性による遅延性突然変異生成のメカニズム、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p114、大阪（2001）
7. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X 線照射細胞の培養上清による細胞増殖促進効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p108、大阪（2001）
8. 香崎正宙、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：クルクミンによる癌細胞の増殖抑制機構解析、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p109、大阪（2001）
9. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、熊谷純、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発長寿命ラジカルの突然変異生成への関与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p110、大阪（2001）
10. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、寿典子、押村光雄、園田英一郎、渡邊正己：放射線誘発遅延性染色体異常生成過程における DNA 修復欠損の効果、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p114、大阪（2001）
11. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、渡邊正己：Werner 症候群細胞における X 線誘発突然変異の生成機構、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p93、大阪（2001）
12. 山内貴代、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：マウス m5S 細胞由来放射線誘発トランスフォーマントのヒト 11 番染色体移入による正常化、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p116、大阪（2001）
13. 後藤佐智子、泉雅子、本間正充、鈴木啓司、渡邊正己：自然突然変異誘発に関わる組換え頻度上昇への変異 p53 の寄与、日本放射線影響学会第 44 回大会、講演要旨集 p85、大阪（2001）
14. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：ヒト癌細胞における X 線誘発老化様増殖停止の p53 機能依存性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p325、横浜（2001）
15. 鎌田雅行、鈴木啓司、加藤靖正、奥田平和、執印太郎：VHL 蛋白質は、actin、vinculin を安定化し、細胞運動を抑制する、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p340、横浜（2001）
16. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 遺伝子導入癌細胞における p53 蓄積に対するプロテアソーム活性の影響、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p325、横浜

(2001)

17. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 蛋白質による温熱誘導ゲノム不安定性の抑制の可能性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p326、横浜 (2001)
18. 鈴木正敏、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：テロメアー短縮シグナルによる p53 タンパク質活性化への ATM 関与の可能性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p402、横浜 (2001)
19. 岡市協生、鈴木啓司、渡邊正己、奥村寛：PI3-キナーゼの放射線感受性への p53 依存的な関与、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p310、横浜 (2001)
20. 児玉靖司、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線非被曝マウス細胞に移入された放射線被曝ヒト染色体の不安定性、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p151、横浜 (2001)
21. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における DNA 二重鎖切断修復機構の解析、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p402、横浜 (2001)
22. 漆原あゆみ、児玉靖司、鈴木啓司、鈴木文男、渡邊正己：放射線誘発テロメア不安定性における *scid* 突然変異の影響、第 60 回日本癌学会総会、総会記事 p408、横浜 (2001)
23. 児玉靖司、山内貴代、玉城妙子、漆原あゆみ、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：放射線による遅延性染色体不安定性の誘導機構、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p538、横浜 (2001)
24. 後藤佐智子、泉雅子、本間正充、鈴木啓司、渡邊正己、谷田貝文夫：自然突然変異誘発に関わる組換え頻度上昇への変異 p53 の寄与、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p551、横浜 (2001)
25. 菓子野元郎、竹辺亜紀、児玉靖司、鈴木啓司、立花章、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における X 線誘発突然変異の解析、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p724、横浜 (2001)
26. 濱田信行、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己：X 線照射細胞の培養上清による細胞増殖促進効果、第 24 回日本分子生物学会年会、講演要旨集 p801、横浜 (2001)
27. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理後の p53 による中心体異常の抑制、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p60、札幌 (2001)
28. 山内基弘、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：p53 の蓄積に対するプロテアソーム活性の関与、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p60、札幌 (2001)
29. 菓子野元郎、児玉靖司、鈴木啓司、押村光雄、渡邊正己：Werner 症候群細胞における突然変異の解析、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p90、札幌 (2001)
30. 児玉靖司、漆原あゆみ、山内貴代、鈴木啓司、渡邊正己：放射線による遅延性染色体異常形成におけるテロメアー不安定性の関与、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p158、札幌 (2001)
31. 伊勢環、児玉靖司、鈴木啓司、田中隆、宮崎哲郎、渡邊正己：放射線誘発遺伝子突然変異に対する (-)-epigallocatechin-3-O-gallate の効果、日本薬学会第 121 年会、要旨集 4-p157、札幌 (2001)

32. 鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：放射線照射癌細胞における非アポトーシス性老化様増殖停止、第 31 回日本医学放射線学会生物部会放射線による制癌シンポジウム、要旨集、p18、奈良（2001）
33. 都田真奈、鈴木啓司、児玉靖司、渡邊正己：温熱処理後の p53 による中心体異常と染色体異常の抑制の可能性、日本ハイパーサーミア学会第 18 回大会、要旨集、p4、東京（2001）

研究費取得状況

1. 文部省科学研究費補助金・特定領域研究(C)(2)・放射線照射ヒト癌細胞における非アポトーシス生老化様増殖停止機構野解明・代表・2,900,000 円
2. 文部省科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)・放射線による ATM 依存的な BRCA1 蛋白質リン酸化とその意義の解明・代表・1,500,000 円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	51 編	（和文）	0 編
総説（欧文）	1 編	（和文）	5 編
著書（欧文）	4 編	（和文）	2 編
紀要（欧文）	4 編	（和文）	1 編
特許	0 件		

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 天然物化学
(氏名) 河野 功 (職名) 教授

研究テーマ

1. イリシウム属有毒植物の成分研究
2. 中国産薬用植物の成分研究
3. マレーシア産薬用植物の成分研究
4. 植物2次代謝産物の可溶化における物理化学的検討
5. 生理活性リード化合物の探索

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Y.-J. Zhang, T. Abe, T. Tanaka, C.-R. Yang, I. Kouno; Phyllanemblinins A-F, new ellagitannins from *Phyllanthus emblica*, *J. Nat. Prod.* (2001), **64**, 1527-1532.
2. T. Tanaka, K. Inoue, Y. Betsumiya, C. Mine, I. Kouno; Two Types of Oxidative Dimerization of the Black Tea Polyphenol Theaflavin, *J. Agr. Food Chem.* (2001), **40**, 5785-5789.
3. Z.-H. Jiang, T. Tanaka, M. Sakamoto, T. Jiang, I. Kouno; Studies on a medicinal parastic plant: lignans from the stems of *Cynomorium songaricum*, *Chem. Pharm. Bull.* (2001), **49**, 1036-1038.
4. Z.-H. Jiang, Y. Hirose, H. Iwata, S. Sakamoto, T. Tanaka, I. Kouno; Caffeoyl, coumaroyl, galloyl, and hexahydroxydiphenoyl glucoses from *Balanophora japonica*, *Chem. Pharm. Bull.*, (2001), **49**, 887-892.
5. Y.-J. Zhang, T. Tanaka, Y. Iwamoto, C.-R. Yang, I. Kouno; Novel sesquiterpenoids from the roots of *Phyllanthus emblica*; *J. Nat. Prod.* (2001), **64**, 870-873.
6. Z.-H. Jiang, T. Tanaka, C. Inutzuka, I. Kouno; Alkaloids, diarylheptanoid and naphthalene carboxylic acid ester from *Rhoiptelea chiliantha*, *Chem. Pharm. Bull.* (2001), **49**, 737-740.
7. S.-K. Ling, T. Tanaka, I. Kouno; Iridoids from *Rothmannia macrophylla*, *J. Nat. Prod.* (2001), **64**, 796-798.
8. S. Kosuge, T. Maekawa, C. Saito, T. Tanaka, I. Kouno, K. Ohtsuki; Biochemical characterization of galloyl pedunculagin (ellagitannin) as a selective inhibitor of the β -regulatory subunit of A-kinase in vitro, *J. Biochem.* (2001), **129**, 403-409.
9. Y.-J. Zhang, T. Tanaka, C.-R. Yang, I. Kouno; New phenolic constituents from the fruit juice of *Phyllanthus emblica*, *Chem. Pharm. Bull.* (2001), **49**, 537-540.
10. T. Tanaka, G.-I. Nonaka, M. Ishimatsu, I. Nishioka, I. Kouno; Revised structure of cercidin A, a novel ellagitannin having (*R*)-hexahydroxydiphenoyl esters at the 3,4-positions of glucopyranose, *Chem. Pharm. Bull.* (2001), **49**, 486-487.
11. I. Kouno, A. Hirai, A. Fukushige, Z.-H. Jiang, T. Tanaka; New Eudesmane sesquiterpenes from the root of *Lindera strychnifolia*, *J. Nat. Prod.* (2001), **64**, 286-288.

学会発表

国際学会

(一般講演)

1. T. Tanaka, K. Inoue, C. Mine, Y. Betsumiya, I. Kouno, Production of black tea pigments, theaflavins, from

green tea by treatment with various fruits, 2001 international conference on O-cha(tea) culture and science, October 5-8, Shizuoka, Japan.

国内学会

(一般講演)

1. 松尾篤士、田中 隆、河野 功、上田敏久；ターン構造をもつペプチドとタンニンとの相互作用、第38回ペプチド討論会、長崎、10月3～5日(2001)。
2. 谷村進、角本亮一、安里圭太、田中隆、河野功、河野通明、植物ポリフェノールの抗 Matrix metalloproteinase 活性、第5回がん分子標的治療研究会総会、東京、(2001)
3. 福森正剛、田中 隆、河野 功、シャクヤク果実の加水分解型タンニン二量体の構造、日本薬学会第121年会、3月28～30日、札幌(2001)。
4. 三根千枝、田中 隆、河野 功、茶カテキン類の酸化に関する化学的研究、日本薬学会第121年会、3月28～30日、札幌(2001)。
5. 張 穎君、阿部智美、田中 隆、河野 功、楊 崇仁、雲南民間薬 *Phyllanthus emblica* の成分(第4報)フェノール性成分の分離と構造、日本薬学会第121年会、3月28～30日、札幌(2001)。
6. 張 穎君、田中 隆、河野 功、楊 崇仁雲南民間薬 *Phyllanthus emblica* 成分の抗酸化作用、日本生薬学会第48回年会、9月7～8日、金沢(2001)。
7. 林 淑娟、田中 隆、河野 功、マレーシア産ノボタン科植物 *Phyllagathis rotundiflora* の成分研究、日本生薬学会第48回年会、9月7～8日、金沢(2001)。
8. 三根千枝、松田美祐樹、田中 隆、河野 功、カテキン酸化メカニズムの解明(6)～Theaflavin類の反応性と phenazine 誘導体について～、第18回日本薬学会九州支部大会、12月15～16日、熊本(2001)。
9. 田中 隆、三根千枝、松田美祐樹、井上京子、河野 功、カテキン及び関連ポリフェノールの酸化メカニズム、第43回天然有機化合物討論会、10月2日～4日、大阪(2001)。

学会役員等

日本生薬学会評議員

日本生薬学会関西支部委員

【過去の研究業績総計】

原著論文(欧文)	91編	(和文)	5編
総説(欧文)	0編	(和文)	0編
著書(欧文)	5編	(和文)	1編
紀要(欧文)	6編	(和文)	1編
特許	0件		

(講座) 分子創薬科学

(研究室) 天然物化学

(氏名) 田中 隆

(職名) 助教授

研究テーマ

1. ポリフェノールの構造と機能に関する化学的研究
2. カテキン類の酸化機構と紅茶色素に関する研究
3. 生理活性天然有機化合物の探索

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. T. Tanaka, K. Inoue, Y. Betsumiya, C. Mine, I. Kouno: Two types of oxidative dimerization of the black tea polyphenol theaflavin. *J. Agric. Food Chem.*, **49**, 5785-5789 (2001).
2. T. Tanaka, G.-i. Nonaka, M. Ishimatsu, I. Nishioka, K. Kouno: Revised structure of cercidin A, a novel ellagitannin having (*R*)-hexahydroxydiphenoyl esters at the 3, 4-positions of glucopyranose. *Chem. Pharm. Bull.*, **49**, 486-487 (2001).
3. Y.-J. Zhang, T. Abe, T. Tanaka, C.-R. Yang, I. Kouno: Phyllanemblinins A-F, new ellagitannins from *Phyllanthus emblica*. *J. Nat. Prod.*, **64**, 1527-1532 (2001).
4. Y.-J. Zhang, T. Tanaka, Y. Iwamoto, C.-Y. Yang, I. Kouno: Novel sesquiterpenoids from the roots of *Phyllanthus emblica*. *J. Nat. Prod.*, **64**, 870-873 (2001).
5. Y.-J. Zhang, T. Tanaka, C.-R. Yang, I. Kouno: New phenolic constituents from the fruit juice of *Phyllanthus emblica*. *Chem. Pharm. Bull.*, **49**, 537-540 (2001).
6. S.-K. Ling, T. Tanaka, I. Kouno: Iridoids from *Rothmannia macrophylla*. *J. Nat. Prod.*, **64**, 796-798 (2001).
7. Z.-H. Jiang, Y. Hirose, H. Iwata, S. Sakamoto, T. Tanaka, I. Kouno: Caffeoyl, coumaroyl, galloyl, and hexahydroxydiphenoyl glucoses from *Balanophora japonica*. *Chem. Pharm. Bull.*, **49**, 887-892.
8. Z.-H. Jiang, T. Tanaka, C. Inutsuka, I. Kouno: Alkaloids, diarylheptanoid and naphthalene carboxylic acid ester from *Rhoiptelea chiliantha*. *Chem. Pharm. Bull.*, **49**, 737-740 (2001).
9. Z.-H. Jiang, T. Tanaka, M. Sakamoto, T. Jiang, I. Kouno: Studies on a medicinal parasitic plant: lignans from the stems of *Cynomorium songaricum*. *Chem. Pharm. Bull.*, **49**, 1036-1038 (2001).
10. I. Kouno, A. Hirai, A. Fukushige, Z.-H. Jiang, T. Tanaka: New eudesmane sesquiterpenes from the root of *Lindera strychnifolia*. *J. Nat. Prod.*, **64**, 286-288 (2001).
11. I. Abe, Y. Kashiwagi, H. Noguchi, T. Tanaka, Y. Ikeshiro, Y. Kashiwada: Ellagitannins and hexahydroxydiphenoyl esters as inhibitors of vertebrate squalene epoxidase. *J. Nat. Prod.*, **64**, 1010-1014 (2001).
12. C. P. Chen, T. Yokozawa, M. Sekiya, M. Hattori, T. Tanaka: Protective effect of *Sanguisorbae Radix* against peroxynitrite-mediated renal injury. *J. Trad. Med.*, **18**, 1-7 (2001).
13. J. Kinjo, T. Nagao, T. Tanaka, G.-i. Nonaka, H. Okabe: Antiproliferative constituents in the plant 8. Seeds of *Rhynchosia volubilis*. *Chem. Pharm. Bull.*, **24**, 1443-1445 (2001).

14. S. Kosuge, T. Maekawa, C. Saito, T. Tanaka, I. Kouno, K. Ohtsuki: Biochemical characterization of galloyl pedunculagin (ellagitannin) as a selective inhibitor of the β -regulatory subunit of A-kinase *In Vitro. J. Biochem.*, **129**, 403-409 (2001).
15. Y. Manako, H. Wake, T. Tanaka, K. Shimomura, K. Ishimaru,: Phenanthropyran derivatives from *Phalaenopsis equestris*. *Phytochemistry*, **58**, 603-605 (2001).
16. N. Tanaka, T. Tanaka, T. Fujioka, H. Fujii, K. Mihashi, K. Shimomura, K. Ishimaru: An ellagic compound and iridoids from *Cornus capitata* root cultures. *Phytochemistry*, **57**, 1287-1291 (2001).
17. T. Yokozawa, T. Tanaka, T. Kimura: Examination of the nitric oxide production-suppressing component in *Tinospora tuberculata*. *Biol. Pharm. Bull.*, **24**, 1153-1156 (2001).

(A-c) 著書

1. T. Tanaka, K. Inoue, C. Mine, Y. Betsumiya, I. Kouno: Production of black tea pigments, theaflavins, from green tea by treatment with various fruits. Proceedings of 2001 International Conference on O-CHA(tea) Culture and Science, Shizuoka, Japan; Vol. Session II, pp 276-279.

B 邦文

(B-d) 紀要

1. 田中 隆：カテキン類の酸化過程の解析，長崎大学機器分析センターニュース，**15**，pp13-15 (2001)。

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. T. Tanaka, K. Inoue, C. Mine, Y. Betsumiya, I. Kouno: Production of black tea pigment, theaflavins, from green tea by treatment with various fruits, International Conference on O-CHA(tea) Culture and Science, GRANSHIP(Shizuoka Convention & Arts Center), October 5-8, Shizuoka, Japan, Abstracts p84 (2001).

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 福森正剛, 田中 隆, 河野 功: シャクヤク果実の加水分解型タンニン二量体の構造, 日本薬学会第 121 年会 (札幌) 講演要旨集 2, p136 (2001)
2. 三根千枝, 田中 隆, 河野 功: 茶カテキン類の酸化に関する化学的研究, 日本薬学会第 121 年会 (札幌) 講演要旨集 2, p136 (2001)
3. 張 穎君, 阿部智美, 田中 隆, 河野 功, 楊 崇仁: 雲南民間薬 *Phyllanthus emblica* の成分 (第 4 報) フェノール性成分の分離と構造, 日本薬学会第 121 年会 (札幌) 講演要旨集 2, p137 (2001)
4. 林武男, 丸山春子, 笠井良次, 服部克次, 高須賀俊輔, 櫛木修, 山崎和男, 田中 隆:

バナバのブドウ糖輸送増強成分について，日本薬学会第 121 年会（札幌）講演要旨集 2，p137（2001）

5. 小菅成治，斎藤智里，田中隆，河野功，大槻健蔵：Galloyl pedunculagin による A-kinase-subunit の生理活性阻害作用，日本薬学会第 121 年会（札幌）講演要旨集 4，p58（2001）
6. 服部克次，高須賀俊輔，林武男，丸山春子，笠井良次，山崎和男，田中 隆，樫木修：ラット脂肪細胞における Lagerstroemin の糖取込促進作用，日本薬学会第 121 年会（札幌）講演要旨集 4，p58（2001）
7. 伊勢 環，児玉靖司，鈴木啓司，田中 隆，宮崎哲郎，渡邊正己：放射線誘発遺伝子突然変異に対する(-)-epigallocatechin-3-O-gallate の効果，日本薬学会第 121 年会（札幌）講演要旨集 4，p157（2001）
8. 張 穎君，田中 隆，河野 功，楊 崇仁：雲南民間薬 *Phyllanthus emblica* 成分の抗酸化作用，日本薬学会第 48 回年会（金沢）講演要旨集，p102（2001）
9. 林 淑娟，田中 隆，河野 功：マレーシア産ノボタン科薬用植物 *Phyllagathis rotundiflora* の成分研究，日本薬学会第 48 回年会（金沢）講演要旨集，p215（2001）
10. 阿部郁朗，柏木保彦，野口博司，田中 隆，池城安正，柏田良樹：エラジタンニン及び合成 HHDP エステルによるスクアレンエポキシダーゼ阻害作用，日本薬学会第 48 回年会（金沢）講演要旨集，p159（2001）
11. 田中 隆，三根千枝，松田美祐樹，井上京子，河野 功：カテキン及び関連ポリフェノールの酸化メカニズム，第 43 回天然有機化合物討論会（大阪）講演要旨集 pp329-334（2001）
12. 松尾篤士，田中 隆，河野 功，上田敏久：ターン構造をもつペプチドとタンニンとの相互作用，第 38 回ペプチド討論会講演要旨集，p 70（2001）
13. 三根千枝，松田美祐樹，田中 隆，河野 功：カテキン酸化メカニズムの解明（6）Theaflavin 類の反応性と phenazine 誘導体について，第 18 回日本薬学会九州支部大会（熊本）講演要旨集，p 115（2001）
14. 吉武正弘，長尾常敦，金城順英，田中 隆，河野 功，野中源一郎，岡部 光：腫瘍細胞増殖抑制成分に関する研究（第 2 報）．ホルトノキ (*Elaeocarpus sylvestris* var. *ellipticus*) 樹皮のフェノール性成分について，第 18 回日本薬学会九州支部大会（熊本）講演要旨集，p 121（2001）

研究費取得状況

1. タンニン酸化的代謝機構の生物有機化学的解析による紅茶色素の構造解明；平成 13 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）(2) 課題番号 12680594；代表；60 万円
2. ビワ含有成分の機能性評価とその機能を生かした健康食品の開発；平成 13 年度長崎県技術開発研究委託（学・官枠）事業；分担；85 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	130 編	（邦文）	0 編
総説	（欧文） 1 編	（邦文）	1 編

著書	(欧文)	9 編	(邦文)	11 編
紀要	(欧文)	0 編	(邦文)	1 編
特許		1 件		

(講座) 分子創薬科学 (研究室) 天然物化学
(氏名) 姜 志宏 (職名) 助手

研究テーマ

1. 中国産薬用植物の成分研究
2. 生理活性リード化合物の探索
3. 寄生植物由来の生理活性成分の化学的研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Z.-H. Jiang, T. Tanaka, M. Sakamoto, T. Jiang, I. Kouno; Studies on a medicinal parastic plant: lignans from the stems of *Cynomorium songaricum*, *Chem. Pharm. Bull.* (2001), **49**, 1036-1038.
2. Z.-H. Jiang, Y. Hirose, H. Iwata, S. Sakamoto, T. Tanaka, I. Kouno; Caffeoyl, coumaroyl, galloyl, and hexahydroxydiphenoyl glucoses from *Balanophora japonica*, *Chem. Pharm. Bull.*, (2001), **49**, 887-892.
3. Z.-H. Jiang, T. Tanaka, C. Inutzuka, I. Kouno; Alkaloids, diarylheptanoid and naphthalene carboxylic acid ester from *Rhoiptelea chiliantha*, *Chem. Pharm. Bull.* (2001), **49**, 737-740.
4. I. Kouno, A. Hirai, A. Fukushige, Z.-H. Jiang, T. Tanaka; New Eudesmane sesquiterpenes from the root of *Lindera strychnifolia*, *J. Nat. Prod.* (2001), **64**, 286-288.

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	27 編	(和文)	0 編
総説 (欧文)	0 編	(和文)	0 編
著書 (欧文)	6 編	(和文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(和文)	0 編
特許	0 件		

(講座) 医薬品資源学 (研究室) 薬品生物工学
(氏名) 芳本 忠 (職名) 教授

研究テーマ

- 1、生体のペプチダーゼと生理活性ペプチドの代謝に関する研究
- 2、遺伝子工学およびX線結晶解析法を用いた酵素の構造と機能の研究
- 3、酵素の構造を基礎とした阻害剤の開発と医薬品への応用
- 4、新規酵素の開発とその特異性を利用した臨床検査試薬への応用

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Ito, K., Inoue, T., Takahashi, T., Huang, H-S, Esumi, T., Hatakeyama, S., Tanaka, N., Nakamura, K.T. and Yoshimoto, T. The mechanism of substrate recognition of pyroglutamylpeptidase from *Bacillus amyloliquefaciens* by X-ray crystallography and site directed mutagenesis *J. Biol. Chem.* 276: 18557-18562 (2001)
2. Kabashima, T., Li, Y., Kanada, N., Ito, K., and Yoshimoto, T., Enhancement of the thermostability of pyroglutamyl peptidase I by introduction of a disulfide bond *Biochim. Biophys. Acta* 1547, 214-220 (2001)
3. Huang, H-S, Inoue, T., Ito, K., and Yoshimoto T., Preliminary crystallographic study of the *Thermus aquaticus* glycerol kinase, *Acta Cryst. D* 57, 1030-1031 (2001).
4. Ogasawara, K., Khechinashvili, N.N., Nakamura, M., Yoshimoto, T and Yutani, K. Thermal stability of pyrrolidone carboxyl peptidase from hyperthermophilic archaeon, *Pyrococcus furiosus*. *Eur. J. Biochem.* 268, 3233-3242 (2001)
5. Kusakabe, Y., Tanaka, N., Ito, K., Yoshimoto, T., and Nakamura K.T., Crystallization and preliminary X-Ray crystallographic studies of formaldehyde dehydrogenase from *Pseudomonas putida*, *Protein and Peptide Letters* 8, 237-240(2001).

学会発表

B 国内学会

(B-a) 招待講演

1. 第74回日本生化学会大会シンポジウム(アミノペプチダーゼ研究の現状と展望 - 微生物からヒトまで, その構造と機能 -), 芳本忠, 井上高彦, 伊藤潔: プロリルアミノペプチダーゼの構造と作用機構, 第74回日本生化学会大会発表抄録集, p622, 京都(2001)

(B-b) 一般講演

1. 伊藤潔, 今村朋史, 波田慎太郎, 椛島力, 芳本忠: 大腸菌オリゴペプチダーゼBの構造と活性発現, 日本薬学会第121年会要旨集4, p30, 札幌(2001)
2. 伊藤潔, 今村朋史, 芳本忠: 大腸菌プロテアーゼIIの基質特異性に関わるアミノ酸

- 残基の同定，平成 13 年度日本生化学会九州支部例会抄録，p33，長崎（2001）
3. 伊藤潔，高倉麻貴子，芳本忠：耐熱性のプリンヌクレオシドホスホリラーゼ遺伝子のクローニング，平成 13 年度日本生化学会九州支部例会抄録，p33，長崎（2001）
 4. 伊藤潔，今村朋史，芳本忠：大腸菌オリゴペプチダーゼ B の塩基性アミノ酸特異性に関わる残基の同定，第 74 回日本生化学会大会発表抄録集，p789，京都（2001）
 5. 高倉麻貴子，伊藤潔，芳本忠：耐熱菌のプリンヌクレオシドホスホリラーゼ遺伝子のクローニングと発現，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，p152，熊本（2001）
 6. Nik Azmi，伊藤潔，芳本忠：細菌の 3-ヒドロキシ酪酸脱水素酵素遺伝子のクローニングと発現，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，p153，熊本（2001）
 7. 井上高彦，金田直太，伊藤潔，畑山範，芳本忠：プロリルアミノペプチダーゼに特異的なインヒビター，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，p158，熊本（2001）

学会役員等

1. 日本薬学会、学会賞選考委員
2. 日本生化学会、評議員、常任論文審査委員、九州支部評議員
3. 日本農芸化学会、代議員、常任論文審査委員、九州支部評議員
4. 日本生物工学会、活動委員、九州支部評議員
5. 長崎先端技術開発協議会、生物機能応用技術研究会委員長

研究費取得状況

- 1、ユニークな特異性と構造を持つプロリン特異性ペプチダーゼの構造解明;
基盤研究(B)(2): 代表: 410万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	125	編	（和文）	0	編
総説（欧文）	3	編	（和文）	18	編
著書（欧文）	2	編	（和文）	15	編
紀要（欧文）	0	編	（和文）	0	編
特許	27	件			

(講座) 医薬品資源学

(研究室) 薬品生物工学

(氏名) 伊藤 潔

(職名) 助教授

研究テーマ

1. アルコール脱水素酵素の構造と機能に関する研究
2. ホルムアルデヒド脱水素酵素の発現調節に関する研究
3. ペプチダーゼの基質特異性変換に関する研究
4. その他の酵素の構造と機能に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Ito, K., Inoue, T., Takahashia, T., Huang, H-S, Esumi, T., Hatakeyama, S., Tanaka, N. Nakamura, K.T. and Yoshimoto, T. The mechanism of substrate recognition of pyroglutamylpeptidase from *Bacillus amyloliquefacience* by X-ray crystallography and site directed mutagenesis. J. Biol. Chem. 276: 18557-18562 (2001)
2. Kabashima, T., Li, Y., Kanada, N., Ito, K., and Yoshimoto, T., Enhancement of the thermostability of pyroglutamyl peptidase I by introduction of a disulfide bond. Biochim. Biophys. Acta 1547, 214-220 (2001)
3. Huang,H-S, Inoue, T., Ito, K., and Yoshimoto T., Preliminary crystallographic study of c the *Thermus aquaticus* glycerol kinase, Acta Cryst. D 57, 1030-1031 (2001).
4. Kusakabe, Y., Tanaka, N., Ito, K., Yoshimoto, T., and Nakamura K.T., Crystallization and preliminary X-Ray crystallographic studies of formaldehyde dehydrogenase from *Pseudomonas putida*. Protein and Peptide Letters 8, 237-240(2001).

(A-b) 総説

1. Igarashi, K., Ito, K., Kashiwagi, K. Polyamine uptake systems in *Escherichia coli* (Review), Res. Microbiol., 152: 271-278 (2001)

学会発表

B 国内学会

(B-a) 招待講演

1. 伊藤潔：酵素の構造と機能及び臨床検査への応用，第18回日本薬学会九州支部大会，奨励賞受賞講演，熊本（2001）

(B-b) 一般講演

1. 伊藤潔，今村朋史，波田慎太郎，椋島力，芳本忠：大腸菌オリゴペプチダーゼの構造と活性発現，日本薬学会第121年会要旨集4，p30，札幌（2001）
2. 日下部吉男，田中信忠，伊藤潔，中村和郎：グルタチオン非依存型ホルムアルデヒ

- ド脱水素酵素の立体構造解析，日本薬学会第 121 年会，要旨集 4，p112，札幌（2001）
3. 伊藤潔，今村朋史，芳本忠：大腸菌プロテアーゼの基質特異性に関わるアミノ酸残基の同定，平成 13 年度日本生化学会九州支部例会抄録，p33，長崎（2001）
 4. 伊藤潔，高倉麻貴子，芳本忠：耐熱性のプリンヌクレオシドホスホリラーゼ遺伝子のクローニング，平成 13 年度日本生化学会九州支部例会抄録，p33，長崎（2001）
 5. 伊藤潔，今村朋史，芳本忠：大腸菌オリゴペプチダーゼ B の塩基性アミノ酸特異性に関わる残基の同定，第 74 回日本生化学会大会発表抄録集，p789，京都（2001）
 6. 高倉麻貴子，伊藤潔，芳本忠：耐熱菌のプリンヌクレオシドホスホリラーゼ遺伝子のクローニングと発現，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，p152，熊本（2001）
 7. Nik Azmi，伊藤潔，芳本忠：細菌の 3-ヒドロキシ酪酸脱水素酵素遺伝子のクローニングと発現，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，p153，熊本（2001）
 8. 井上高彦，金田直太，伊藤潔，畑山範，芳本忠：プロリルアミノペプチダーゼに特異的なインヒビター，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，p158，熊本（2001）

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	48	編	（邦文）	0	編
総説（欧文）	3	編	（邦文）	2	編
著書（欧文）	0	編	（邦文）	0	編
紀要（欧文）	0	編	（邦文）	0	編
特許	0	件			

(講座) 医薬品資源学 (研究室) 薬品生物工学
(氏名) 椋島 力 (職名) 助手

研究テーマ

1. 酵素の機能と構造に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

- 1 Enhancement of the thermostability of pyroglutamyl peptidase I by introduction of a disulfide bond. Kabashima, T., Li, Y., Kanada, N., Ito, K., and Yoshimoto, T. *Biochim. Biophys. Acta* 1547, 214-220 (2001)
- 2 Glucose and cAMP regulate the L-type pyruvate kinase gene by phosphorylation/dephosphorylation of the carbohydrate response element binding protein. Kawaguchi, T. Takenoshita, M. Kabashima, T. Uyeda, K. *Proc. Nat. Acad. Sci.* 98(24), 13710-13715 (2001)

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	21	編 (和文)	0	編
総説 (欧文)	0	編 (和文)	1	編
著書 (欧文)	0	編 (和文)	0	編
紀要 (欧文)	0	編 (和文)	0	編
特許	0	件		

(講座) 薬用資源学

(研究室) 薬用植物学

(氏名) 山本浩文

(職名) 助教授

研究テーマ

1. 植物組織培養による有用物質生産とその生合成調節

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. N. Katano, H. Yamamoto, R. Iio, K. Inoue: 7-Deoxyloganin 7-hydroxylase in *Lonicera japonica* cell cultures. *Phytochemistry*, 58 (1), 53-58 (2001).
2. H. Yamamoto, A. Yatou, K. Yazaki, H. Hayashi, G. Taguchi, K. Inoue: Increases of secondary metabolite production in various plant cell cultures by co-cultivation with cork. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 65 (4), 853-860 (2001).
3. H. Yamamoto, A. Yatou, K. Inoue: 8-Dimethylallylnaringenin 2'-hydroxylase, the crucial cytochrome P450 monooxygenase for lavandulylated flavanone formation in *Sophora flavescens* cultured cells. *Phytochemistry*, 58 (5), 671-676 (2001).
4. A.B. Kirakosyan, R.R. Vardapetyan, A.G. Charchoglyan, H. Yamamoto, H. Hayashi, K. Inoue: The effect of cork pieces on pseudohypericin production in cells of *Hypericum perforatum* shoots. *Russian J. Plant Physiol.*, 48 (6), 816-819 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 趙 平, 山本浩文, 井上謙一郎: コルク組織と共培養したクララ培養細胞を用いたブレニルフラボノイド類の生合成研究, 第 19 回日本植物分子生物学会大会・シンポジウム講演要旨集 p.147, 東京 (2001) .
2. 趙 平, 山本浩文, 井上謙一郎: クララ培養細胞中の leachianone G 2"-dimethylallyltransferase, 第 19 回日本植物分子生物学会大会・シンポジウム講演要旨集 p.148, 東京 (2001) .
3. 車 満暎, 山本浩文, 片野信行, 山口実沙子, 井上謙一郎: スイカズラ培養細胞における 7-deoxyloganetic acid 1-O-glucosyltransferase, 日本生薬学会第 48 回年会講演要旨集 p.125, 金沢 (2001) .

研究費取得状況

1. 薬用植物への有用遺伝子導入に関する研究；平成 13 年度科学研究費補助金（特別研究員奨励費）；代表；120 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	36 編	（邦文）	3 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	1 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
特許	1 件		

(講座)薬品資源学 (研究室)薬用植物園
(氏名)北村美江 (職名)助手

研究テーマ

1. 植物二次代謝産物の動態と機能に関する研究
2. 薬用植物の育種と系統保存に関する研究
3. 植物と環境との相互作用に関する研究

B 邦文

(B-d) 報告書等

- 1.北村美江：アサの種子の発芽と雌雄異株について、長崎県生物学会誌、52、19-23 (2001).

学会発表

B 国内学会

(B-b)一般講演

- 1.北村美江、石田優希子、石川 彩、渡邊正己、小関良宏、山田晃世、伊藤佳央：ハマボウフウ培養細胞のストレス応答に及ぼすアントシアニンの効果、第19回日本植物細胞分子生物学会(東京)大会・シンポジウム、2001年7月30-31日、講演要旨集 p138.

研究費取得状況

- 1.有用物質生産のための酵素遺伝子導入植物の開発；文部科学省科学研究費、基盤研究(B)；分担；4,200.

【過去の研究業績総計】

原著論文(欧文)	28	編	(邦文)	5	編
総説(欧文)	4	編	(邦文)	0	編
著書(欧文)	2	編	(邦文)	1	編
紀要等(欧文)	0	編	(邦文)省略		編
特許	0	件			

(講座) 薬用資源学 (研究室) 薬品構造解析学研究室

(氏名) 富永義則 (職名) 助教授

研究テーマ

1. ケテンジチオアセタール誘導体の合成化学的研究
2. 機能性複素環化合物の研究
3. バイオメディカル用色素の開発

(Aa) 原著論文 (欧文)

1. Yoshinori Tominaga, Sachiko Itonaga, Tetsuya Kouno, and Yasuhiro Shigemitsu, Derivatives and their oxidation: As an oxidative chromogenic reaction analysis. *Heterocycles*, **55**(8), 1447-450 (2001).
2. Yoshinori Tominaga, Kenichi Nomoto and Noriko Yoshioka, Synthesis of polycyclic nitrogen-containing heterocyclic compounds. One pot formation of 1,6-naphthyridine ring system by reaction of cyano-methylthio-heterocycles with dialkyl acetylenedicarboxylate. *J. Heterocyclic Chem*, **38**(5), 1135-1141 (2001).
3. Yoshinori Tominaga, Satoshi Takada, Shinya Kohra, and Yasuhiro Shigemitsu, Synthesis and [3+2] cycloaddition reaction of 3-[(trimethylamino)-(methylthio)methylene]heterocyclic Compounds. *J. Heterocyclic Chem*, **38**(5), 1143-1151 (2001).
4. Yasuhiro Shigemitsu and Yoshinori Tominaga, Synthesis of 4-aryl-3-methylthio-1-pyrrole-2,5-diones and 3-arylpyrrolidine-2,5-diones by reaction of nitroketene dithioacetal with arylacetone. *Heterocycles*, **55**(12), 2257-2260 (2001).

総説

1. Shinya Kohra and Yoshinori Tominaga, Synthesis of five-membered heterocyclic compounds using 1,3-dipolar agents. *Trend in Heterocyclic Chemistry*, **77**, 13-161 (2001).

学会発表

国際学会

1. Synthesis of merocyan class of dyes bearing maleimide ring system incorporated into methine chains』 Y. Shigemitsu, S. Itonaga, K. Koyama and Y. Tominaga, 9th Asian Chemistry Congress, 2-4 Jul 2001, Brisbane Australia
2. Synthesis of pyridine derivatives using ketene dithioacetals. Synthesis of 2,2-dipyridyl derivatives with the fluorescence

property.

Naoko Mizuyama, Yoshinori Tominaga, Yasuhiro Shigemitsu, and Shun-ichi Hirayama 18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, 2001年7月30日, パシフィコ横浜, Abstracts, 30-PO-86, p 219

3. 『Synthesis, fluorescent properties and stereoselective reduction of 3-aryl-4-methylthiomaleimides』
Y. Shigemitsu and Y. Tominaga, 18th International Congress of Heterocyclic Chemistry, 2001年7月30日, パシフィコ横浜, Abstracts, 30-PO-88, p 222

国内学会

1. マレイミド環を有する新規メロシアニン色素の合成とその UV/VIS スペクトルに関する分子軌道計算.
重光保博、富永義則
2001年計算化学討論会、東京都江東区文化センターホール、東京、2001年、6月6日
東京都江東区東町4-1-1-3
2. 『光応答性化合物の開発(第2報)』 本田孝志、小川宙志、平山俊一(佐世保高専)、重光保博、富永義則(長崎大学機器分析センター)、第38回化学関連支部合同九州大会、2001年7月19日、九州大学
3. 『マレイミド環を組み込んだ新規メロシアニン色素の合成とその電子スペクトルの理論的解析』、重光保博、富永義則(長崎大学機器分析センター)、光化学討論会、2001、2001年9月11日、金沢市文化ホール、金沢市
4. 『マレイミド環を有する新規メロシアニン色素の電子スペクトルに関する分子軌道計算』、重光保博、富永義則(長崎大学機器分析センター)、第24回情報化学討論会、2001年11月7日、徳島大学

国際研究プロジェクト・国際会議組織委員等

1. Yoshinori Tominaga; International Symposium on the Chemistry and Pharmacology of Pyridazines; Honorary Advisory Committeeman.

【過去の研究業績総計】

原著論文(欧文)	157	編(和文)	52	編
総説(欧文)	10	編(和文)	6	編
著書(欧文)	3	編(和文)	3	編

紀要	(欧文)	0 編	(和文)	0 編
特許		2 件		

(講座)薬物治療学

(氏名)村田 育夫 (職名)教授

研究テーマ

1. 消化性潰瘍の病態と治療
2. 炎症性腸疾患の病態と治療
3. 消化管疾患病態と微小循環
4. 消化器疾患の分子生物学的・遺伝子学的研究
5. 消化器内視鏡診断・治療学

原著論文

A 欧文

(Aa)原著論文

1. Tai M, Yoshikawa I, Kume K, Murata I, Otsuki M. A large Brunner's gland hamartoma resected by endoscopic polypectomy. *Gastrointest Endosc* 2001 53 (2); 207-209
2. Kume K, Yohikawa I, Yamazaki M, Abe S, Murata I, Otsiki M. A case of gastric cancer with features of submucosal tumor. *Gastrointest Endosc* 2001 53 (2); 247-249
3. Wada F, Murase K, Yoshio Y, Onita K, Ikeda K, Furuse H, Yamao T, Isomoto H, Takeshima F, Omagari K, Mizuta Y, Nakagoe T, Murata I, Tomonaga M, Kohno S. Chronic non-specific jejunitis – a case report-. *Acta Med Nagasaki* 2000 45: 53-56.
4. Mizuta Y, Yamakawa M, Isomoto H, Takeshima F, Murase K, Abe K, Kawai K, Murata I, Kohno S. Gastric submucosal heterotopia of the immature gastric glands with endoscopic feature mimicking carcinoid tumor. *Digestive Endoscopy* 2001 13: 45-48
5. Masuda J, Omagari K, Mastuo I, Kinoshita H, Sakimura K, Hazama H, Ohba K, Isomoto H, Murase K, Murata I, Kohno S. Changes in titers of antimitochondrial and antinuclear antibodies during the course of primary biliary

- cirrhosis. *J Gastroenterol Hepatol.* 2001 Feb;16(2):239-243.
6. Isomoto H, Ohnita K, Mizuta Y, Maeda T, Omagari K, Miyazaki M, Murase K, Hasui K, Murata I, Kohno S. Adult T-cell leukemia with an unusual esophageal lesion. *Gastrointest Endosc.* 2001 May;53(6):673-675.
 7. Onizuka Y, Mizuta Y, Isomoto H, Takeshima F, Murase K, Miyazaki M, Ogata H, Otsuka K, Murata I, Kohno S. Sludge and stone formation in the gallbladder in bedridden elderly patients with cerebrovascular disease: influence of feeding method. *J Gastroenterol.* 2001 May;36(5):330-7. (5 月)
 8. Kajiyama H, Murase K, Miyazaki T, Isomoto H, Fukuda Y, Yamazawa N, Soda H, Takeshima F, Mizuta Y, Murata I, Kohno S. Micronutrient status and glutathione peoxidasa in bedridden patients on tube feeding. *J Int Med Res.* 2001 May-Jun;29(3):181-8.
 9. Ohba K, Omagari K, Kinoshita H, Soda H, Masuda J, Hazama H, Tagawa M, Hata T, Nakamura H, Murata I, Kohno S. Primary biliary cirrhosis among atomic bomb survivors in Nagasaki, Japan. *J Clin Epidemiol.* 2001 Aug;54(8):845-50.
 10. Isomoto H, Ohnita K, Mizuta Y, Maeda T, Onizuka Y, Miyazaki M, Omagari K, Takeshima F, Murase K, Haraguchi M, Murata I, Kohno S. Clinical and endoscopic features of adult T-cell leukemia/lymphoma with duodenal involvement. *J Clin Gastroenterol.* 2001 Sep;33(3):241-6.
 11. Isomoto H, Urata M, Nakagoe T, Sawai T, Nomoto T, Oda H, Nomura N, Takeshima F, Mizuta Y, Murase K, Shimada S, Murata I, Kohno S. Proximal extension of cap polyposis confirmed by colonoscopy. *Gastrointest Endosc.* 2001 Sep;54(3):388-91.
 12. Kume K, Hirakoba M, Murata I, Yoshikawa I, Otsuki M. Disappearance of both MALT lymphoma and hyperplastic polyps in the stomach after eradication of *Helicobacter pylori*. *Am J Gastroenterol.* 2001 Sep;96(9):2796-7.

13. . Fujiwara K, Karasuyama M, Murata I, Tanabe T, Yabuuchi M, Inoue Y, Tsuru D. Immunoelectron-microscopic demonstration of histamine depletion in the gastric enterochromaffin-like cells of rats treated with alpha-fluoromethylhistidine. *Cell Tissue Res.* 2001 Nov;306(2):295-300.
14. Fukuda Y, Isomoto H, Takeshima F, Yamasaki K, Mizuta Y, Omagari K, Murase K, Yamaguchi H, Iseki M, Murata I, Kohno S. Heterotopic gastric mucosa in intrahepatic bile duct, presenting with hemobilia: a case report. *Hepatogastroenterology.* 2001 Sep-Oct;48(41):1337-9.
15. Isomoto H, Ohnita K, Haraguchi M, Mizuta Y, Momita S, Ikeda S, Omagari K, Murase K, Nakayama T, Maeda T, Murata I, Kohno S. Jejunal perforation in a patient with adult T-cell leukemia. *Leuk Lymphoma.* 2001 Nov-Dec;42(6):1423-7.

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 大仁田 賢、磯本 一、浦田 恵、竹原裕介、増田淳一、大曲勝久、水田陽平、村瀬邦彦、鬼塚康德、村田育夫、河野 茂。 十二指腸出血を契機に発見され塞栓療法が有効であった脾動静脈奇形の 1 例 *Gastroenterol Endosc* 2001 43(3):279-84 (3月)
2. 北村祐子, 松永圭一郎, 中牟田浩治, 城野健児, 村田育夫, 河野 茂. 治療に難渋した食道潰瘍の 1 例. *長崎医学会雑誌* 2001 76(1): 15-17 (3月)
3. 中牟田浩治, 松永圭一郎, 城野健児, 村田育夫, 磯本 一, 水田陽平, 村瀬邦彦, 河野 茂. 内視鏡的乳頭切開術における自動制御システム (Endocut Mode)を備えた高周波電源装置の有用性について. *長崎医学会雑誌* 2001,76 (2): 47-50 (6月)
4. 朝長道生, 中村研司, 木下秀樹, 梶山浩史, 磯本 一, 大曲勝久, 水田陽

- 平, , 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂. Graves 病 を合併した潰瘍性大腸炎の一例 日本消化器病学会雑誌. 2001;98(6):644-9.
5. 中村研司, 朝長道生, 梶山浩史, 磯本 一, 竹島史直, 水田陽平, , 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂. 小腸, 大腸, および胃に skip してみられた腸管囊腫様気腫症の 1 例. 日本消化器病学会雑誌. 2001 98(8):948-52
 6. 久米恵一郎, 村田育夫, 阿部慎太郎, 芳川一郎, 児玉直樹, 堀 広子, 木原康之, 大槻 眞 左総骨静脈血栓症を併発した Borrmann4 型胃癌の 1 例 消化器の臨床 2001; 4(3) 413-417 (6, 7 月)
 7. 大原寛之, 磯本 一, 澤 隆文, 久保啓吾, 坂口洋司, 久保謹平, 羽田野和彦, 国崎忠臣, 村田育夫, 河野 茂, 内藤慎二. 胆道重複癌の 1 例 癌の臨床 2001 47 (9): 787-792
 8. 松永圭一郎, 中牟田浩治, 城野健児, 磯本 一, 村田育夫, 河野 茂. H. pylori 感染 AGML の 2 例. 長崎医学会雑誌 2001 76(3)107-110 (9 月)
 9. 松永圭一郎, 中牟田浩治, 城野健児, 磯本 一, 村田育夫, 河野 茂. H. pylori の除菌療法を行い長期緩解を維持している表層拡大型胃 MALT リンパ腫の 2 例. 長崎医学会雑誌 2001 76 (3) 111-114 (9 月)
 10. 三島亮介, 澤 隆文, 大原寛之, 久保啓吾, 坂口洋司, 久保謹平, 山尾拓史, 磯本 一, 竹島史直, 大曲勝久, 水田陽平, 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂. 十二指腸乳頭部腺腫に対して内視鏡的乳頭部切除術が有用であった一例. 長崎医学会雑誌 2001 76 (3) 115-118 (9 月)
 11. 三島亮介, 澤 隆文, 大原寛之, 久保啓吾, 坂口洋司, 久保謹平, 磯本 一, 竹島史直, 大曲勝久, 水田陽平, 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂. 内視鏡下碎石摘出に成功した巨大胃石の 1 例. *Gastroenterol Endosc* 2001;43(10): 2005-11
 12. 竹原裕介, 磯本 一 宿輪三郎, 長部雅之, 岡 六四, 大曲勝久, 水

田陽平，村瀬邦彦，松永圭一郎，下川 功，村田育夫，河野 茂. 胃内
分泌細胞癌の 2 例 消化器の臨床 Clinics in Gastroenterology 2001
4(5):651-655 (10, 11 月)

13. 宮崎泰可，朝長道生，内藤慎二，伊東正博，中村研二，木下秀樹，大
曲勝久，村瀬邦彦，村田育夫，河野 茂 胆嚢癌を合併した原発性カ
ルチノイド腫瘍の 1 剖検例 日本消化器病学会雑誌. 2001 98(11):1289-
93

(B-c) 著書

1. 村田 育夫 結節性多発動脈炎による虚血性腸炎，胃と腸アトラス
八尾恒良 編集 医学書院 330-333 頁，(2001)

学会発表

B 国内学会

(B-b)一般講演

1. 中村継人，村田育夫，千住雅博，磯本 一，大曲勝久，村瀬邦彦，河野 茂：
食道にアフタ様びらんと下堀れ潰瘍を多発性に認めたベーチェット病の 1
例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 6
日
2. 中村 貴，山崎和文，森川俊一，大仁田 賢，磯本 一，水田陽平，村瀬
邦彦，河野 茂，村田育夫：短期間に携帯が変化し，動脈塞栓が効果的で
あった胃悪性リンパ腫の 1 例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例
会（鹿児島）2001 年 7 月 6 日
3. 中牟田浩治，松永圭一郎，城野健児，村田育夫，磯本 一，水田陽平，村
瀬邦彦，河野 茂：早期大腸癌と早期胃癌を合併した胃悪性リンパ腫 第
71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 6 日
4. 町田治久，磯本 一，町田郁子，板東由美子，水田陽平，村瀬邦彦，村田
育夫，河野 茂，福田康宏，：ステロイド加療中に赤芽球癆を合併した潰瘍

性大腸炎の 1 例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）
2001 年 7 月 6 日

5. 金沢佑星，磯本 一，増田淳一，大曲勝久，水田陽平，村瀬邦彦，村田育夫，河野 茂：食道粘膜下腫瘍に対する EMA (endoscopic aspiration mucosectomy) 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 6 日
6. 松永久之，原口増穂，塩澤純一，高森謙一，谷岡 一，岩崎啓介，磯本 一，水田陽平，村瀬邦彦，村田育夫，河野 茂：H.ピロリ除菌と EMR にて治療した MALT リンパ腫の 1 例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 7 日
7. 西山高志，西山 仁，森川 卓，吉見公三郎，井上健一郎，森本勲夫，磯本 一，大曲勝久，水田陽平，村瀬邦彦，河野 茂，村田育夫：維持透析中に貧血の進行により発見され，アルゴンプラズマ凝固止血にて治療し得た gastric antral vascular ectasia(GAVE)の一例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 7 日
8. 豆谷俊一，高森謙一，塩澤純一，谷岡 一，原口増穂，吉田一也，磯本 一，水田陽平，村瀬邦彦，村田育夫，河野 茂：幽門前庭部悪性狭窄に対し expandable metallic stent による拡張術を施行した 2 例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 7 日
9. 山尾拓史，山川正規，小原則博，朝川孝幸，入江準二，河合紀生子，村田育夫，磯本 一，水田陽平，村瀬邦彦，河野 茂：内視鏡的に切除し得た十二指腸乳頭部腺腫の 1 例 第 71 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2001 年 7 月 7 日
10. 鈴木毅，村田育夫，塚元和弘，磯本 一，大曲勝久，水田陽平，村瀬邦彦，河野 茂：潰瘍性大腸炎直腸粘膜における VEGF 発言の検討 第 43 回日本消化器病学会大会 DDW-J 2001（京都）2001 年 10 月 17～19 日
11. 牧嶋直子，村田育夫，塚元和弘，藤原邦雄，大仁田賢，磯本 一，大曲

勝久,水田陽平,村瀬邦彦,河野 茂:Helicobacter pylori 感染 Mongolian gerbils 胃粘膜における histamine の免疫組織化学的研究 第 43 回日本消化器病学会大会 DDW-J 2001 (京都) 2001 年 10 月 17~19 日

12. 大仁田 賢,磯本 一,和田昭裕,竹原祐介,大曲勝久,水田陽平,村瀬邦彦,,村田育夫,河野 茂:cag stasis と胃粘膜上皮の増殖・アポトーシスの関連性-H.pylori 感染スナネズミモデルを用いて 第 43 回日本消化器病学会大会 DDW-J 2001 (京都) 2001 年 10 月 17~19 日

13. 大原寛之,磯本 一,大曲勝久,村瀬邦彦,,村田育夫,河野 茂:H.pylori 感染診断における胃粘液中ウレアーゼ活性測定器 Helico sensor の有用性 - 生検施行困難例を中心に 第 43 回日本消化器病学会大会 DDW-J 2001 (京都) 2001 年 10 月 17~19 日

14. 竹原祐介,水田陽平,谷山紘太郎,磯本 一,大曲勝久,水田陽平,村瀬邦彦,,村田育夫,河野 茂:H.pylori 感染モデルにおける胃底部平滑筋および壁内神経機能の解析 第 43 回日本消化器病学会大会 DDW-J 2001 (京都) 2001 年 10 月 17~19 日

15. 王愛平,磯本 一,原口増穂,山川正規,大曲勝久,水田陽平,村瀬邦彦,,村田育夫,河野 茂:皮膚病変を伴った炎症性腸疾患症例の検討 第 43 回日本消化器病学会大会 DDW-J 2001 (京都) 2001 年 10 月 17~19 日

16. Ikuo Murata¹⁾, Naoko Makishima, Yuko Tamura, Kazuhiro Tsukamoto, Kunio Fujiwara, Ken Ohnita²⁾, Hajime Isomoto, Kunihiko Murase, Shigeru Kohno Immunohistochemical study for polyamines in the stomach of Mongolian gerbils with longstanding *Helicobacter pylori* Infection The 9 th United European Gastroenterology Week (UEGW) Amsterdam、 2001 年 10 月

17. 山川正規,村田育夫,河野 茂:シンポジウム 1 膵癌発見の契機となった疾患 - 膵癌の臨床的検討 - 診断契機となった疾患について- 第 78 回日本消化器病学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

18. 水田陽平,村瀬邦彦,村田育夫:ワークショップ 潰瘍性大腸炎治療の

工夫 - 潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法とステロイド強力療法の併用効果 第 78 回日本消化器病学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

19. 池田真帆, 中村継人, 小松浩平, 長部雅之, 樋上賀一, 土谷智史, 磯本 一, 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂: 胃過誤腫様ポリープの 1 例 第 78 回日本消化器病学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

20. 福田浩敏, 山下秀樹, 東 眞一郎, 吉見公三郎, 磯本 一, 井上健一郎, 森本勲夫, 澤田貴裕, 中村徹, 川口昭男, 三浦敏夫, 大曲勝久, 水田陽平, 村瀬邦彦, 河野 茂, 村田育夫: A 型胃炎に合併した多発性胃カルチノイドの 1 例 第 78 回日本消化器病学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

21. 池田真帆, 中村継人, 小松浩平, 長部雅之, 磯本 一, 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂: 当院における上部消化管異物の内視鏡的摘出術 第 72 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

22. 赤澤祐子, 山尾拓史, 山川正規, 川野洋二, 村田育夫, 磯本 一, 水田陽平, 村瀬邦彦, 河野 茂: 十二指腸静脈瘤からの出血に対し EVL で止血し, B-RTO にて治療した 1 例 第 72 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

23. 塩澤純一, 高森謙一, 谷岡 一, 原口増穂, 磯本 一, 水田陽平, 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂: TS-1 が奏効した胃癌の 2 症例 第 72 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

24. 山口直之, 佐藤尚一, 千住雅博, 磯本 一, 水田陽平, 村瀬邦彦, 村田育夫, 河野 茂: 十二指腸に発生した異所性粘膜の一部に Peutz-Jehgers 型 polyp を合併した一例 第 78 回日本消化器病学会九州支部例会 (福岡) 2001 年 11 月 30 日

25. 横井秀輔, 藤原邦雄, 烏山みどり, 村田育夫, 北川常広, 鶴 大典: ラット Enterochromaffin-like (ECL) cell の免疫電顕学的研究 (3) 第 18 回

日本薬学学会九州支部大会（熊本）2001年12月15日

26. 藤原邦雄，高津宏典，村田育夫，北川常広，鶴 大典：抗癌抗生物質 Daunomycin の免疫組織化学 第18回日本薬学学会九州支部大会（熊本）2001年12月15日
27. 鈴木 毅，木下貴之，國松みどり，塚元和弘，村田育夫：実験的門脈圧亢進症ラットの食道・胃における VEGF の検討 第18回日本薬学学会九州支部大会（熊本）2001年12月15日
28. 河野健太郎，牧嶋直子，花田有加，塚元和弘，村田育夫：胃培養細(AGS cell) の pepsinogen 分泌における polyamines の意義 第18回日本薬学学会九州支部大会（熊本）2001年12月15日
28. 横山 聡，佐道紳一，畠中ゆかり，上片平 恵，塚元和弘，村田育夫：肺癌細胞株におけるカンプトテシン体性に関する新規薬剤耐性排出ポンプの検索 第18回日本薬学学会九州支部大会（熊本）2001年12月16日

学会役員等

1. 日本消化器内視鏡学会（評議員、認定専門医、指導医）
2. 日本消化器病学会（評議員、認定医）
3. 日本大腸肛門病学会（専門医、指導医）
4. 日本内科学会（認定医）
5. 長崎消化器セミナー（代表世話人）
6. 長崎食道・胃静脈瘤研究会（代表世話人）
7. 第2内科消化器画像診断研究会（代表世話人）
8. 九州胃と腸（長崎県世話人）
9. 長崎胃疾患検討会（世話人）

【過去の研究業績総計】

原著論文 (欧文)	56 編	(邦文)	176 編
總說 (欧文)	0 編	(邦文)	4 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	4 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	2 編

大学院薬学研究科薬物治療学
塚元和弘 助教授

1. 分子遺伝学
2. 分子腫瘍学
3. 薬理遺伝学
4. 呼吸器病学

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. S. Kawabata, M. Oka, K. Shiozawa, K. Tsukamoto, K. Nakatomi, H. Soda, M. Fukuda, Y. Ikegami, K. Sugahara, Y. Yamada, S. Kamihira, L.A. Doyle, D.D. Ross and S. Kohno. Breast cancer resistance protein directly confers SN-38 resistance of lung cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun* 280(5): 1216-1223 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b)

1. K. Shiozawa, M. Oka, K. Nakatomi, S. Kawabata, H. Soda, K. Tsukamoto, K. Murase, Y. Yamada, S. Kamihira, M. Tomonaga and S. Kohno: Adult T-cell leukemia (ATL) cells overexpress the Breast Cancer Resistance Protein (BCRP) gene with enhanced efflux function of topotecan. 92nd American Association of Cancer Research 2001, 3/24-28 (in New Orleans).
2. A. Kinoshita, M. Fukuda, M. Fukuda, S. Nagashima, Y. Inoue, M. Kuba, J. Tsurutani, F. Narasaki, H. Takatani, R. Nakano, T. Kanda, K. Tsukamoto, T. Kasai, M. Suenaga, Y. Nakamura, Y. Soejima, H. Soda, M. Oka and S. Kohno: A phase II study of irinotecan (CPT-11) and carboplatin (CBDCA) in patients (pts) with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC). 37th American Society of Clinical Oncology 2001, 5/12-15 (in San Francisco).
3. A. Kinoshita, M. Fukuda, M. Oka, M. Fukuda, R. Nakano, S. Nagashima, K. Terashi, H. Takatani, F. Narasaki, T. Kasai, M. Suenaga, Y. Nakamura, M. Doi, K. Tsukamoto, T. Kanda, H. Soda, S. Kohno: Second line docetaxel and carboplatin in patients (pts) with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC). a phase I study. 37th American Society of Clinical Oncology 2001, 5/12-15 (in San Francisco)

4. Y. Miyazaki, K. Tsukamoto and S. Kohno: Progression of genome sequencing in Japan. 2nd Cryptococcus neoformans Genome Meeting 2001, 6/23-24 (in St. Louis)

B 国内学会

(B-b)

1. 岡 三喜男, 塩沢 健, 中富 克己, 川畑 茂, 塚元 和弘, 早田 宏, 河野 茂: 成人 T 細胞白血病における BCRP の発現と機能解析 第 5 回 がん分子標的治療研究会総会 2001, 6/21-22 (東京)
2. 筑田和豊, 村田育夫, 牧嶋直子, 河野健太郎, 塚元和弘, 磯本 一, 水田陽平, 村瀬邦彦, 河野 茂: 膵消化酵素合成・分泌における polyamines の意義 第 32 回 日本膵臓学会 2001, 7/12 (北九州)
3. 川畑 茂, 塩澤 健, 中富克己, 塚元和弘, 早田 宏, 岡三喜男, 河野 茂: 肺癌における BCRP の発現と機能解析 第 60 回 日本癌学会総会 2001, 9/26-28 (横浜)
4. 中富克己, 塩澤 健, 吉川恵美, 川畑 茂, 塚元和弘, 早田 宏, 池上洋二, 岡三喜男, 河野 茂: ノボピオシンによる Breast Cancer Resistance Protein (BCRP) を介した耐性の克服 第 60 回 日本癌学会総会 2001, 9/26-28 (横浜)
5. 塩澤 健, 中富克己, 川畑 茂, 塚元和弘, 早田 宏, 山田恭暉, 上平 憲, 朝長万左男, 岡三喜男, 河野 茂: 成人 T 細胞白血病における BCRP の発現と機能解析 第 60 回 日本癌学会総会 2001, 9/26-28 (横浜)
6. 牧嶋直子, 村田育夫, 塚元和弘, 藤原邦雄, 大仁田 賢, 磯本 一, 大曲勝久, 水田陽平, 村瀬邦彦, 河野 茂: *Helicobacter pylori* 感染 Mongolian gerbils 胃粘膜における histamine の免疫組織化学的研究 第 87 回 日本消化器病学会 2001, 10/17-20 (京都)
7. 鈴木 毅, 村田育夫, 塚元和弘, 磯本 一, 大曲勝久, 水田陽平, 村瀬邦彦, 河野 茂: 潰瘍性大腸炎直腸粘膜における VEGF 発現の検討 第 87 回 日本消化器病学会 2001, 10/17-20 (京都)
8. 横山 聡, 佐道紳一, 畠中ゆかり, 上片平 恵, 塚元和弘, 村田育夫: 肺癌細胞株におけるカンプトテシン耐性に関与する新規薬剤排出ポンプの検索 第 47 回 日本薬学会九州支部総会 2001, 12/15-16 (熊本)

【過去の研究業績総計】

原著論文	(欧文)	29 編	(邦文)	3 編
総説	(欧文)	0 編	(邦文)	8 編
著書	(欧文)	0 編	(邦文)	3 編
紀要	(欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許		0 件		

(講座)薬物治療学

(氏名)柳原克紀

(職名) 助手

研究テーマ

1. 呼吸器感染症の診断と治療に関する研究
2. 新規抗菌薬の基礎的ならびに臨床的研究
3. 慢性気道感染症の病態に関する研究
4. 肺炎球菌の病原因子に関する研究

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. Yanagihara K., Seki M., Cheng P-W. Lipopolysaccharide induces cell metaplasia in mouse lung. Am. J. Respir. Cell Mol. Biol. 12(11):66-73
2. Kaneko Y., Yanagihara K., Kuroki M., Ohi H., Kakeya H., Miyazaki Y., Hirakata Y., Tomoda K., Kadota J., Kohno S. Effect of parenterally administered ciprofloxacin in a murine model of pulmonary *Pseudomonas aeruginosa* infection mimicking ventilator-associated pneumonia. Chemotherapy 2001 -Nov 47(6):421-9.

(A-b) 総説

1. Yanagihara K., Kohno S, Matsushima T. Japanese guidelines for management of community-acquired pneumonia. Int. J Antimicrob. Agents. 2001 Sep;18 Suppl 1:45-8
2. Yanagihara K., Kadota J, Kohno S. Diffuse panbronchiolitis: pathogenesis and treatment mechanisms. Int. J. Antimicrob. Agents. 2001 Sep;18 Suppl 1:83-7

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 田代隆良、浦田秀子、柳原克紀、宮崎義継、朝野和典、河野 茂 看護学生における二段階ツベルクリン反応検査の検討 結核 76(8) 581-587、2001
2. 平瀧洋一、松田淳一、餅田親子、中野路子、平山三国、伊折文秋、青木志保、上平 憲、柳原克紀、宮崎義継、朝野和典、河野 茂 病態別にみた尿路感染症における抗菌薬の適正使用 臨床細菌学的立場から 日本化学療法学会雑誌 49(7) 427-433、2001

(B-b) 総説

1. 柳原克紀、河野 茂 先端医療と DDS overview Drug Delivery System 16-6, 458-463, 2001
2. 柳原克紀、河野 茂 最近話題の抗菌薬 Medical Practice/ol.18, No.8,1335-1338, 2001
3. 大井英生、柳原克紀、河野 茂 EBM に基づく臨床データブック 市中肺炎 臨床医

2001 Vol. 2 7 増刊号 43-46

4. 柳原克紀 キャリア と DDS レクチン/リボソーム複合体 Drug Delivery System 16-3, 172-177, 2001
5. 柳原克紀、河野 茂 Drug information リネゾリド 分子呼吸器病 Vol. 5, No. 3, 85-86, 2001.
6. 柳原克紀、河野 茂 抗菌薬の新しい話題 VRE に対する薬剤リネゾリド 医薬ジャーナル Vol. 37, No. 4, 107-111, 2001.
7. 柳原克紀、河野 茂 新しい抗菌薬リネゾリド「ザイボックス」の有用性について メディカルアサヒ 30-31, March 2001
8. 柳原克紀、河野 茂 急性呼吸器感染症の治療におけるロキシシロマイシン（ルリッド）の意義は Physician therapy manual Vol.11, 2(4)Feb., 2001.
9. 大野秀明、柳原克紀、河野 茂 症例から学ぶ重症感染症の化学療法と総合治療 3. ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）肺炎 化学療法の領域 Vol.17 No.1 37-46. 2001.

(B-c) 著書

1. 柳原克紀 市中肺炎の重症度分類 A. 予後不良因子について（編集）河野 茂 ガイドラインをふまえた成人市中肺炎診療の実際 医学書院（東京）2001年
2. 柳原克紀 ライム病（編集）多賀須幸男、尾形悦郎、山口 徹、北原光夫 2001年 今日の治療指針 医学書院（東京）175 2001年

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Yanagihara K, Kaneko Y, Miyazaki Y, Hirakata Y., Tomono K., Kadota J., Kohno S. Efficacy of linezolid against methicillin-resistant Staphylococcus aureus and vancomycin-insensitive S. aureus in a model of hematogenous pulmonary infection. Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (Chicago) 20

B 国内学会

(B-a) 招待講演，特別講演，受賞講演

1. 柳原克紀：肺の真菌および原虫感染症の臨床症状と治療方針、第36回九州医学検査学会

(B-b) 一般講演

1. 青木志保、平瀧洋一、柳原克紀、宮崎義継、朝野和典、田代隆良、河野 茂：Metallo-lactamase IMP-1 産生緑膿菌の病原性についての検討、第 49 回日本化学療法学会西日本総会
2. 大野順子、大津喜子、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：
-ラクタマーゼ非産生のアンピシリン耐性(BLNAR)インフルエンザ菌による呼吸器感染症の 2 例、第 49 回日本化学療法学会西日本総会
3. 金子幸弘、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：MRSA および VISA 血行性肺感染モデルにおける Linezolid の効果の解析、第 49 回日本化学療法学会西日本総会
4. 宮崎泰可、宮崎義継、掛屋 弘、柳原克紀、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂
Candida albicans における delta-5,6-desaturase の機能解析、第 49 回日本化学療法学会西日本総会
5. 中野浩文、黒木美鈴、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：
交通外傷後に Toxic shock syndrome(TSS)を発症し、急性腎不全を合併した一例、第 41 回日本感染症学会西日本地方会
6. 大井英生、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：当科における院内肺炎の臨床的検討、第 41 回日本感染症学会西日本地方会
7. 栗原慎太郎、金子幸弘、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：
Linezolid が有効であった Enterococcus faecium による胆管炎の一例、第 41 回日本感染症学会西日本地方会
8. 河野仁寿、大津喜子、黒木美鈴、柳原克紀、宮崎義継、朝野和典、河野 茂：気管支鏡下にアスペルギローマを観察しえた一例、第 47 回日本呼吸器学会九州地方会秋季大会
9. 中村茂樹、岩川 純、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：
Infectious bulla から菌血症を起こした BLNAR の一例、日本呼吸器学会九州地方会春季大会
10. 吉川大輔、岩川 純、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：
肺クリプトコッカス症と肺結核が合併した一例、日本呼吸器学会九州地方会春季大会
11. 中村久助、宮崎泰可、掛屋 弘、宮崎義継、柳原克紀、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：Cryptococcus neoformans のフルコナゾール耐性機序に関する遺伝学的解析
12. 柳原克紀、金子幸弘、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：MRSA 血行性肺感染モデルにおける Linezolid の効果の解析、第 49 回日本化学療法学会総会
13. 宮崎泰可、宮崎義継、柳原克紀、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：当科における肺外結核の検討、第 76 回日本結核病学会
14. 金子幸弘、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：緑膿菌性気道感染症における防御因子としてのムチンの役割、第 98 回日本内科学会
15. 青木志保、平瀧洋一、柳原克紀、宮崎義継、朝野和典、田代隆良、河野 茂：血液を

用いた PCR のレジオネラ肺炎の早期診断法としての検討、第 75 回日本感染症学会総会

16. 黒木美鈴、宮崎泰可、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：北部タイ Phayao 県における居住環境からの *Cryptococcus neoformans* の検出、第 75 回日本感染症学会総会
17. 岩川 純、宮崎泰可、掛屋 弘、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：肺アスペルギローマ 75 例の臨床的検討、第 75 回日本感染症学会総会
18. 掛屋 弘、宮崎義継、柳原克紀、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：肺クリプトコッカス症 100 例の臨床的検討、第 75 回日本感染症学会総会
19. 平瀧洋一、青木志保、柳原克紀、宮崎義継、朝野和典、田代隆良、河野 茂：呼吸器と血液から分離された緑膿菌の組織侵入性と細胞障害性についての検討、第 75 回日本感染症学会総会
20. 大井英生、柳原克紀、宮崎義継、平瀧洋一、朝野和典、田代隆良、河野 茂：当科で経験した院内肺炎の臨床的検討、第 16 回日本環境感染学会

学会役員等

1. 日本内科学会（認定医、指導医）
2. 日本感染症学会（評議員、インフェクションコントロールドクター）
3. 日本化学療法学会（評議員、抗菌薬臨床試験指導者）

研究費取得状況

1. 耐性菌感染症に対するアンチセンスヌクレオチドを用いた遺伝子治療；文部科学省研究費 奨励研究（A）；代表；額（単位，140 万円）

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	22 編	（邦文）	12 編
総説（欧文）	3 編	（邦文）	28 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	7 編

(講座)臨床薬学

(研究室)医療情報解析学

(氏名)中島憲一郎

(職名)教授

研究テーマ

1. 医薬品の適正使用に関する研究
2. 乱用薬物の臨床分析化学的研究
3. 外因性内分泌攪乱物質の臨床薬学的研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. A. Kaddoumi, M. N. Nakashima, M. Wada, N. Kuroda, Y. Nakahara, and K. Nakashima: HPLC of (+)-fenfluramine and phentermine in plasma after derivatization with dansyl chloride, *J. Liq. Chrom. & Rel. Technol.*, **24**(1), 57-67 (2001).
2. N. Kuroda, N. Murasaki, M. Wada, and K. Nakashima: Application of enhanced luminol chemiluminescence reaction using 4-[4,5-di(2-pyridyl)-1H-imidazol-2-yl]phenylboronic acid to photographic detection of horseradish peroxidase on a membrane, *Luminescence*, **16**(2), 167-172 (2001).
3. Y. Sun, M. Wada, N. Kuroda, K. Hirayama, H. Nakazawa, and K. Nakashima: Simultaneous determination of phenolic xenoestrogens by solid-phase extraction and high-performance liquid chromatography with fluorescence detection, *Anal. Sci.*, **17**, 697-702 (2001).
4. K. Funato, T. Imai, K. Nakashima, and M. Otagiri: High-performance liquid chromatography with chemiluminescence detection of penbutolol and its hydroxylated metabolite in rat plasma, *J. Chromatogr. B*, **757**, 229-235 (2001).
5. N. Kuroda, D. Sato, K. Ohyama, M. Wada, Y. Nakahara, and K. Nakashima: Separation of sympathomimetic amines of abuse and related compounds by micellar electrokinetic chromatography, *Chem. Pharm. Bull.*, **49** (7), 905-908 (2001).
6. M. Wada, H. Kido, N. Kishikawa, T. Tou, M. Tanaka, J. Tsubokura, M. Shironita, M. Matsui, N. Kuroda, and K. Nakashima: Assessment of air pollution in Nagasaki city: determination of polycyclic aromatic hydrocarbons and their nitrated derivatives, and some metal, *Environmental Pollution*, **115**, 139-147 (2001).
7. A. Nakashima, M. Ohtawa, K. Iwasaki, M. Wada, N. Kuroda, and K. Nakashima: Inhibitory effects of flavastatin and its metabolites on the formation of several reactive oxygen species, *Life Sci.*, **69**, 1381-1389 (2001).
8. A. Kaddoumi, A. Kubota, M. N. Nakashima, M. Takahashi, and K. Nakashima: High performance liquid chromatography with UV detection for the simultaneous determination of sympathomimetic amines using 4-(4,5-diphenyl-1H-imidazole-2-yl)benzoyl chloride as a label, *Biomed. Chromatogr.*, **15**, 379-388 (2001).

9. A. Kaddoumi, M. Mori, K. Nanashima, M. Kono, and K. Nakashima: High performance liquid chromatographic determination of mazindol in human plasma, *Analyst*, **126**, 1963-1968 (2001).
10. O. Al-Dirbashi, K. Ikeda, M. Takahashi, N. Kuroda, S. Ikeda, and K. Nakashima: Drugs of abuse in a non-conventional sample; detection of methamphetamine and its main metabolite, amphetamine in abusers' clothes by HPLC with UV and fluorescence detection, *Biomed. Chromatogr.*, **15**, 457-463 (2001).
11. A. Kaddoumi, M. N. Nakashima, and K. Nakashima: Fluorometric determination of DL-fenfluramine, DL-norfenfluramine and phentermine in plasma by achiral and chiral high-performance liquid chromatography, *J. Chromatogr. B*, **763**, 79-90 (2001).
12. T. Watanabe, H. Yamamoto, K. Inoue, A. Yamaguchi, Y. Yoshimura, K. Kato, H. Nakazawa, N. Kuroda, and K. Nakashima: Development of sensitive high-performance liquid chromatography with fluorescence detection using 4-(4,5-diphenyl-1*H*-imidazol-2-yl)benzoyl chloride as a labeling reagent for determination of bisphenol A in plasma sample, *J. Chromatogr. B*, **762**, 1-7 (2001).

(A-c) 著書

1. N. Kuroda, M. Kai, and K. Nakashima: "14. Chemiluminescence Detection in Liquid Chromatography" *Chemiluminescence in Analytical Chemistry*, Edited by A.M. Garcia-Campana and W.R.G. Baeyens, pp393-426 and pp551-566, 2001, Marcel Dekker, Inc.
2. M. Kai, K. Ohta, N. Kuroda, and K. Nakashima: "19. Chemiluminescence and Bioluminescence in DNA Analysis" *Chemiluminescence in Analytical Chemistry*, Edited by A.M. Garcia-Campana and W.R.G. Baeyens, pp393-426 and pp551-566, 2001, Marcel Dekker, Inc.

(A-d) 紀要

1. Y. Sun, M.N. Nakashima, N. Kuroda, M. Takahashi, and K. Nakashima: Quantitation of bisphenol A in rat brain by microdialysis and column switching HPLC-fluorescence detection, *Anal. Sci.*, **17** Supplement, i911-i1912 (2001).
2. S. Sugihara, N. Kuroda, M. Wada and K. Nakashima: Derivatization of aryl halides with a newly developed fluorescent arylboronic acid, *Anal. Sci.*, **17** Supplement, i1261-i1262 (2001).

B 邦文

(B-c) 著書

1. 中島憲一郎(分担執筆):「有機定性分析-有機元素分析」薬学の分析化学, 財津潔, 山口政俊編集: pp181-185, 廣川書店, 2001.
2. 中島憲一郎(分担執筆):「定量分析-j. アルデヒド, ケトン, k. チオール」分析化学便覧,

(B-d) 紀要

1. 小山田佳奈, 黒田直敬, 和田光弘, 中島憲一郎, 秋山修三: 医薬品および生体成分の光学異性体分離を指向した新規 HPLC 用キラル充てん剤の試作, *日本臨床化学会九州支部会誌*, 11, 17-19 (2001).
2. オサマ・アルデハシ, 木下貴之, 黒田直敬, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法の開発とマイクロダイアリシスを併用するカテコールアミンの脳内濃度測定への適用, *日本臨床化学会九州支部会誌*, 11, 20-22 (2001).
3. 中島憲一郎: フローインジェクション分析法, *薬科機器*, No. 154, 5-8 (2001).
4. 中島憲一郎: フローインジェクション分析法(II), *薬科機器*, No. 155, 2-6 (2001).
5. 中島憲一郎: フローインジェクション分析法(III), *薬科機器*, No. 156, 3-6(2001).
6. 中島憲一郎: フローインジェクション分析法(IV), *薬科機器*, No. 157, 5-8 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Y. Sun, M.N. Nakashima, N. Kuroda, M. Takahashi, K. Nakashima: Quantification of bisphenol A in rat brain by microdialysis and column switching HPLC-fluorescence detection, IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, P1038, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.
2. A. Kaddoumi, M. N. Nakashima, M. Takahashi, K. Nakashima: Chiral HPLC determination of dl-fenfluramine and dl-norfenfluramine, IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, P1037, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.
3. S. Sugihara, N. Kuroda, M. Wada, K. Nakashima: Derivatization of aryl halides with a newly developed fluorescent arylboronic acid, IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, P2094, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 小山田佳奈, 黒田直敬, 和田光弘, 中島憲一郎, 秋山修三: 医薬品および生体成分の光学異性体分離を指向した新規 HPLC 用キラル充てん剤の試作, 第 11 回日本臨床化学会九州支部総会, p.17, 福岡(2001).
2. オサマ・アルデハシ, 木下貴之, 黒田直敬, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法の開発とマイクロダイアリシスを併用するカテコールアミンの脳内濃度測定への適用, 第 11 回日本臨床化学会九州支部総会, p.20, 福岡(2001).
3. 和田光弘, 椛島 力, 黒田直敬, 芳本 忠, 加藤秀男, 林田真二郎, 中島憲一郎: 過シュウ酸エステル化学発光検出によるカタラーゼ活性測定を利用した簡便な食品の細菌汚染評価に関する基礎的検討, 第 38 回長崎県総合公衆衛生研究会, p.32-33, 長崎(2001).

4. 岸川直哉, 和田光弘, 黒田直敬, 秋山修三, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法による乳試料中の多環芳香族炭化水素の定量, 第 38 回長崎県総合公衆衛生研究会, p.34-35, 長崎(2001).
5. 中島憲一郎, アマル・カドウミ, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬: 食欲抑制薬フェンフルラミンのキラル分離 HPLC-蛍光定量, 日本薬学会第 121 年会, 28[PD]I-031, 札幌(2001).
6. 和田光弘, 井上圭祐, 黒田直敬, 中島憲一郎: 紫外線照射を利用した有機過酸化物の HPLC-過シウ酸エステル化学発光定量, 日本薬学会第 121 年会, 28[PD]I-033, 札幌(2001).
7. 黒田直敬, 杉原住香, 杉原陽子, 和田光弘, 中島憲一郎: 新規蛍光性アリアルポロン酸を標識試薬に用いるアリアルハライドの分析に関する基礎的検討, 日本薬学会第 121 年会, 28[PD]I-035, 札幌(2001).
8. 荻野清子, 溝口剛, 相川康博, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: オーダリングシステム導入に際しての薬剤師の関わり方 < オーダーチェック機能強化の一考察 >, 医療薬学フォーラム 2001, B-6, p.125, 熊本(2001).
9. 伊原亜由子, 岸川直哉, 和田光弘, 黒田直敬, 世良暢之, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出による大気粉じん中の多環芳香族炭化水素の九州内特定観測地点におけるレトロスペクティブ分析, 第 62 回分析化学討論会, p.196, 松本(2001).
10. 西岡亮太, 上重哲郎, 杉原輝一, 中島憲一郎, 加藤大, 福島健, 今井一洋: 低分子系キラル固定相におけるスぺーサー構造の分離能に与える影響, モレキュラーキラルティ-2001, PS-23, 大阪(2001).
11. 和田光弘, 木下由美, 孫 艶, 黒田直敬, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎: 生体試料中ビスフェノール A の高感度 HPLC-蛍光定量, 第 14 回バイオメディカル分析科学シンポジウム, p.143-144, 松島(2001).
12. 黒田直敬, 杉原住香, 中島憲一郎: アリアルハライド型医薬品の高感度分析用蛍光標識試薬の開発, 第 5 回分析化学東京シンポジウム・2001 機器分析東京討論会, 千葉(2001).
13. 中嶋弥穂子, 安食健一, 中島憲一郎, 高橋正克: 脳虚血後不安障害発現における脳内 NO の関与, 第 74 回日本薬理学会年会, Jpn. J. Pharmacol. 85 (Suppl.) p.254, 横浜(2001).
14. スンボラボン スリサック, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: 坐骨神経結紮神経因性疼痛モデルマウスにおけるモルヒネおよび U-50,488H 耐性の不形成について, Jpn. J. Pharmacol. 85 (Suppl.) p.225, 横浜(2001).
15. スンボラボン スリサック, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: 坐骨神経結紮マウスにおけるモルヒネおよび U-50,488H の鎮痛ならびに抗アロディニア作用 投与経路による比較, 第 22 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム, P-6, p.110, 京都(2001).
16. 山本和美, 宮崎長一郎, 高木理恵子, 最上元, 中村珠美, 宮崎理恵, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: 薬歴簿から得られる患者の主観的情報: 経皮吸収型狭心症用薬を対象とした調査, 第 11 回日本医療薬学会年会, 0-31, p.86 東京(2001).
17. 斎藤麻理子, 原田文香, 濱田哲也, 濱田典子, 和田純代, 島利江, 高木康, 丸尾剛, 鶴殿和江, 小畑滋, 大石和徳, 中島憲一郎: 臨床薬学専攻大学院生の視点から捉えた, 医

- 薬分業に関するアンケートについて, 第 11 回日本医療薬学会年会, 0-50, p.91, 東京 (2001).
18. 中島憲一郎, 孫艶, 黒田直敬, 平山クニ, 中澤裕之: フェノール性外因性エストロゲンの HPLC-蛍光定量法の開発と食品包装材への適用, 日本食品衛生学会第 28 学術講演会, A-28, p. 48, 長崎(2001).
 19. 池田理恵, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: マウスにおけるビスフェノール A 中枢作用の行動薬理学的検討, 第 54 回日本薬理学会西南部会プログラム・講演要旨集, p59, 福岡(2001).
 20. 池田理恵, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: 成熟マウスへの Bisphenol A 長期暴露に関する行動薬理学的研究, 第 12 回霧島神経薬理フォーラム, 一般講演 6, 熊本(2001).
 21. 森美和子, アマル・カドウミ, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: 食欲抑制剤, マジンドールの HPLC-UV 定量法の開発と応用, 日本分析化学会第 50 年会, 1F02, p.131, 熊本(2001).
 22. 伊藤恵子, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出による血漿中ドネペジルの定量, 日本分析化学会第 50 年会, 1F01, p.131, 熊本(2001).
 23. 小山田佳奈, 和田光弘, 大庭義史, 黒田直敬, 中島憲一郎: ペプチド修飾 HPLC 固定相の調製とその光学分割能の基礎的検討, 日本分析化学会第 50 年会, 2P1-10, p.295, 熊本(2001).
 24. 黒田直敬, 入江美樹, 和田光弘, 大庭義史, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎: カラムスイッチング HPLC-蛍光検出による生体試料中ビスフェノール A の定量, 日本分析化学会第 50 年会, 3P1-57, p.353, 熊本(2001).
 25. 中島憲一郎, 孫艶, 池田理恵, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬: BPA のラット脳内移行と長期暴露によるマウスの行動への影響, フォーラム 2001: 衛生薬学・環境トキシコロジー, 03-2 金沢(2001).
 26. 岸川直哉, 入江美樹, 大場義史, 黒田直敬, 牧野恒久, 中澤裕之, 中島憲一郎, フォーラム 2001: 衛生薬学・環境トキシコロジー, P-215, 金沢(2001).
 27. 伊原亜由子, 佐藤綾子, 和田光弘, 大庭義史, 黒田直敬, 中島憲一郎: オンライン紫外線照射を利用する芳香族化合物の HPLC-過シユウ酸エステル化学発光定量の基礎的検討, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 1B-05, p.47, 熊本(2001).
 28. 石田幸弘, Amal Kaddoumi, 黒田直敬, 中島憲一郎: 覚せい剤摂取被疑者血中のメタンフェタミン及びアンフェタミンの HPLC 定量, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 1B-11, p.53, 熊本(2001).
 29. 高場久美子, 孫艶, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: アリルプロピオン酸系非ステロイド性抗炎症薬の HPLC 定量法の開発と製剤への適用, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 1B-12, p.54, 熊本(2001).

学会役員等

1. 日本分析化学会九州支部常任幹事
2. 日本臨床化学会薬学会九州支部評議員

3. 長崎県環境審議会委員
4. 長崎県環境影響審査会会長
5. 長崎県自然環境保全審議会委員
6. 九州山口薬学会理事
7. クロマトグラフィー科学会誌編集委員
8. Biomedical Chromatography 編集委員

研究費取得状況

2. 内分泌かく乱化学物質に関する生体試料(さい帯血等)分析法の開発とその実試料分析結果に基づくヒト健康影響についての研究」;平成 12 年度厚生科学研究;分担;100 万円
3. 食品及び食品包装容器由来の内分泌かく乱物質が中枢神経系に及ぼすリスク評価法の開発;平成 12 年度食品中の微量物質制御等安全性確保技術の開発事業;代表;500 万円

【過去の研究業績総計】

原著論文(欧文)	148 編	(和文)	13 編
総説(欧文)	3 編	(和文)	7 編
著書(欧文)	12 編	(和文)	14 編
紀要(欧文)	9 編	(和文)	11 編
特許	2 件		

(講座) 医療情報解析学 (研究室)

(氏名) 高橋正克 (職名) 助教授

研究テーマ

1. 医薬品の適正使用に関する基礎的および臨床薬学的研究
2. 依存性薬物の作用機構に関する研究
3. ストレス状態下における生体応答の変容
4. 学習・記憶に関する研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. A. Kaddoumi, A. Kubota, M. N. Nakashima, M. Takahashi, K. Nakashima
High performance liquid chromatography with UV detection for the simultaneous
determination of sympathomimetic amines using 4-(4,5-diphenyl-1H-imidazole-2-
yl)benzoylchloride as a label

Biomédical Chromatography, 15, 379-388 (2001)

2. O. Y. Ahdibashi, K. Ikeda, M. Takahashi, N. Kuroda, S. Ikeda, K. Nakashima
Drugs of abuse in a non-conventional sample; detection of methamphetamine and its
main metabolite, amphetamine in abusers' clothes by HPLC with UV and fluorescence
detection

Biomédical Chromatography, 15, 457-463 (2001)

(A-b) 総説

(A-c) 著書

(A-d) 紀要

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 高橋正克, 中嶋弥穂子, 長崎大学薬学部における医療薬学実習 平成9年度および
10年度の自己評価 - , Pharm D, 3, 65-72 (2001)

(B-b) 総説

1. 徳山尚吾, 高橋正克, 薬用人参の薬理学的・生理学的作用 特にオピオイドおよび精神賦活薬の効果に及ぼす影響についてー 日本薬理学雑誌, 117,195-201 (2001)

(B-c) 著書

(B-d) 紀要

学会発表

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. スンボラボンスリサック, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: 坐骨神経結紮神経因性頭痛モデルマウスにおけるモルヒネおよび U-50,488H 耐性の不形成について, 第 74 回日本薬理学会年会, Jpn.J.Pharmacol 85 (Suppl 1), 225P (2001) 横浜
2. 中嶋弥穂子, 安食健一, 中島憲一郎, 高橋正克: 脳虚血後不安障害発現における脳内 NO の関与, 第 74 回日本薬理学会年会, Jpn.J.Pharmacol 85 (Suppl 1), 254P (2001) 横浜
3. 中島憲一郎, アマル カドウミ, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬: 食欲抑制薬フェンフルラミンのキラル分離 HPLC - 蛍光定量, 日本薬学会第 121 年会 (2001) 札幌
4. 中島憲一郎, 孫 艶, 池田理恵, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬: BPA のラット脳内移行と長期曝露によるマウスの行動への影響, フォーラム 2001: 衛生薬学・環境トキシコロジー (2001) 熊本
5. 池田理恵, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: マウスにおけるビスフェノール A 中枢作用の行動薬理的検討, 第 54 回日本薬理学会西南部会, 日本薬理学雑誌, 119, 66P (2001) 九州大
6. 伊藤恵子, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出による血漿中塩酸ドネペジルの定量, 日本分析化学会第 50 年会 (2001) 熊本
7. 森美和子, アマルカドゥミ, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: 食欲抑制剤, マジンドールの HPLC-UV 定量法の開発と応用, 日本分析化学会第 50 年会 (2001) 熊本
8. 高橋正克, スンボラボンスリサック, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎, 坐骨神経結紮マウスにおけるモルヒネおよび U-50,488H の抗アロディニア作用と耐性不形成について, 第 23 回日本疼痛学会, Pain Res., 16, 102 (2001) 東京

学会役員等

1. 日本薬理学会，学術評議員
2. 日本神経精神薬理学会，評議員
3. 日本疼痛学会，理事
4. 鎮痛薬・オピオイドペプチド研究会，世話人

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	73	編	（邦文）	12	編
総説（欧文）	3	編	（邦文）	9	編
著書（欧文）	7	編	（邦文）	17	編
紀要（欧文）	2	編	（邦文）	17	編
特許	0	件			

個人研究業績 (2001.1-2001.12)

(講座) 臨床薬学 (研究室) 医療情報解析学
(氏名) 中嶋弥穂子 (職名) 助手

研究テーマ

1. 医薬品の適正使用に臨床薬学的研究
2. 脳虚血後障害の発症と治療に関する臨床薬学的研究

A 欧文

(A-a) 原著論文 (欧文)

1. A. Kaddoumi, M. N. Nakashima, M. Wada, N. Kuroda, Y. Nakahara and K. Nakashima: HPLC of (\pm)-fenfluramine and phentermine in plasma after derivatization with dansyl chloride, *J. Liq. Chrom. & Rel. Technol.*, 24, 57-67 (2001).
2. A. Kaddoumi, A. Kubota, M. N. Nakashima, M. Takahashi and K. Nakashima: High performance liquid chromatography with UV detection for the simultaneous determination of sympathomimetic amines using 4-(4,5-diphenyl-1H-imidazole-2-yl)benzoyl chloride as a label, *Boimed. Chromatogr.*, 15, 379-388 (2001).
3. A. Kaddoumi, M. N. Nakashima, and K. Nakashima: Fluorometric determination of DL-fenfluramine, DL-norfenfluramine and phentermine in plasma by achiral and chiral high-performance liquid chromatography, *J. Chromatogr. B*, 763, 79-90 (2001).

(A-d) 紀要

1. Y. Sun, M.N. Nakashima, N. Kuroda, M. Takahashi, and K. Nakashima: Quantification of bisphenol A in rat brain by microdialysis and column switching HPLC-fluorescence detection, *Anal. Sci.*, 17 Supplement, i911-i1912 (2001).
2. A. Kaddoumi, M.N. Nakashima, M. Takahashi and K. Nakashima: Chiral HPLC Determination of dl-fenfluramine and dl-norfenfluramine in biological fluids using DIB-Cl as a label. *Anal. Sci.*, 17 Supplement, i907-i1909 (2001).

B 邦文

(B-a) 原著論文 (和文)

1. 高橋正克, 中嶋弥穂子: 長崎大学薬学部における医療薬学実習 平成9年度および10年度の自己評価、*Pharm D*, 13, 65-72 (2001).

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Y. Sun, M.N. Nakashima, N. Kuroda, M. Takahashi, K. Nakashima: Quantification of bisphenol A in rat brain by microdialysis and column switching HPLC-fluorescence detection, IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.
2. A. Kaddoumi, M.N. Nakashima, M. Takahashi and K. Nakashima: Chiral HPLC Determination of dl-fenfluramine and dl-norfenfluramine in biological fluids using DIB-Cl as a label. IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2001, Tokyo, Japan, August 6-10, 2001.

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. オサマ アルデハシ, 木下貴之, 黒田直敬, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: HPLC-蛍光検出法の開発とマイクロダイアリシスを併用するカテコールアミンの脳内濃度測定への適用, 第11回日本臨床化学会九州支部会, p20, 福岡(2001).
2. 中嶋弥穂子, 安食健一, 中島憲一郎, 高橋正克: 脳虚血後不安障害発現における脳内NOの関与, 第74回日本薬理学会年会, Jpn. J. Pharmacol. 85 (Suppl.), P-779, p254, 横浜(2001).
3. スンボラボン スリサック, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: 坐骨神経結紮神経因性疼痛モデルマウスにおけるモルヒネおよびU-50,488H耐性の不形成について, Jpn. J. Pharmacol. 85 (Suppl.), P-662, p225, 横浜(2001).
4. 中島憲一郎, アマル・カドウミ, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 黒田直敬: 食欲抑制薬フェンフルラミンのキラル分離 HPLC-蛍光定量, 日本薬学会第121年会, 28[PD]I-031, 札幌(2001).
5. 荻野清子, 溝口剛, 相川康博, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: オーダリングシステム導入に際しての薬剤師の関わり方<オーダーチェック機能強化の一考察>, 医療薬学フォーラム2001, B-6, p125, 熊本(2001).
6. 池田理恵, 中嶋弥穂子, 高橋正克, 中島憲一郎: 成熟マウスへのBisphenol A長期暴露に関する行動薬理学的研究, 第12回霧島神経薬理フォーラム, 一般口演6, 熊本(2001).
7. スンボラボン スリサック, 高橋正克, 中嶋弥穂子, 中島憲一郎: 坐骨神経結紮マウスにおけるモルヒネおよびU-50,488Hの鎮痛ならびに抗アロディニア作用 投与経路による比較, 第22回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム講演要旨集, P-6, p110-112, 京都(2001).
8. 山本和美, 宮崎長一郎, 高木理恵子, 最上元, 中村珠美, 宮崎理恵, 中嶋弥穂子,

高橋正克，中島憲一郎：薬歴簿から得られる患者の主観的情報：経皮吸収型狭心症用薬を対象とした調査，第 11 回日本医療薬学会年会講演要旨集，0-31，p86，東京（2001）。

9. 中島憲一郎，孫 艶，池田理恵，中嶋弥穂子，高橋正克，黒田直敬：BPA のラット脳内移行と長期曝露によるマウスの行動への影響，フォーラム 2001：衛生薬学・環境トキシコロジー講演要旨集，03-2，金沢（2001）。
10. 森美和子，アマル カドウミ，中嶋弥穂子，高橋正克，中島憲一郎：食欲抑制剤，マジンドールの HPLC-UV 定量法の開発と応用，日本分析化学会第 50 年会講演要旨集，1F02，p131，熊本（2001）。
11. 伊藤恵子，中嶋弥穂子，高橋正克，黒田直敬，中島憲一郎：HPLC-蛍光検出による血漿中塩酸ドネペジルの定量，日本分析化学会第 50 年会講演要旨集，1F01，p131，熊本（2001）。
12. 池田理恵，高橋正克，中嶋弥穂子，中島憲一郎：マウスにおけるビスフェノール A 中枢作用の行動薬理学的検討，第 54 回日本薬理学会西南部会プログラム・口演要旨集，35，p59，福岡（2001）。
13. 高場久美子，孫 艶，中嶋弥穂子，高橋正克，中島憲一郎：アリルプロピオン酸系非ステロイド性抗炎症薬の HPLC 定量法の開発と製剤への適用，第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集，1B-12，p54，熊本（2001）。

特記事項

- ・ 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
- ・ 長崎県病院薬剤師会生涯教育委員会委員

【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	17	編（和文）	8	編
総説（欧文）	0	編（和文）	0	編
著書（欧文）	0	編（和文）	0	編
紀要（欧文）	2	編（和文）	0	編
特許	0	件		

K.Iseki, K.Nakao, K.Nakata, Y.Shima, K.Hamasaki, Y.Kato, N.Ishii, K.Eguchi :
Diverse regulations of albumin gene expression by hepatocyte growth factor in
HepG2 human hepatoma cells in primary culture of hepatocytes. Int J
Oncol 16 (6) 1141-1145 (2000)

K.Nakata, K.Nakao, T.Morikawa, K.Inokuchi, K.Hamasaki, S.Tsuruta, Y.Kato,
H.Yatsushashi, Y.Kusumoto, N.Ishii, K.Eguchi : Attenuation of responsiveness to
interferon- α treatment by persistent overactivation of interferon-mediated pathway
in patients chronically infected by hepatitis C virus Acta Med Nagasaki 45 15-19
(2000)

S.Matsukawa, M.Yamamoto, K.Ichinose, M.Hata, N.Ishii, T.Kohji, K.Akiyoshi,
J.Sunamoto, T.Kanematsu : Selective uptake by cancer cells of liposomes coated
with polysaccharides bearing 1-aminolactose Anticancer Res 20 2339-2344
(2000)

国内学会

(一般講演)

加治屋勇二、濱崎圭輔、加藤有史、中田恵輔、江口勝美、中尾一彦、石井伸子 : B型慢性肝
疾患における HBV Core promoter および Precore 領域の解析 第 97 回 日本内科学会
講演会 平成 12 年 4 月 6 日 ~ 4 月 8 日 京都

国内学会

(一般講演)

市川辰樹、中尾一彦、武田宜士、加治屋勇二、大久保和昭、東眞一郎、石川博基、濱崎圭輔、
加藤有史、中田恵輔、石井伸子、江口勝美 : Interferon- α による 2'5' OAS 遺伝子発現誘
導に及ぼす Interleukin-1 β の影響 第 4 回 日本肝臓学会大会 平成 12 年 12 月 25 日 ~
12 月 26 日 神戸

研究会

(一般講演)

川俣洋生、玉田陽子、坂本美由紀、林稔展、中尾一彦、永山雄二、中田恵輔、石井伸子 : ア
デノウイルスベクター導入効率に及ぼすキトサンの影響 第 15 回 長崎 DDS 研究会
平成 12 年 12 月 15 日 長崎

K.Hamasaki, M.Daikoku, Y.Kajiya, K.Nakao, Y.Kato, K.Nakata, K.Eguchi : Effects of naturally occurring mutations in hepatitis B virus promoter on transcriptional activity. *Hep Res* 16 163-169 (2000)

Y.Kato, K.Nakao, K.Hamasaki, H.Kato, K.Nakata, Y.Kusumoto, K.Eguchi : Spontaneous loss of hepatitis B surface antigen in chronic carriers based on long term follow-up study in Goto Islands, Japan. *Gastroenterol* 35 (3) 201-205 (2000)

A.Saeki, M.Yoneda, M.Degawa, T.Arima, K.Hamasaki, K.Nakao, Y.Kato, K.Nakata, Y.Hirakata, K.Eguchi : Toxic shocklike syndrome caused by T serotype B3264 streptococcus. *Internal Med* 39 (26) 265-269 (2000)

K.Iseki, K.Nakao, K.Nakata, Y.Shima, K.Hamasaki, Y.Kato, N.Ishii, K.Eguchi : Diverse regulations of albumin gene expression by hepatocyte growth factor in HepG2 human hepatoma cells in primary culture of hepatocytes. *Int J Oncol* 16 (6) 1141-1145 (2000)

中田恵輔、中尾一彦、江口勝美 : 肝癌の遺伝子治療 *生物物理化学* 44 109-112 (2000)

岩永洋、加治屋勇二、大久保和昭、宮副誠司、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美 : ラミブジン抵抗性 B 型肝炎ウイルスの出現後に劇症化した B 型慢性肝炎の 1 例 *肝臓* 41 (9) 660-664 (2000)

K.Nakata, K.Nakao, T.Morikawa, K.Inokuchi, K.Hamasaki, S.Tsuruta, Y.Kato, H.Yatsunashi, Y.Kusumoto, N.Ishii, K.Eguchi : Attenuation of responsiveness to interferon- α treatment by preceded overactivation of interferon-mediated pathway in patients chronically infected by hepatitis C virus. *Acta Med Nagasaki* 45 15-19 (2000)

地方会

(一般講演)

大久保和昭、市川辰樹、加治屋勇二、東眞一郎、武田宜士、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、鳥山寛、江口勝美：急性腭炎を発症した続発性アミロイドーシスの一例
第75回 日本消化器病学会九州支部例会 平成12年3月31日~4月1日 鹿児島

国内学会

(一般講演)

加治屋勇二、濱崎圭輔、加藤有史、中田恵輔、江口勝美、中尾一彦、石井伸子：B型慢性肝疾患におけるHBV Core promoter およびPrecore 領域の解析 第97回 日本内科学会講演会 平成12年4月6日~4月8日 京都

国内学会

(一般講演)

市川辰樹、武田宜士、加治屋勇二、大久保和昭、東眞一郎、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：経口投与可能な Geranylgeranylacetone による抗ウイルス蛋白の誘導 第86回 日本消化器病学会総会 平成12年4月20日~4月22日 新潟

国内学会

(ワークショップ)

中尾一彦、中田恵輔：Interferon stimulated gene factor 3(ISGF 3)によるB型肝炎ウイルス Enhancer-1転写活性の制御 第86回 日本消化器病学会総会 平成12年4月20日~4月22日 新潟

国際学会

(一般講演)

H.Kato, H.Kato, K.Nakata, K.Hamasaki, S.Miyazoe, K.Ohkubo, S.Higashi, K.Nakao, Y.Kato, M.Yano, K.Eguchi : Polymerase chain reaction analysis of efficacy of immunization against hepatitis B virus in infants at high-risk. 12th Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL) 2000.6.3-6.4 Fukuoka

国際学会

(一般講演)

T.Ichikawa, T.Ichikawa, Y.Takeda, Y.Kajiya, K.Hamasaki, K.Nakao, Y.Kato, K.Nakata, K.Eguchi : Induction of anti-viral gene expression by geranylgeranylacetone in

Huh-7 human hepatomas. 12th Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL) 2000.6.3-6.4 Fukuoka

国内学会

(一般講演)

加治屋勇二、濱崎圭輔、大久保和昭、中尾一彦、東眞一郎、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：無症候性 HBV キャリアからの肝炎発症例におけるウイルス遺伝子の経時的変化についての検討 第 36 回 日本肝臓学会総会 平成 12 年 6 月 8 日～6 月 9 日 福岡

国内学会

(一般講演)

武田宜士、市川辰樹、阿比留正剛、中川祐一、宮副誠司、柳謙二、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：内因性イソプレノイド、Geranylgeraniol の HuH-7 肝癌培養細胞に対するアポトーシスの誘導 第 36 回 日本肝臓学会総会(パラレルシンポジウム：肝細胞死の生物学) 平成 12 年 6 月 8 日～6 月 9 日 福岡

研究会

(一般講演)

加藤有史、石川博基、濱崎圭輔、中田恵輔、江口勝美、中尾一彦：五島列島 T 町での HBV キャリアの自然経過 第 38 回 九州慢性肝炎研究会 平成 12 年 6 月 24 日 福岡

地方会

(一般講演)

白石裕一、市川辰樹、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：プロテイン C 欠損症による門脈、上腸間膜静脈、脾静脈血栓症の一例 第 250 回 日本内科学会九州地方会 平成 12 年 8 月 19 日 鹿児島

研究会

(一般講演)

中川祐一、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：肝細胞癌における Survivin の発現の検討 第 2 回 九州肝癌研究会 平成 12 年 9 月 30 日 福岡

国内学会

(一般講演)

市川辰樹、中尾一彦、武田宜士、加治屋勇二、大久保和昭、東眞一郎、石川博基、濱崎圭輔、加藤有史、中田恵輔、石井伸子、江口勝美：Interferon- γ による 2'5'OAS 遺伝子発現誘導

に及ぼす Interleukin-1 の影響 第4回日本肝臓学会大会 平成12年10月2日～10月26日 神戸

国内学会

(一般講演)

大久保和昭、阿比留正剛、重野賢也、中川祐一、宮副誠司、柳謙二、佐伯哲、石川博基、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：HBV 関連肝癌の予後に関する臨床的検討 第4回 日本肝臓学会大会 平成12年10月25日～10月26日 神戸

地方会

(一般講演)

岩永洋、加治屋勇二、大久保和昭、市川辰樹、東眞一郎、石川博基、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：ラミブジン抵抗性B型肝炎ウイルスの出現後に劇症化したB型慢性肝炎の1例 第76回 日本消化器病学会九州支部例会 平成12年12月8日～12月9日 長崎

地方会

(一般講演)

坂本久男、中川祐一、佐伯哲、柳謙二、阿比留正剛、重野賢也、武田宜士、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美、矢永勝彦、鳥山寛：腸管出血性大腸菌 O-157 感染を契機として肝不全に至った肝硬変症の一例 第76回 日本消化器病学会九州支部例会 平成12年12月8日～12月9日 長崎

地方会

(ワークショップ)

有富朋礼、濱崎圭輔、中尾一彦、加藤有史、中田恵輔、江口勝美：肝硬変における肝予備能とQTd時間との関係 第76回 日本消化器病学会九州支部例会 平成12年12月8日～12月9日 長崎

研究会

(一般講演)

川俣洋生、玉田陽子、坂本美由紀、林稔展、中尾一彦、永山雄二、中田恵輔、石井伸子：アデノウイルスベクター導入効率に及ぼすキトサンの影響 第15回 長崎DDS 研究会 平成12年12月15日 長崎

(講座) 医療薬学 (研究室) 治療薬剤学
(氏名) 佐々木 均 (職 名) 教授

研究テーマ

1. 薬物治療の最適化と薬剤の適正使用に関する研究
2. 薬物および遺伝子のデリバリーシステムの開発
3. 薬物動態および薬効に関する速度論的研究
4. 生体膜の薬物透過性と電気生理学的研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. S. Kawakami, K. Nishida, T. Mukai, K. Yamamura, J. Nakamura, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki : Controlled release and ocular absorption of tilisolol utilizing ophthalmic insert-incorporated lipophilic prodrugs, *J. Control. Release*, **76 (3)**, 255-263 (2001)
2. S. Kawakami, K. Yamamura, T. Mukai, K. Nishida, J. Nakamura, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki : Sustained ocular delivery of tilisolol to rabbits after topical administration or intravitreal injection of lipophilic prodrug incorporated in liposomes, *J. Pharm. Pharmacol.*, **53 (8)**, 1157-1161 (2001)
3. K. Nishida, Y. Yoshida, T. Mukai, S. Kawakami, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki, J. Nakamura : Effect of instillation method on the absorption of phenolsulphonphthalein as a model drug from the liver and small intestinal serosal surface in rats, *J. Pharm. Pharmacol.*, **53 (10)**, 1341-1346 (2001)
4. S. Kawakami, K. Nishida, T. Mukai, K. Yamamura, T. Sakaeda, J. Nakamura, M. Nakashima, H. Sasaki : Ocular absorption behavior of palmitoyl tilisolol, an amphiphilic prodrug of tilisolol, for ocular drug delivery, *J. Pharm. Sci.*, **53 (10)**, 1341-1346 (2001)

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Y. Ohya, H. Oue, T. Ouchi, K. Ichinose, M. Nakashima, H. Sasaki, T. Kanematsu : Cell specific antitumor activity of dextran carrying cisplatin and antennary galactose residues, 28th International Symposium on Controlled Release of Bioactive Materials, 23-27 June, 2001, San Diego, USA

B 国内学会

(B-a) 招待講演、特別講演、受賞講演

1. 佐々木均 : 薬物治療の最適化と評価法の開発、医療薬学フォーラム 2001 講演

要旨集、p65、熊本（2001）

(B-b) 一般講演

1. 川上 茂、堀本和美、西田孝洋、向 高弘、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：体内及び腎臓内分布の制御を目的とした 5-fluorouracil の腎臓表面投与、日本薬剤学会第 16 年会講演要旨集、p136、東京（2001）
2. 中嶋幹郎、中野幸助、小笠原正良、早野元信、矢野捷介、川上 茂、西田孝洋、中村純三、佐々木均：アミオダロンの体内動態に及ぼす体脂肪率の影響、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 3、p94、札幌（2001）
3. 北原隆志、安田晋也、松田淳一、平潟洋一、上平 憲、一瀬浩郎、中嶋幹郎、佐々木均：多チャンネル電極式溶存酸素測定装置を用いた薬剤感受性測定の検討、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 3、p135、札幌（2001）
4. 岩下淳二、中嶋幹郎、佐々木均、児玉靖司、渡邊正己：フリーラジカルによる細胞障害作用に対する高脂血症治療薬の防御効果に関する研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 4、p157、札幌（2001）
5. 北原隆志、安田晋也、松田淳一、小山奈緒、平潟洋一、上平 憲、一瀬浩郎、中嶋幹郎、佐々木均：DOX-96 を用いた細菌薬剤感受性測定の検討 - その 2 - 、第 5 回多目的酸素電極装置研究会学術集会抄録、p10、つくば（2001）
6. 大矢裕一、永富和哉、大内辰郎、一瀬浩郎、中嶋幹郎、佐々木均、兼松隆之：クレスタ型糖鎖を認識素子としたシスプラチン担持ポリエチレングリコールの肝細胞指向性細胞障害活性、第 30 回医用高分子シンポジウム要旨集、p35、東京（2001）
7. 北原隆志、小笠原正良、樋口則英、中嶋幹郎、中嶋誠一、岩松洋之、相川康博、佐々木均：調剤ミス防止システムの導入状況調査、第 65 回九州山口薬学大会講演要旨集、p21、山口（2001）
8. 小嶺嘉男、北原隆志、中坊由起子、濱本知之、中嶋幹郎、小笠原正良、佐々木均：免疫抑制剤の血中濃度測定値に及ぼす抗凝固剤の影響 - ヘパリンと EDTA の比較 - 、第 65 回九州山口薬学大会講演要旨集、p108、山口（2001）
9. 中村伸理子、鶴丸雅子、永原直子、平井正巳、中嶋幹郎、小笠原正良、佐々木均、河野 茂：長崎大学病院における治験コーディネーター業務の現状とその評価、第 65 回九州山口薬学大会講演要旨集、p126、山口（2001）
10. 大本まさのり、松山賢治、西方真弓、宮崎長一郎、龍 恵美、佐々木均、吉田真紀子：Visual Basic 6.0 による TDM 支援ソフトの作成、第 11 回日本医療薬学会年会講演要旨集、p79、東京（2001）
11. 鶴丸雅子、山口義彦、山川賢一、魚谷茂雄、山崎浩則、江口勝美、佐々木均：高コレステロール血症合併耐糖能異常患者における動脈硬化症危険因子の管理の現状、第 11 回日本医療薬学会年会講演要旨集、p99、東京（2001）
12. 中嶋幹郎、福地弘充、小嶺嘉男、小笠原正良、早野元信、矢野捷介、川上 茂、西田孝洋、中村純三、佐々木均：アミオダロンの血中濃度に及ぼす体脂肪量

の影響、第 11 回日本医療薬学会年会講演要旨集、p104、東京 (2001)

13. 嶺 豊春、真弓大助、本村昌子、川崎博文、佐々木均、平瀧洋一、上平 憲：
長崎大学医学部附属病院における 10 年間の注射用抗生物質の使用状況、第 11
回日本医療薬学会年会講演要旨集、p142、東京 (2001)
14. 龍 恵美、樋口則英、小笠原正良、佐々木均、野村昌代、片山一郎：シクロ
スポリンの吸収における食事の影響 - ネオール投与にて吸収不良が疑われ
た症例、第 11 回日本医療薬学会年会講演要旨集、p171、東京 (2001)
15. 西田孝洋、川上 茂、向 高弘、藤原里恵、児玉幸修、亀之園学、堀本知美、
中村純三、中嶋幹郎、佐々木均、栄田敏之：臓器表面からの吸収を利用した
新規投与形態における臓器内局所への薬物ターゲティング能の評価、第 16 回
日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S116-S117、神戸 (2001)
16. 小林加寿子、川上 茂、向 高弘、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木
均：胃漿膜表面からの吸収による 5-fluorouracil の胃局所選択的送達法の開発、
第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S174、神戸 (2001)
17. 久保田隆幸、川上 茂、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均、栄田
敏之：肝臓表面からの薬物吸収を利用した肝局所選択的薬物送達における新
規投与方法の開発 - 臨床応用に向けた製剤化に対する基礎的検討 - 、第 16 回日
本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S220、神戸 (2001)
18. 久満暁子、川上 茂、西田孝洋、向 高弘、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：
小腸漿膜からの高分子化合物 FITC-dextran の吸収性 - 腹腔内投与後の薬物体
内動態の再構築 - 、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、
S268、神戸 (2001)
19. 岡崎円香、川上 茂、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均、栄田敏之：
低体温療法時において影響を受ける薬物の体内移行過程の解明、第 16 回日本
薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S305、神戸 (2001)
20. 坂本一樹、保坂真利央、中嶋幹郎、貝原宗重、谷山紘太郎、佐々木均：市販
点眼剤の家兎角膜上皮バリアー能に及ぼす影響 - 電気生理学的解析 - 、第 16
回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S306、神戸 (2001)
21. 友成正英、北原隆志、中嶋幹郎、佐々木均、阪中浩二、河津剛一、川上 茂、
西田孝洋、中村純三：白色家兎における 遮断薬ブナゾシン点眼時の
pharmacokinetics-pharmacodynamics (PK-PD) model の確立、第 16 回日本薬物
動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S310、神戸 (2001)
22. 北原隆志、松田淳一、平瀧洋一、中嶋幹郎、佐々木均：多チャンネル電極式
溶存酸素測定装置を用いた薬剤感受性測定の検討、第 49 回日本化学療法学会
西日本支部総会、日本化学療法学会雑誌 49 Supplement-B、p42、名古屋 (2001)
23. 原田文香、川上 茂、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：眼科領域
における遺伝子治療の基盤となるカチオン性リポソームを用いた in vivo 遺
伝子導入法の開発、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p71、熊本
(2001)

- 24.手嶋無限、川上 茂、西田孝洋、中村純三、北原隆志、中嶋幹郎、佐々木均：
化学修飾を利用したリポソームからのプレドニゾロンの放出制御に関する研
究、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p98、熊本（2001）
- 25.児玉幸修、下村真代、西田孝洋、川上 茂、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：
肝臓表面投与の癌化学療法への応用 - 5-fluorouracil の肝臓内動態 - 、第 18 回
日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p135、熊本（2001）

特記事項

日本薬剤師研修センター指導薬剤師

長崎県病院薬剤師会会長

長崎県薬剤師会副会長

長崎県薬事審議会委員

長崎県薬種商審査委員会委員

【過去の研究業績総数】

原著論文	（欧文）	106 編	（邦文）	5 編
総説	（欧文）	2 編	（邦文）	2 編
著書	（欧文）	1 編	（邦文）	4 編
紀要・その他	（欧文）	1 編	（邦文）	4 編
特許		2 件		

(講座) 医療薬学
(氏名) 中嶋幹郎

(研究室) 治療薬剤学
(職 名) 助教授

研究テーマ

1. 薬物の体内動態制御と処方最適化に関する研究
2. マイクロダイアリシス法を用いた薬物動態評価法に関する研究
3. ドラッグデリバリーシステムの開発に関する研究
4. 薬物治療の最適化と薬剤の適正使用に関する研究
5. 生体膜の薬物透過性と電気生理学的研究

原著論文

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. S. Kawakami, K. Nishida, T. Mukai, K. Yamamura, J. Nakamura, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki : Controlled release and ocular absorption of tilisolol utilizing ophthalmic insert-incorporated lipophilic prodrugs, *J. Control. Release*, **76 (3)**, 255-263 (2001)
2. S. Kawakami, K. Yamamura, T. Mukai, K. Nishida, J. Nakamura, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki : Sustained ocular delivery of tilisolol to rabbits after topical administration or intravitreal injection of lipophilic prodrug incorporated in liposomes, *J. Pharm. Pharmacol.*, **53 (8)**, 1157-1161 (2001)
3. K. Nishida, Y. Yoshida, T. Mukai, S. Kawakami, T. Sakaeda, M. Nakashima, H. Sasaki, J. Nakamura : Effect of instillation method on the absorption of phenolsulphonphthalein as a model drug from the liver and small intestinal serosal surface in rats, *J. Pharm. Pharmacol.*, **53 (10)**, 1341-1346 (2001)
4. S. Kawakami, K. Nishida, T. Mukai, K. Yamamura, T. Sakaeda, J. Nakamura, M. Nakashima, H. Sasaki : Ocular absorption behavior of palmitoyl tilisolol, an amphiphilic prodrug of tilisolol, for ocular drug delivery, *J. Pharm. Sci.*, **53 (10)**, 1341-1346 (2001)

B 邦文

(B-d) 紀要、その他

1. 中嶋幹郎 : 臨床上問題となる有害な薬物相互作用、*ファルマシア*, **37 (10)**, 927-928 (2001)

学会発表

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Y. Ohya, H. Oue, T. Ouchi, K. Ichinose, M. Nakashima, H. Sasaki, T. Kanematsu : Cell specific antitumor activity of dextran carrying cisplatin and antennary

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 川上 茂、堀本和美、西田孝洋、向 高弘、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：体内及び腎臓内分布の制御を目的とした 5-fluorouracil の腎臓表面投与、日本薬剤学会第 16 年会講演要旨集、p136、東京 (2001)
2. 中嶋幹郎、中野幸助、小笠原正良、早野元信、矢野捷介、川上 茂、西田孝洋、中村純三、佐々木均：アミオダロンの体内動態に及ぼす体脂肪率の影響、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 3、p94、札幌 (2001)
3. 北原隆志、安田晋也、松田淳一、平潟洋一、上平 憲、一瀬浩郎、中嶋幹郎、佐々木均：多チャンネル電極式溶存酸素測定装置を用いた薬剤感受性測定の検討、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 3、p135、札幌 (2001)
4. 岩下淳二、中嶋幹郎、佐々木均、児玉靖司、渡邊正己：フリーラジカルによる細胞障害作用に対する高脂血症治療薬の防御効果に関する研究、日本薬学会第 121 年会講演要旨集 4、p157、札幌 (2001)
5. 北原隆志、安田晋也、松田淳一、小山奈緒、平潟洋一、上平 憲、一瀬浩郎、中嶋幹郎、佐々木均：DOX-96 を用いた細菌薬剤感受性測定の検討 - その 2 - 、第 5 回多目的酸素電極装置研究会学術集会抄録、p10、つくば (2001)
6. 大矢裕一、永富和哉、大内辰郎、一瀬浩郎、中嶋幹郎、佐々木均、兼松隆之：クレスタ型糖鎖を認識素子としたシスプラチン担持ポリエチレングリコールの肝細胞指向性細胞障害活性、第 30 回医用高分子シンポジウム要旨集、p35、東京 (2001)
7. 北原隆志、小笠原正良、樋口則英、中嶋幹郎、中嶋誠一、岩松洋之、相川康博、佐々木均：調剤ミス防止システムの導入状況調査、第 65 回九州山口薬学大会講演要旨集、p21、山口 (2001)
8. 小嶺嘉男、北原隆志、中坊由起子、濱本知之、中嶋幹郎、小笠原正良、佐々木均：免疫抑制剤の血中濃度測定値に及ぼす抗凝固剤の影響 - ヘパリンと EDTA の比較 - 、第 65 回九州山口薬学大会講演要旨集、p108、山口 (2001)
9. 中村伸理子、鶴丸雅子、永原直子、平井正巳、中嶋幹郎、小笠原正良、佐々木均、河野 茂：長崎大学病院における治験コーディネーター業務の現状とその評価、第 65 回九州山口薬学大会講演要旨集、p126、山口 (2001)
10. 中嶋幹郎、福地弘充、小嶺嘉男、小笠原正良、早野元信、矢野捷介、川上 茂、西田孝洋、中村純三、佐々木均：アミオダロンの血中濃度に及ぼす体脂肪量の影響、第 11 回日本医療薬学会年会講演要旨集、p104、東京 (2001)
11. 西田孝洋、川上 茂、向 高弘、藤原里恵、児玉幸修、亀之園学、堀本知美、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均、栄田敏之：臓器表面からの吸収を利用した新規投与形態における臓器内局所への薬物ターゲティング能の評価、第 16 回

- 日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S116-S117、神戸（2001）
12. 小林加寿子、川上 茂、向 高弘、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：胃漿膜表面からの吸収による 5-fluorouracil の胃局所選択的送達法の開発、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S174、神戸（2001）
 13. 久保田隆幸、川上 茂、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均、栄田敏之：肝臓表面からの薬物吸収を利用した肝局所選択的薬物送達における新規投与方法の開発 - 臨床応用に向けた製剤化に対する基礎的検討 - 、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S220、神戸（2001）
 14. 久満暁子、川上 茂、西田孝洋、向 高弘、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：小腸漿膜からの高分子化合物 FITC-dextran の吸収性 - 腹腔内投与後の薬物体内動態の再構築 - 、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S268、神戸（2001）
 15. 岡崎円香、川上 茂、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均、栄田敏之：低体温療法時において影響を受ける薬物の体内移行過程の解明、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S305、神戸（2001）
 16. 坂本一樹、保坂真利央、中嶋幹郎、貝原宗重、谷山紘太郎、佐々木均：市販点眼剤の家兎角膜上皮バリアー能に及ぼす影響 - 電気生理学的解析 - 、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S306、神戸（2001）
 17. 友成正英、北原隆志、中嶋幹郎、佐々木均、阪中浩二、河津剛一、川上 茂、西田孝洋、中村純三：白色家兎における 遮断薬ブナゾシン点眼時の pharmacokinetics-pharmacodynamics (PK-PD) model の確立、第 16 回日本薬物動態学会年会、薬物動態 16 Supplement、S310、神戸（2001）
 18. 北原隆志、松田淳一、平瀧洋一、中嶋幹郎、佐々木均：多チャンネル電極式溶存酸素測定装置を用いた薬剤感受性測定の検討、第 49 回日本化学療法学会西日本支部総会、日本化学療法学会雑誌 49 Supplement-B、p42、名古屋(2001)
 19. 原田文香、川上 茂、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：眼科領域における遺伝子治療の基盤となるカチオン性リポソームを用いた in vivo 遺伝子導入法の開発、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p71、熊本（2001）
 20. 手嶋無限、川上 茂、西田孝洋、中村純三、北原隆志、中嶋幹郎、佐々木均：化学修飾を利用したリポソームからのプレドニゾロンの放出制御に関する研究、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p98、熊本（2001）
 21. 児玉幸修、下村真代、西田孝洋、川上 茂、中村純三、中嶋幹郎、佐々木均：肝臓表面投与の癌化学療法への応用 - 5-fluorouracil の肝臓内動態 - 、第 18 回日本薬学会九州支部大会講演要旨集、p135、熊本（2001）

研究費取得状況

1. 「肝臓表面からの吸収を利用した癌病巣部位への制癌剤の選択的送達と滞留性の向上」日本学術振興会、基盤研究（C）、分担、230 万円

特記事項

日本医療薬学会認定薬剤師
日本薬剤師研修センター指導薬剤師
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師
長崎県病院薬剤師会理事（教育担当）
長崎県病院薬剤師会生涯教育委員会委員長

【過去の研究業績総数】

原著論文	（欧文）	26 編	（邦文）	11 編
総説	（欧文）	1 編	（邦文）	0 編
著書	（欧文）	1 編	（邦文）	1 編
紀要・その他	（欧文）	1 編	（邦文）	9 編

(講座)薬学研究科 (研究室)熱帯医学研究所感染症予防治療研究分野

(氏名)大石和徳 (職名)助教授

[研究テーマ]

1. 慢性下気道感染症における気道の炎症病態に関する研究。
2. 急性肺傷害・炎症終息機構の研究。
3. 易肺炎発症機構および気道感染免疫誘導に関する研究。
4. HIV 感染病態と日和見感染症の治療に関する研究。

原著論文

A.欧文

A-a. 原著論文

1. H. Masaki, H. Watanabe, S. Awa, D. H. Yoshimine, N. Asokithomi, R. K. Matsumoto, K. Ahmed, K. Watanabe, K. Oishi, T. Nagatake. Sign reduction of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* Bacteremia in geriatric wards after introduction of infection control measures against nosocomial infections *Intern Med* **40**:214-220(2001).
2. H. Watanabe, Masaki, N. Asoh, K. Watanabe, K. Oishi, M. A. Fu S. Kobayashi, A. Sato, T. Nagatake. Emergence and spread of low-mupirocin resistance in methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* isolated from a community hospital in Japan. *Sp Infect*. **47**:294-300, (2001).
3. H. Yoshimine, K. Oishi, F. Mubiru, N. Alwoga, H. Takahashi, H. Amano, P. Ombasi, K. Watanabe, J. M. M. T. u. A. K. A. M. Shimada, R. Mugerwa, T. Nagatake. Community-acquired pneumonia in Ugandan adults: short-term parenteral ampicillin therapy for bacterial pneumonia. *Am J Trop Med Hyg* **64**:172-177(2001).
4. K. Morimoto, H. N. A. M. F. Sonoda M. Bab M. Senba, H. Imose, H. Yamamoto, T. Ii, K. Oishi, T. Nagatake. Alveolar macrophages phagocytose apoptotic neutrophils produce hepatocyte growth factor during bacterial pneumonia in mice. *Am J Resp Cell Mol Biol* **22**: 63-615(2001).
5. Ishikawa H, Ishida K, Senjyu H, Yamamoto M. Effect of pulmonary

- rehabilitation for patients with chronic pulmonary diseases with different types of ventilatory defects: Relationships between pulmonary function parameters and exercise tolerance. *Acta. Medica. Nagasakiensis* **46**: 49-53, (2001).
6. H. Watanabe, H. Masaki, N. Asoh, K. watanabe, K. Oishi, S. Kobayashi, A. Sato and T. Nagatake. Enterocolitis caused by Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* Molecular characterization of respiratory and digestive tract isolates. *Microbiol. Immunol.* **45**: 62-634 (2001).
7. Ogushi K, Wada A, Niidome T, Mori N, Oishi K, Nagatake T, Takahashi T, Takahashi A, H. Hojo, S. Makino, Y. Nakahara, M. Osaki, T. Hirayama, III. Aoyama K, Kurazono, J. Moss, and T. Hirayama. *Salmonella enteritidis* FliC (a flagella filament protein) induces human beta-defensin-2 mRNA production by Caco-2 cells. *J. Biol. Chem.* **276**: 3521-526 (2001).
8. S. Satoh, K. Oishi, A. Iwagaki, S. Senda, A. Akaike, M. Akaiya, N. Mukaida, K. Matsushima, T. Atsuta. Dexamethasone impairs pulmonary defense against *Pseudomonas aeruginosa* through suppressing iNOS gene expression and peroxynitrite production in mice. *Clin. Exp. Immunol.* **126**: 266-273 (2001).
9. H. Watanabe, H. Masaki, N. Asoh, K. Watanabe, K. Oishi, S. Kobayashi, A. Sato, R. Sugita, T. Nagatake. Low concentrations of immunoprecipitated pharynx following intranasal application may contribute to mucin resistance in methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *J. Clin. Microb.* **39**: 3775-7, 2001.

B.邦文

(B-a) 原著論文

1. 真崎宏則、吉嶺裕之、出川聡、麻生憲史、田尾 操、松本慶蔵、井口和幸、渡辺 浩、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅。院内肺炎の発症予防におけるピドンヨードによる気道清浄化の有用性。感染症学雑誌。 **75**:97-102 (2001)。
2. 真崎宏則、麻生憲史、田尾 操、池田秀樹、出川聡、井口和幸、松本慶蔵、渡辺貴和雄、渡辺 浩、大石和徳、永武 毅。院内感染対策継続中の老人病棟

MRSA 専用室における患者および環境からのグラム陰性菌の検出状況。感染症学雑誌。75:97-102 (2001).

3. 麻生憲史、真崎宏則、渡辺貴和雄、坂本 翔、田尾 操、貝田繁雄、松本慶蔵、渡辺 浩、大石和徳、永武 毅。老人病棟において分離された気道由来 *Staphylococcus aureus* の薬剤感受性に関する検討。日本化学療法学会雑誌。49: 82-88, (2001).

4. 光嶋博昭、真崎宏則、大石和徳、赤嶺晋治、岡 忠之、芦沢和人、林 邦昭、林 徳真吉、永武 毅。喀血を繰り返した原発性気管支動脈蔓状血管腫。日本呼吸器学会雑誌。39:135-9(2001).

5. 中川喜代子、大石和徳、天野秀明、山領 豪、渡辺貴和雄、千馬正敬、衛藤正雄、永武毅。劇症型 A 群溶連菌感染症(toxic shock-like syndorome;TSLs) の 1 例：その炎症性サイトカインの動態。炎症・再生。21:593-8 2001).

1.

(学会発表)

A.国際学会

(A-b)一般講演

1. Kazunori Oishi, Hiroyuki Yoshimine, Kamruddin Ahmed, Kiwao Watanabe, Norichika Aso, Hideaki Amano, Hiroshi Watanabe, Roy Mugerwa, Keizo Matsumoto, Tsuyoshi Nagatake : Comparative clinical features and etiologies of community-acquired pneumonia among adults between in Uganda and Japan. US-Japan Cooperative Medical Science Program Acute Respiratory Infections (ARI) Panel. Jan 24-26,2001. Okinawa

B.国内学会

(B-a)

シンポジウム

1. 感染症治療からみたマクロライド長期治療の実際：

好中球とサイトカイン. 大石和徳. 第 75 回日本感染症学会総会。

奈良市, 2001 年 3 月 29-30 日。

2. 熱帯地における急性呼吸器感染症の諸問題. 大石和徳. 第 42 回日本熱帯

医学会総会。 2001年9月23-24日、東京都

B-b)一般講演

- 1.吉嶺裕之、大石和徳、渡辺貴和雄、永武 毅：薬剤耐性肺炎球菌による市中肺炎の現状 日本とウガンダとの比較 . 第75回日本感染症学会 . 2001年3月29-30日 . 奈良市
- 2 . 渡辺 浩、麻生憲史、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅、小林 忍、佐藤晃嘉、松本慶蔵、杉田麟也：ムピロシン軟膏鼻腔内塗布後の効果についての検討 . 第75回日本感染症学会 . 2001年3月29-30日 . 奈良市
- 3 . 出川 聡、山領 豪、鬼塚智子、右近智雄、川添金雄、真崎宏則、大石和徳、永武 毅、上田竜生、野口英太郎、力富直人、山下広志：98～00年のインフルエンザワクチン1回接種者でのA型インフルエンザを中心としたインフルエンザワクチン無効症例の検討 . 第75回日本感染症学会 . 2001年3月29-30日 . 奈良市
- 4 . 大石和徳、高橋 淳、永武 毅：塩酸吸引による緑膿菌性肺炎の増悪効果に関する研究 . 第75回日本感染症学会 . 2001年3月29-30日 . 奈良市
- 5 . 吉嶺裕之、大石和徳、石田正之、渡辺貴和雄、永武 毅：ウガンダ共和国における成人市中肺炎の再発に対するHIV感染の影響 . 第41回日本呼吸器学会総会 . 2001年4月4日～6日 . 東京都
- 6 . 天野秀明、森本浩之輔、黒木麗喜、苑田文成、伊井 強、大石和徳、永武 毅：急性肺炎症の終息におけるMCP-1の役割 . 第41回日本呼吸器学会総会 . 2001年4月4日～6日 . 東京都
- 7 . 森本浩之輔、天野秀明、苑田文成、馬場基男、伊井 強、大石和徳、永武 毅：急性肺炎症の終息と組織修復におけるAMの役割 . 第41回日本呼吸器学会総会 . 2001年4月4日～6日 . 東京都
- 8 . 山口祐子、大石和徳、斎藤麻理子、永武 毅：緑膿菌由来の肺上皮細胞における分泌型IL-8誘導因子の検討 . 第41回日本呼吸器学会総会 . 2001年4月4日～6日 . 東京都
- 9 . 大石和徳、山領 豪、吉嶺裕之、土橋佳子、天野秀明、永武 毅：マクロファージによるアポトーシス好中球の貪食に対するマクロライド系抗菌薬の効果 . 第41回日本呼吸器学会総会 . 2001年4月4日～6日 . 東京都
- 10 . 山領 豪、大石和徳、吉嶺裕之、土橋佳子、天野秀明、永武 毅：マ

クロファージによる気道のアポトーシス好中球の貪食機構の検討．第 41 回日本呼吸器学会総会．2001 年 4 月 4 日～6 日．東京都

- 1 1 . 麻憲史、真崎宏則、渡辺 浩、鬼塚智子、山領 豪、出川 聡、大石和徳、永武 毅：一般病棟及び療養型病棟における *Moraxella* (*Branhamella*) *catarrhalis* 院内流行の分子疫学的解析．第 98 回日本内科学会．2001 年 4 月 12 日～14 日．横浜市
- 1 2 . 大石和徳、佐藤哲史、永武 毅、岩垣明隆：ステロイド投与による易肺炎発症と iNOS の発現抑制．第 98 回日本内科学会．2001 年 4 月 12 日～14 日．横浜市
- 1 3 . 渡辺 浩、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅、小林 忍：タイ国北部地域におけるペニシリン耐性肺炎球菌の現状と血清型別についての検討．第 49 回日本化学療法学会総会．2001 年 5 月 30-31 日．横浜市
- 1 4 . 麻憲史、真崎宏則、渡辺 浩、山領 豪、出川 聡、下釜誠司、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅：*Moraxella* (*Branhamella*) *catarrhalis* 呼吸器感染症における院内流行株と外来患者分離株の分子疫学的解析．第 49 回日本化学療法学会総会．2001 年 5 月 30-31 日．横浜市
- 1 5 . 渡辺貴和雄、渡辺 浩、大石和徳、永武 毅、小林 忍：タイ国北部地域において分離されたインフルエンザ菌の各種薬剤感受性成績．第 49 回日本化学療法学会総会．2001 年 5 月 30-31 日．横浜市
- 1 6 . 大石和徳、佐藤哲史、永武 毅、岩垣明隆：ステロイド長期大量投与による易肺炎発症機構．第 21 回気道分泌研究会．2001 年 6 月 2 日．東京都
- 1 7 . 齋藤桃代、渡辺 浩、麻生憲史、天野秀明、森本浩之輔、吉嶺裕之、鬼塚正三郎、大石和徳、永武 毅：抗 GM-CSF 抗体を証明し得た特発性肺胞蛋白症の一例．第 46 回日本呼吸器学会九州地方会．2001 年 6 月 16 日．玉名市
- 1 8 . 渡辺秀樹、石田正之、田代 誠、武田宏之、渡辺 浩、大石和徳、永武 毅：喀血を繰り返し血管造影にて気管支動脈瘤を認めた一例．第 46 回日本呼吸器学会九州地方会．2001 年 6 月 16 日．玉名市
- 1 9 . 齋藤伸一、渡辺 浩、渡辺貴和雄、岡 忠之、千場正敬、大石和徳、永武 毅：内科的治療に苦慮し肺切除に到った *Mycobacterium chelonae* 肺感染症の一例．第 46 回日本呼吸器学会九州地方会．2001 年 6 月 16 日．玉

名市

- 20 . 藤麻理子、大石和徳、和田昭裕、平山壽哉、永武 毅 : Burkholderia pseudomallei による肺上皮細胞の IL-8 産生誘導・第 42 回日本熱帯医学大会 . 2001 年 9 月 23-24 日 . 東京都
- 21 . 麻生憲史、渡辺 浩、小林 忍、渡辺貴和雄、大石和徳、Weerayut Kositsakulchai、Tippaya Sanchai、Sumpun Kahintapong、Banyong Khantawa、Prasit Tharavichitkul、Thira Sirisanta : タイ国北部地域における HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の臨床的検討 . 第 42 回日本熱帯医学大会 . 2001 年 9 月 23-24 日 . 東京都
- 22 . 藤義高、森本浩之輔、渡辺 浩、大石和徳、永武 毅、隆杉正和、林徳真吉 : シェーグレン症候群に BOOP を併発した症例に関する検討 . 第 2 回長崎炎症肺疾患研究会 . 2001 年 10 月 26 日 . 長崎市
- 23 . 大石和徳 : 熱帯地における急性細菌性呼吸器感染症 (ARI) とその重要性 . 第 42 回日本熱帯医学大会 . 2001 年 9 月 23-24 日 . 東京都
- 24 . 池田秀樹、鈴木 基、黒木麗喜、大石和徳、永武 毅 : VATS によって診断し得た多発肺内リンパ節の一例 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 25 . 石田正之、尾崎方子、本田章子、大石和徳、永武 毅 : 喀痰から malignant lymphoma cell が検出された一症例 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 26 . 鉢 基、池田秀樹、黒木麗喜、大石和徳、永武 毅 : 静脈脱血送血で経皮的心肺補助を開始後に著しい利尿亢進を認めた急性呼吸窮迫症候群の一例 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 27 . 嶺 豪、大石和徳、吉嶺裕之、天野秀明、永武 毅 : 肺胞マクロファージによる気道のアポトーシス好中球の貪食機構の検討 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 28 . 本田章子、小林国彦、酒井 洋、米田修一、野口行雄、大石和徳、永武 毅 : 肺癌に M.foortuitum による肺感染症を合併した一例 . 第 53 回日

本結核病学会九州地方会総会 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市

- 29 . 添金雄、真崎宏則、鬼塚智子、古本郎嗣、大石和徳、永武 毅、大谷義夫、角 勇樹、新 謙一、吉澤靖之：イソシアートが原因と考えられた塗装業関連過敏性肺臓炎の一例 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 30 . 森浩之輔、天野秀明、黒木麗喜、苑田文成、大石和徳、永武 毅：ヒト肺胞マクロファージの HGF 産生に関する検討 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 31 . 黒麗喜、天野秀明、森本浩之輔、苑田文成、大石和徳、永武 毅：高血糖マウスにおける LPS 投与時の BALF 中の HGF 産生の検討 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 32 . 黒麗喜、天野秀明、森本浩之輔、苑田文成、大石和徳、永武 毅：夜間の睡眠時呼吸障害を背景に II 型呼吸不全の増悪を認めたマルファン症候群の一例 . 第 53 回日本結核病学会九州地方会総会 . 第 47 回日本呼吸器学会九州地方会総会 . 2001 年 11 月 15-16 日 . 熊本市
- 33 . 瀧桃代、渡辺 浩、吉嶺裕之、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅：フルコナゾールとフルトシンが有効であった髄膜脳炎を合併した肺クリプトコッカス症の一例 . 第 71 回日本感染症学会西日本地方会総会 . 2001 年 11 月 29-30 日 . 岡山市
- 34 . 藤哲史、小林 忍、佐藤晃嘉、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅：健康成人に発症した肺炎球菌性髄膜炎の一症例 . 第 71 回日本感染症学会西日本地方会総会 . 2001 年 11 月 29-30 日 . 岡山市
- 35 . 原義高、黒木麗喜、大石和徳、永武 毅、岡田晴恵、佐藤 威、田代真人：高校生に発症した麻疹脳炎の一例 . 第 71 回日本感染症学会西日本地方会総会 . 2001 年 11 月 29-30 日 . 岡山市
- 36 . 栗伸一、黒木麗喜、大石和徳、永武 毅、野口英太郎、岡田晴恵、佐藤 威、田代真人：長崎市内の高校で流行した麻疹患者の臨床的検討 . 第 71 回日本感染症学会西日本地方会総会 . 2001 年 11 月 29-30 日 . 岡山市

37. 川健司、中川喜代子、土橋佳子、斎藤若奈、山領 豪、池田 徹、出川 聡、大石和徳、永武 毅：慢性呼吸器疾患患者を対象としてインフルエンザワクチン接種前後のペア血清抗体価（1999/2000シーズン、2000/2001シーズン）の検討．第71回日本感染症学会西日本地方会総会．2001年11月29-30日．岡山市
38. 苅郎嗣、真崎宏則、鬼塚智子、出川 聡、山領 豪、下釜誠司、高橋秀彦、星野和彦、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅：Coryneform CDC group ANF による市中肺炎と考えられた一例．第71回日本感染症学会西日本地方会総会．2001年11月29-30日．岡山市
39. 池 徹、吉田俊昭、川内安二、大石和徳、永武 毅：当院における血液培養分離菌の検討．第71回日本感染症学会西日本地方会総会．2001年11月29-30日．岡山市
40. 倉本剛史、吉嶺裕之、田代尚樹、大石和徳、永武 毅：Interferon- 吸入療法が有効であった多剤耐性結核の一症例．第71回日本感染症学会西日本地方会総会．2001年11月29-30日．岡山市
41. 藤憲史、渡辺 浩、小林 忍、渡辺貴和雄、大石和徳、永武 毅：タイ国北部地域における HIV 陽性患者に合併した市中呼吸器感染症の臨床的検討．第49回日本化学療法学会西日本支部総会．2001年12月6-7日．名古屋市

（学会役員）

日本呼吸器学会評議員、日本感染症学会評議員、日本熱帯医学会評議員、日本炎症・再生学会評議員

（研究費取得状況）

科学研究費基盤(B); 「DNA array によるアフリカの HIV 感染症における免疫病態に関する研究」平成13年度350万円

〔過去の研究業績総数〕

原著論文（欧文）51編 （邦文）132編
総説（欧文）0編 （邦文）

著書（欧文）0（邦文）

特許 0件